

北海道立埋蔵文化財センター  
重要遺跡確認調査報告書

第12集

岩内町 東 山 1 遺 跡  
湧別町 シブノツナイ竪穴住居群

平成28年度  
北海道立埋蔵文化財センター



# 北海道立埋蔵文化財センター 重要遺跡確認調査報告書

## 第12集

岩内町 東 山 1 遺 跡  
湧別町 シブノツナイ竪穴住居群

平成28年度  
北海道立埋蔵文化財センター





1 道指定有形文化財「岩内東山円筒文化遺跡出土の遺物」 土器集合



2 土器集合（縄文時代前期後半）



3 土器集合（縄文時代中期前半）



道指定有形文化財「岩内東山円筒文化遺跡出土の遺物」 石器集合



1 シブノツナイ 竪穴住居群空撮 北西から



2 シブノツナイ 竪穴住居群空撮 北西から

口絵 4



1 シブノツナイ 竪穴住居群空撮 南東から



2 シブノツナイ 竪穴住居群空撮 北西から



シブノツナイ竪穴住居群空撮 真上から



1 シブノツナイ竪穴住居群調査状況 北東から



2 シブノツナイ竪穴住居群調査状況 東から

# 例 言

- 1 本書は平成28年度に北海道立埋蔵文化財センター指定管理者 公益財団法人北海道埋蔵文化財センターが実施した重要遺跡確認調査の報告書（第12集）である。
- 2 本報告書では岩内町東山1遺跡、湧別町シブノツナイ竪穴住居群についての調査成果を所収した。
- 3 本書の執筆はⅠ章を坂本尚史（第1調査部普及活用課）と藤井浩（平成26・27年度重要遺跡確認調査担当者）が、Ⅱ章を藤井と坂本が、Ⅲ章を坂本が行い、全体の編集は坂本尚史が担当した。
- 4 写真撮影及び図版作成は中山昭大（第1調査部第1調査課）が行った。また、空撮は(株)シン技術コンサルおよび吉田祐吏洋氏の協力を得た。
- 5 Ⅱ章岩内町東山1遺跡掲載遺物の縮尺は、実測図版が1：4（土器のみ）、写真図版が土器を1：3、剥片石器・石斧を1：2、礫石器を1：3とした。石器は写真図版にのみ掲載した。
- 6 基準点測量、およびトータルステーションシステムや遺跡管理システムなど測量機材の借用については(株)シン技術コンサルに委託した。現地では作業員への機材操作指導などの協力も得た。
- 7 本報告書は年次報告の性格上、整理途中の成果報告を含むため、前年度報告に誤りや変更等がある場合については本報告にあらためて訂正し掲載、報告した。
- 8 調査・報告にあたり、下記の諸機関及び各位のご指導・ご協力をいただいた（順不同・敬称略）。

北海道教育庁生涯学習部文化財・博物館課

北海道大学 小杉 康 高瀬克範

東京大学 熊木俊朗

岩内町教育委員会 中村輝幸 川上清輝

岩内町郷土館 坂井弘治 枝元るみ

湧別町教育委員会 牧野裕司 岡崎公俊 梅津茂樹 田中 仁 中島一之 林 勇介

湧別町農業協同組合 内山裕行

標津町 梶田光明

標津町教育委員会 小野哲也

紋別市立博物館 佐藤和利

網走市立郷土博物館 米村 衛

斜里町立博物館 松田 功 平河内毅

オホーツクミュージアムえさし 高畠孝宗

北見市教育委員会 ところ遺跡の森 山田 哲

釧路市埋蔵文化財センター 石川 朗

根室市歴史と自然の資料館 猪熊樹人

# 目 次

口絵

例言

目次

I	重要遺跡確認調査について	1
1	重要遺跡確認調査	1
2	今年度の調査について	1
II	岩内町東山1遺跡の調査	3
1	調査の概要	3
(1)	調査要項	3
(2)	調査体制	3
(3)	調査の経緯	3
(4)	関連資料調査	3
2	調査成果の概要	8
3	出土遺物	10
(1)	東山15区	10
(2)	東山16-1・2区	16
(3)	「第2地点」地区	17
(4)	「史跡」地区	19
4	調査成果と課題	19
(1)	遺跡の範囲	19
(2)	遺跡の時期	20
(3)	遺構群と集落構成	20
(4)	盛土遺構と集落構成	21
III	湧別町シブノツナイ竪穴住居群の調査	25
1	調査の概要	25
(1)	調査要項	25
(2)	調査体制	25
(3)	調査の経緯	25
(4)	調査の経過	27
2	遺跡周辺の環境	27
(1)	遺跡の立地	27
(2)	周辺の遺跡	27
3	調査の方法	28
(1)	調査範囲	28

(2) 測量調査	28
(3) 竪穴の新規確認調査	30
(4) 写真撮影	36
4 調査の成果	36
(1) 測量成果	36
(2) 現地調査での確認事項	36
(3) 竪穴の属性観察	37
(4) 調査成果と課題	42
写真図版	55
報告書抄録	77

## 挿図目次

図Ⅰ-1 国、道指定史跡の位置と重要遺跡確認調査	1
図Ⅱ-1 遺跡位置図	4
図Ⅱ-2 発掘区位置図	5
図Ⅱ-3 東山1遺跡調査成果概要図	7
図Ⅱ-4 東山15区・16区の土器	11
図Ⅱ-5 東山15区・「第2地点」地区の土器	15
図Ⅱ-6 「第2地点」地区の土器	18
図Ⅲ-1 遺跡の位置と周辺の地形	26
図Ⅲ-2 測量基準点の位置	29
図Ⅲ-3 竪穴分布範囲と周辺の地形	29
図Ⅲ-4 道指定範囲と竪穴分布	31
図Ⅲ-5 竪穴分布状況	31
図Ⅲ-6 竪穴詳細分布（北東部）	32
図Ⅲ-7 竪穴詳細分布（南東部）	33
図Ⅲ-8 竪穴詳細分布（北西部）	34
図Ⅲ-9 竪穴詳細分布（南西部）	35
図Ⅲ-10 属性別竪穴分布状況(1)	40
図Ⅲ-11 属性別竪穴分布状況(2)	41
図Ⅲ-12 属性別竪穴分布状況(3)	42

## 表目次

表Ⅰ-1 重要遺跡確認調査一覧	2
表Ⅱ-1 調査経緯一覧	6
表Ⅱ-2 出土遺物集計結果	8
表Ⅱ-3 遺構出土遺物集計結果	9

表Ⅱ-4 掲載土器一覧	22
表Ⅱ-5 掲載石器一覧	23
表Ⅲ-1 規模の分類	37
表Ⅲ-2 深さの分類	37
表Ⅲ-3 竪穴属性集計結果	38
表Ⅲ-4 確認竪穴一覧	44

## 写真図版目次

口絵1	1 道指定有形文化財「岩内東山円筒文化遺跡出土の遺物」土器集合
	2 土器集合（縄文時代前期後半）
	3 土器集合（縄文時代中期前半）
口絵2	道指定有形文化財「岩内東山円筒文化遺跡出土の遺物」石器集合
口絵3	1 シブノツナイ竪穴住居群空撮
	2 シブノツナイ竪穴住居群空撮
口絵4	1 シブノツナイ竪穴住居群空撮
	2 シブノツナイ竪穴住居群空撮
口絵5	シブノツナイ竪穴住居群空撮
口絵6	1 シブノツナイ竪穴住居群調査状況
	2 シブノツナイ竪穴住居群調査状況
図版1	東山1遺跡出土 土器(1)
図版2	東山1遺跡出土 土器(2)
図版3	東山1遺跡出土 土器(3)
図版4	東山1遺跡出土 石器(1)
図版5	東山1遺跡出土 石器(2)
図版6	東山1遺跡出土 石器(3)
図版7	東山1遺跡出土 石器(4)

図版 8	東山 1 遺跡出土 石器 (5)	図版15	1 円形・規模極小 竪穴477
図版 9	1 道指定有形文化財「岩内東山円筒文化遺跡出土の遺物」 剥片石器集合		2 円形・規模小 竪穴143
	2 道指定有形文化財「岩内東山円筒文化遺跡出土の遺物」 礫石器集合		3 円形・規模小-中 竪穴114
図版10	シブノツナイ竪穴住居群遠景	図版16	1 円形・規模小-中 竪穴450
図版11	1 シブノツナイ竪穴住居群空撮		2 円形・規模中 竪穴105
	2 シブノツナイ竪穴住居群空撮		3 円形・規模中 竪穴206
図版12	1 東部段丘崖付近の竪穴群	図版17	1 方形・規模小 竪穴486
	2 西部段丘崖付近の竪穴群		2 方形・規模小-中 竪穴286
図版13	1 北部の竪穴群		3 方形・規模小-中 竪穴380
	2 南部防風林内の竪穴群	図版18	1 方形・規模中 竪穴251
図版14	1 竪穴番号確認作業		2 方形・規模中-大 竪穴230
	2 測量実務実習		3 方形・規模中-大 竪穴368
	3 牛と竪穴	図版19	1 方形・規模特大 竪穴223
	4 牛のいる測量調査状況		2 方形・規模特大 竪穴412
	5 測量調査状況 (1)		3 方形・規模超特大 竪穴314
	6 測量調査状況 (2)	図版20	1 多角形・規模中 竪穴350
			2 多角形・規模超特大 竪穴416
			3 柄鏡形・規模中 竪穴189

# I 重要遺跡確認調査について

## 1 重要遺跡確認調査

北海道立埋蔵文化財センターは、北海道教育委員会（以下、道教委）が北海道史をたどる上で重要であるとした遺跡の重要遺跡確認調査を行ってきた。これまでに、平成12年度に小樽市・余市町の西崎山ストーンサークル、13・14年度に奥尻町青苗砂丘遺跡、15・16年度に恵山町（現函館市）恵山貝塚、17～21年度に幌延町・豊富町の音類堅穴群、22・23年度に斜里町朱円周堤墓（道指定史跡「斜里朱円周堤墓及び出土遺物」）、24・25年度は芦別市野花南周堤墓群（道指定史跡「野花南周堤墓群」）の調査を行った。平成26年度からは岩内町東山1遺跡（道指定史跡「岩内東山円筒文化遺跡」）、湧別町シブノツナイ堅穴住居群（道指定史跡「シブノツナイ堅穴住居跡」）の調査に着手した。今年度は岩内東山1遺跡の整理作業とシブノツナイ堅穴住居群の測量調査を行った。東山1遺跡については本報告をもって調査を完了する。

## 2 今年度の調査について

昨年度に続き、本年度も岩内町東山1遺跡及び湧別町シブノツナイ堅穴住居群、2か所の遺跡が調査対象となった。調査の具体的な内容は道教委による「平成26～29年度重要遺跡確認調査実施要領」に基づき、道教委、岩内町、湧別町各教育委員会との打ち合わせにより計画されたものである。

今年度の調査は主に、東山1遺跡平成26・27年度調査資料の整理、シブノツナイ堅穴住居群の測量調査を行った。本報告書（重要遺跡確認調査報告書第12集）では、東山1遺跡の整理結果と、シブノツナイ堅穴住居群での測量成果について報告している。

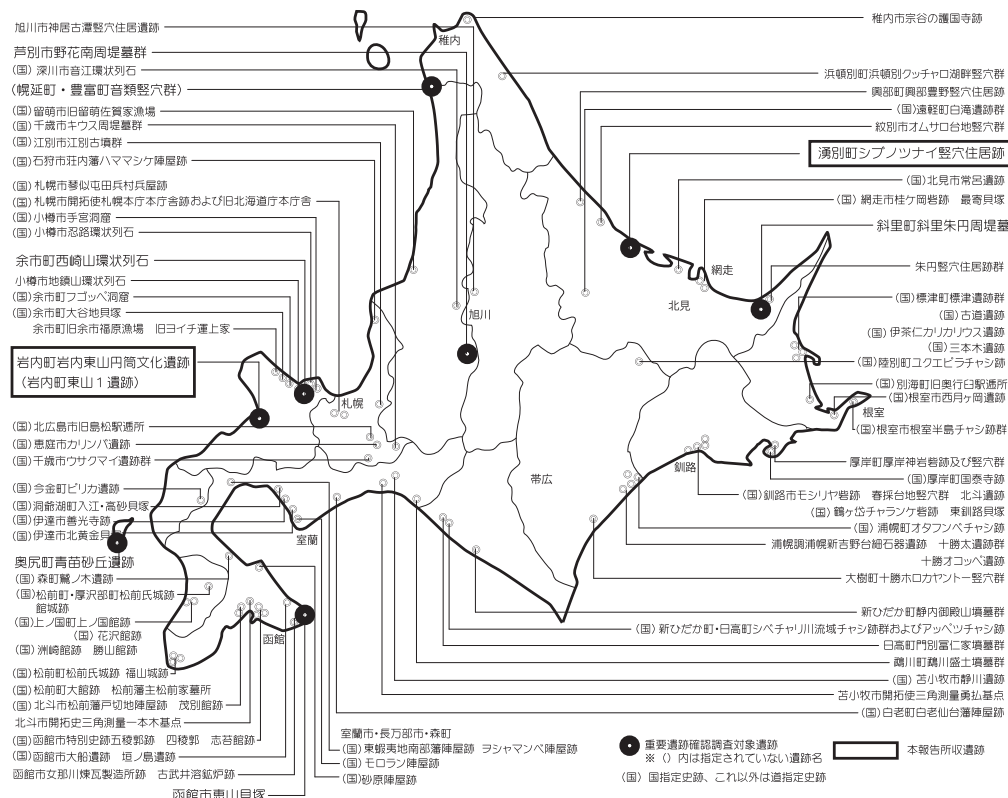


図 I - 1 国、道指定史跡の位置と重要遺跡確認調査

表 I - 1 重要遺跡確認調査一覧

年度	対象遺跡	登録番号	所在地	種別	主な調査方法	調査面積	主な時期	主な遺構	主な出土遺物	掲載報告書
平成12年度	小樽市 余市町 西崎山 ストーン サークル	01203- D-01-64 (小樽市) 01408- D-19-04 (余市町)	小樽市蘭島 余市町栄町	配石 遺構	発掘調査	140㎡	縄文時代 後期	配石遺構	縄文時代後期、晩 期の土器、黒曜石 の剥片	重要遺跡確認 調査報告 書 第1集
平成13年度	奥尻町 青苗砂丘 遺跡	01367- C-07-4	奥尻郡奥尻町 字青苗364・ 368番地	集落跡	発掘調査	90㎡	オホーツク 文化期 擦文文化期	住居跡1軒 土壇1基 貝塚1か所 焼土3か所	オホーツク式土器、 土師器 石器、 石製品 金属製品 骨角器 自然遺物	重要遺跡確認 調査報告 書 第2集
平成14年度		01367- C-07-4	奥尻郡奥尻町 字青苗364・ 368番地	集落跡	発掘調査	90㎡	オホーツク 文化期 擦文文化期	住居跡4軒 墓2か所 貝塚1か所	恵山式土器 オホーツク式土器 土師器及び擦文土器 石器類玉など石製品 骨角製品、金属製品、 自然遺物	重要遺跡確認 調査報告 書 第3集
平成15年度	函館市 恵山貝塚	01202- B-10-35	函館市字恵山 308番地の1 ほか	貝塚	発掘調査	97㎡	統縄文時代 前半	堅穴式建物の可 能性のあるもの 6か所 墓の可能性のある もの4か所 遺構覆土中に形 成された魚骨層 を2か所で確認	土器、石器、骨角器	重要遺跡確認 調査報告 書 第4集
平成16年度			函館市字恵山 308番地の2 ほか	貝塚	発掘調査	169㎡	統縄文時代 前半	盛土遺構(統縄文 時代のもので、厚さ は1mを超える) 堅穴住居跡1か所 土壇2か所 集積1か所 焼土	土器、石器、 骨角製品	重要遺跡確認 調査報告 書 第5集
平成17年度 平成18年度 平成19年度 平成20年度 平成21年度	幌延町・ 豊富町音類 堅穴群	01488(幌 延町)- 01510(豊 富町)- G-09-01	天塩郡幌延町 字浜里188 ほか 国有林174～ 175林班	集落跡	測量調査 踏査	約6km	擦文文化期 アイヌ文化 期	堅穴状の窪み 796か所 チャシ跡3か所	踏査のため出土遺 物はなし。	重要遺跡確認 調査報告 書 第6集 重要遺跡確認 調査報告 書 第7集
平成22年度 平成23年度	斜里町 斜里朱門周 堤墓	01545- I-08-38	斜里郡斜里町 朱門西76番地 1	墳墓	発掘調査	210㎡ (トレンチ 調査面積)	縄文時代 後期	周堤墓2基 (A号、B号)	縄文土器片 ※昭和23、24年度 調査時の出土遺物 の資料化を行う	重要遺跡確認 調査報告 書 第8集
平成24年度 平成25年度	芦別市 野花南 周堤墓群	01216- E-04-021	芦別市野花南 町3256、3257	墳墓	発掘調査	86.5㎡ (トレンチ 調査面積)	縄文時代 後期	周堤墓2基 (1号、2号)	縄文時代後期から 晩期土器片、黒曜 石石器類	重要遺跡確認 調査報告 書 第9集
平成26年度	岩内町 東山1遺跡	01402- D-13-01	岩内郡岩内町 東山15、16-1・ 2番地	集落跡	発掘調査	600㎡ (トレンチ 調査等面 積)	縄文時代 前期 縄文時代 中期	盛土遺構1 堅穴住居跡4 土坑13 柱穴状ビット7 焼土12 (表面確認分を含む)	縄文土器片 (前期から中期) 石器類 (礫石器を主とする)	重要遺跡確認 調査報告 書 第10集
	湧別町 シブノツナイ 堅穴住居群	01216- I-21-35	北海道湧別群 湧別町川西 499-1、499-2 930 722-1 722-2 722-3 720 719 503 502-1、2 714 717 718	集落跡	踏査	139,486㎡ (史跡指定 範囲及び 測量範囲)	擦文文化期	堅穴状の窪み 665か所 ※文献資料による。	なし	
平成27年度	岩内町 東山1遺跡 (道指定史跡 岩内東山円 筒文化遺跡 を含む)	01402- D-13-01	岩内郡岩内町 東山2番地1、 14番地1	集落跡	発掘調査	60㎡ (トレンチ 調査等面 積)	縄文時代 前期 縄文時代 中期	盛土遺構1 土坑6 (いずれも14番 地1)	縄文土器片 (前期から中期) 石器類 (礫石器を主とする)	重要遺跡確認 調査報告 書 第11集
	湧別町 シブノツナイ 堅穴住居群 (道指定史跡 シブノツナイ 堅穴住居跡)	01216- I-21-35	北海道湧別群 湧別町川西 499-1、499-2 930 722-1 722-2 722-3 720 719 503 502-1、2 714 717 718	集落跡	測量調査	139,486㎡ (史跡指定 範囲及び 測量範囲)	統縄文時代 擦文文化期 オホーツク 文化期	大小様々な堅穴 状の窪み435か 所を確認し、位 置計測と139か 所の詳細測量を 行った。	なし	
平成28年度	岩内町 東山1遺跡 (道指定史跡 岩内東山円 筒文化遺跡 を含む)	01402- D-13-01	岩内郡岩内町 東山2番地1、 14番地1	集落跡	整理作業	-	縄文時代 前期 縄文時代 中期	-	なし	重要遺跡確認 調査報告 書 第12集 (本報告書)
	湧別町 シブノツナイ 堅穴住居群 (道指定史跡 シブノツナイ 堅穴住居跡)	01216- I-21-35	北海道湧別群 湧別町川西 499-1、499-2 930 722-1 722-2 722-3 720 719 503 502-1、2 714 717 718	集落跡	測量調査	139,486㎡ (史跡指定 範囲及び 測量範囲)	統縄文時代 擦文文化期 オホーツク 文化期	堅穴527か所を 確認し、詳細測 量と地形測量を 行った。	なし	

## Ⅱ 岩内町東山1遺跡の調査

### 1 調査の概要

#### (1) 調査要項

調 査 名 称	重要遺跡確認調査
調 査 対 象	岩内町東山1遺跡（埋蔵文化財包蔵地登録番号 D-13-1） 北海道指定史跡「岩内東山円筒文化遺跡」（昭和43年3月29日指定）
所 在 地	岩内町東山2-1・31・34、9、10、13-1・2・4・8、14-1・17～20、15、 16-1～4、23-2・8～14、29-2番地
対 象 面 積	東山15区 3485.95㎡（岩内町字東山15番地） 東山16-1・2区 2120.85㎡（岩内町字東山16-1・2番地） 「史跡」地区 3171.2㎡（岩内町字東山2番地1、道指定史跡範囲） 「第2地点」地区 565.32㎡（岩内町字東山14番地1）
調 査 面 積	平成26・27年度総調査面積 660㎡ 平成26年度 600㎡（東山15区 450㎡、東山16-1・2区 150㎡） 平成27年度 60㎡（「史跡」地区 45㎡、「第2地点」地区 15㎡）

#### (2) 調査体制

平成28年度

北海道立埋蔵文化財センター指定管理者 公益財団法人北海道埋蔵文化財センター

理 事 長	越田賢一郎
副 理 事 長	中田 仁
事 務 局 長	山田 寿雄
常 務 理 事	長沼 孝
総 務 部	部長 和田 基興
第1調査部	部長 長沼 孝
普及活用課	課長 田口 尚 主査 坂本 尚史
第1調査課	課長 中山 昭大

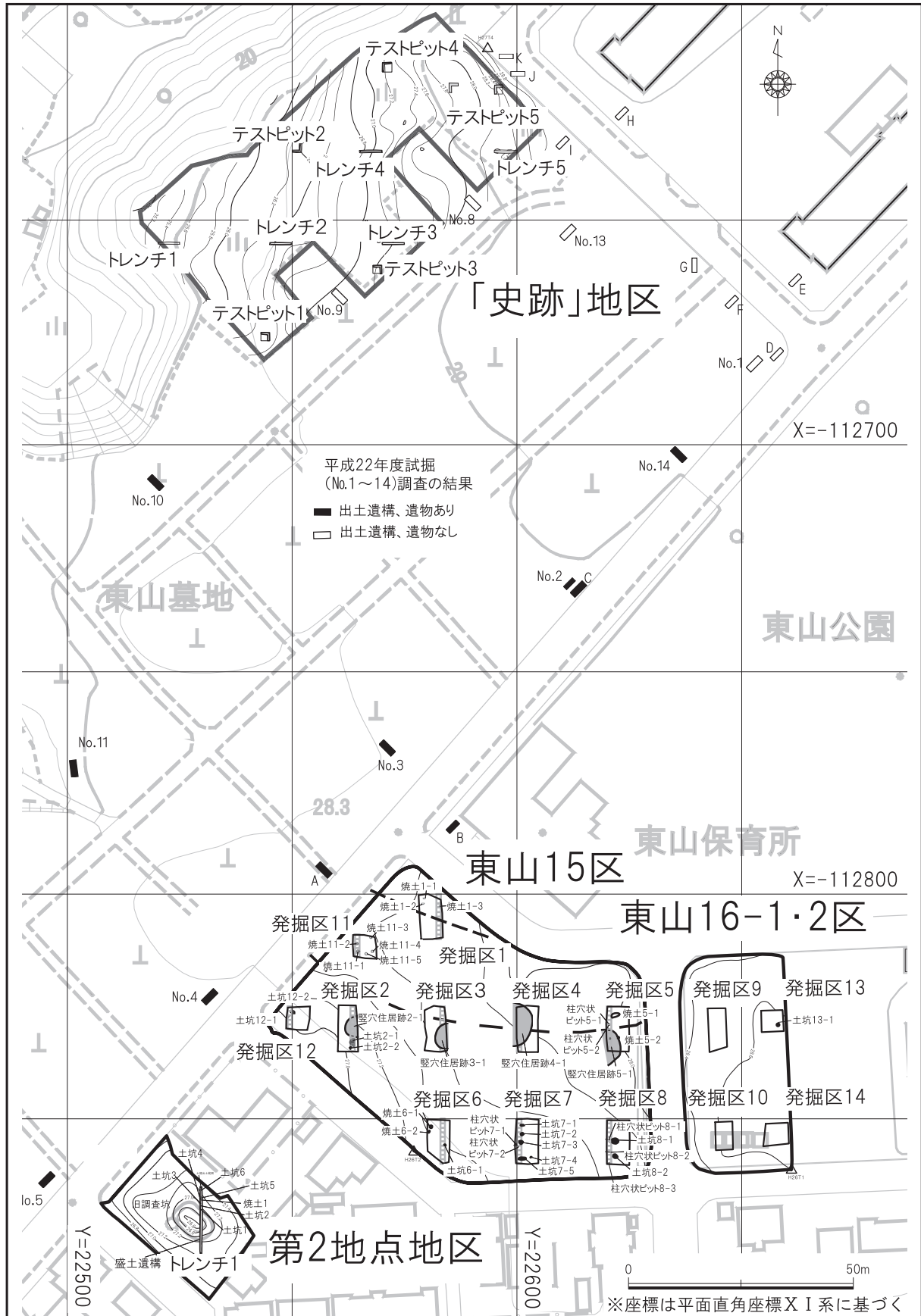
#### (3) 調査の経緯

昭和31・32年の調査から本報告に至るまでの経緯を一覧にして掲載した（表Ⅱ-1 図Ⅱ-3）。詳細は第10集、11集に記載がある。今年度は平成26・27年度調査の出土遺物の整理作業を行い、その成果について掲載した。

#### (4) 関連資料調査

関連資料調査については、昨年度に引き続き、道指定有形文化財「岩内東山円筒文化遺跡出土の遺物」の写真撮影を行った。指定文化財は岩内町郷土館収蔵庫（岩内町字清住）内にて保管されており、

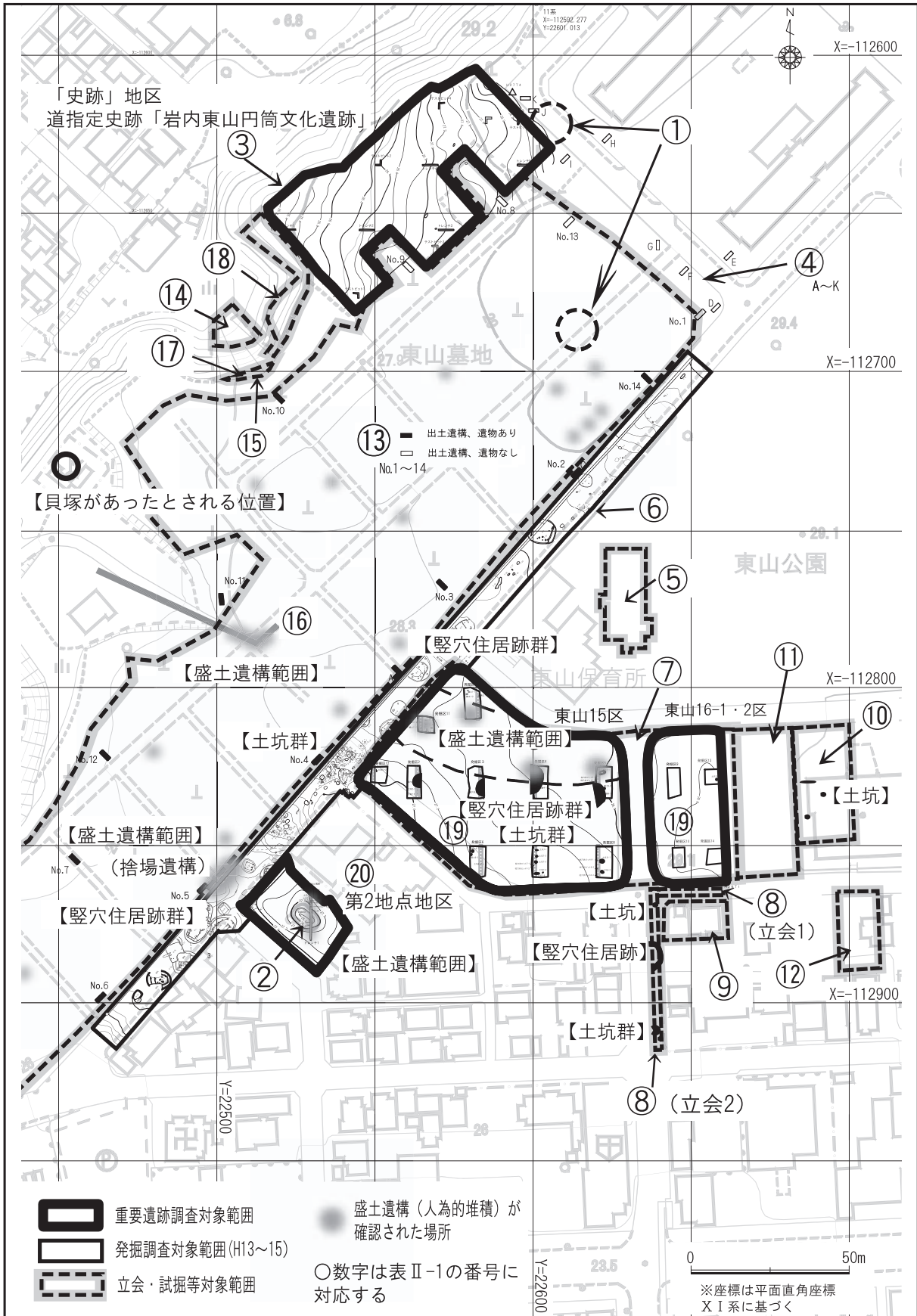
図Ⅱ—1 遺跡位置図



図Ⅱ-2 発掘区位置図

表Ⅱ－１ 調査経緯一覧

年次		内 容	確認遺構、遺物など	報告・ 関連刊行資料	図Ⅱ－3 の位置
昭和31年	9月	岩内町教委調査（桐井力蔵を担当者とする） （第1地点 場所不明 第2地点 東山14番1）	【第1地点】 竪穴住居跡 3軒（円筒土器下層式2軒、上層式1軒） 【第2地点】 竪穴住居跡 2軒（円筒土器下層式1軒、上層式1軒）	岩内町 岩内町教育委員会 編 『岩内遺跡』	①
昭和32年	7月				②
昭和33年					上記調査成果の報告書「岩内遺跡」刊行
昭和43年		道指定史跡「岩内東山円筒文化遺跡」 道指定有形文化財「岩内東山円筒文化遺跡出土の遺物」			③
昭和58年		道教委一般分布調査 東山1遺跡			
平成7年	6月	公営住宅（東山団地）建て替え事業にかかる 試掘調査			④
平成12年	8月	道教委「工事立会」（町青少年会館解体、東山9番）	遺構、遺物確認		⑤
平成13年	4月	道教委「試掘調査」（町道108号特改1種工事）			
平成13年	7～10月	町教委「発掘調査」（町道108号線改良、東山29番の2）	竪穴住居跡25基 土坑102基、 「捨て場遺構」1か所	町教委編『東山1遺跡』平成22年3月	⑥
平成14年	5～10月	町教委「発掘調査」（町道108号線改良、東山29番の2）			
平成15年	5～9月	町教委「発掘調査」（町道108号線改良、東山29番の2）			
平成17年	7月	道教委「試掘調査」（東山団地除却工事）			
平成17年	9月	道教委「工事立会」（東山団地除却、東山16番1）	遺構、遺物確認なし		⑦
平成17年	9月	町教委「工事立会」（東山団地除却、東山15番1、16番1,2）	遺物多数あり		
平成18年	6月	道教委「工事立会」（公共下水道污水管敷設）	遺構、遺物確認なし		
平成18年	12月	道教委「試掘調査」（公共下水道污水管敷設）	遺物確認あり		
平成19年	4・6月	道教委「工事立会」（公共下水道、東山29番2）立会1,2	竪穴住居跡1 土坑6	町教委編『東山1遺跡Ⅱ』平成22年3月	⑧
平成19年	10・11月	町教委「工事立会」（個人住宅建設、東山23番13）	遺構、遺物確認なし		⑨
平成20年	9月	道教委「試掘調査」（斎場建設）	遺構確認	町教委編『東山1遺跡Ⅱ』平成22年3月	⑩
	10月	道教委「工事立会」（斎場建設、東山16番3）立会3	土坑2 溝状遺構1		
平成21年	5月	町教委「工事立会」（斎場駐車場整備、東山16番1）	遺構、遺物確認なし		⑪
平成21年	7月	町教委「工事立会」（個人住宅建設、東山23番9）	遺構、遺物確認なし		⑫
平成22年	4月	道教委「試掘調査」（墓地管理事業）	遺構、遺物あり		⑬
平成22年	5～8月	道教委・町教委工事立会（墓石新築・建替工事、東山2番1 10番）	遺構、遺物あり（盛土遺構）		
平成22年	9月	道教委・町教委工事立会（災害復旧応急対策東山2番）	遺構、遺物確認なし		
平成23年	4～9月	道教委・町教委工事立会（墓石新築・建替工事、東山2番1 10番）	遺構、遺物あり		
平成23年	9月	道教委工事立会（復旧治山切土）	遺構、遺物確認なし		⑮
平成24年	4～10月	道教委・町教委工事立会（墓石新築・建替工事、東山2番1 10番）	遺構、遺物あり	町教委編『東山1遺跡Ⅲ』平成27年3月	⑬
平成24年	6月	道教委工事立会（排水管新設）	遺構、遺物あり（盛土遺構）		⑯
平成24年	6月	町教委工事立会（フェンス設置）	遺構、遺物確認なし		⑰
平成24年	9月	道教委工事立会（復旧治山植栽）	遺構、遺物確認なし		⑱
平成25年	4～9月	道教委・町教委工事立会（墓石新築・建替工事、東山2番1 10番）	遺構、遺物あり（盛土遺構）		⑬
平成26年	4～10月	道教委・町教委工事立会（墓石新築・建替工事、東山2番1 10番）	遺構、遺物あり		⑬
平成26年度	10～11月	重要遺跡確認調査 発掘調査（東山15番、16番－1・2）	盛土遺構 竪穴住居跡 土坑 柱穴状ピット 焼土	重要遺跡確認調査 報告書第10集	⑲
平成27年度	7～8月	重要遺跡確認調査 発掘調査（史跡地区、第2地点地区）	盛土遺構 竪穴住居跡 土坑 焼土	重要遺跡確認調査 報告書第11集	③⑳
平成28年度		重要遺跡確認調査 （出土遺物等整理作業）		重要遺跡確認調査 報告書第12集 （本報告）	



図Ⅱ-3 東山1遺跡調査成果概要図

その一部が郷土館の常設展示に展示されている。現状変更申請許可後、平成27年12月18日（金）に北海道立埋蔵文化財センターへと移動し、計測や写真撮影などの資料化作業を行った。

## 2 調査成果の概要

重要遺跡確認調査では、平成26・27年度に4地区（面積9,040.32㎡）を対象に、25か所の発掘区・試掘坑（面積660㎡）を設定し、発掘調査を行った。4つの地区とは東山15区、東山16－1・2区、「史跡」地区、「第2地点」地区である。調査により、遺構は盛土遺構2か所、竪穴住居跡4軒、土坑13基、柱穴状土坑13基、焼土12か所の範囲を確認した。その内、盛土遺構と竪穴住居跡の一部を調査した。遺構の時期は土器の出土状況から縄文時代前期後半～中期前半とみられ、特に前期末葉が主体と考えられた。竪穴住居跡・土坑などの遺構は東山15区に集中し、同地区に竪穴住居跡群・土坑群を形成し二つの盛土遺構が近接する景観が復元された。対して「史跡」地区では遺構・遺物がほとんど確認されなかったことから、遺跡の範囲が同地区に及んでいない可能性が指摘された。遺物は土器5,658点、石器・礫2,244点、総計7,902点で、東山15区および第2地点地区の盛土遺構から多く出土している。

なお、遺物点数については、分類の見直し及び再集計により、先の11集での報告とは異なるところがあるが、本報告表Ⅱ－2を最終の集計結果とする。

表Ⅱ－2 出土遺物集計結果

調査年度	発掘区		土器					石器																	礫・礫片	総計	
								剥片石器					礫石器														石器合計
			縄文前期後半	縄文中期前半	縄文前期～中期	不明	土器合計	石鏃 石槍またはナイフ	石鏃	つまみ付きナイフ	スクレイパー	両面調整石器	フレイク・チップ	剥片石器合計	石斧	敲石	扁平打製石器	石鋸	北海道式石冠	すり石	台石・石皿	礫石器片	礫石器合計				
平成26年度	東山15区	トレンチ1	105	26	120	193	444					16	16	1	3	2		1	2	3	4	16	32	50	526		
		トレンチ2	4	32	17	29	82	1				20	21		2	1			2		7	12	33	32	147		
		トレンチ3	1	8	4	70	83					24	24		1	0	1		2	1	2	7	31	47	161		
		トレンチ4	82	41	41	133	297			1		68	69	1	8	2	2	2	16	6	3	40	109	73	479		
		トレンチ5	189	253	82	300	824	1		2	3	60	66	4	13	3		16	11	5	5	57	123	127	1074		
		トレンチ6					0						0									0	0		0		
		トレンチ7			1		1					1	1						2			2	3	42	46		
		トレンチ8	51	30	88	3	172					3	3					1	2			3	6	2	180		
		トレンチ11	728	4	38	298	1068				1	529	530	1	6	3	1	2	10	4		27	557	87	1712		
		トレンチ12		6	12	15	33		1			1	2		1				1		1	3	5	11	49		
		計	1160	400	403	1041	3004	2		1	3	4	722	732								167	899	471	4374		
	東山16・1・2区	トレンチ9	19	1	13	27	60					12	12									0	12	26	98		
		トレンチ10	15		1	19	35					1	1									0	1		36		
		トレンチ13			3	1	4					2	2		1			1				2	4		8		
		トレンチ14	109	1	19	118	247					10	10		1						1	2	12	6	265		
		計	143	2	36	165	346					25	25		1	1		1			1	4	29	32	407		
	表採				6		6															0	0		6		
	平成26年度計		1303	402	445	1206	3356	1	1	1	3	4	747	757	7	35	15	1	23	48	19	23	171	928	503	4787	
平成27年度	第2地点地区2TR1		1126	65	850	242	2283	6	1		1	2	1	232	243	2	16	5	1	2	23	9	43	101	344	452	3079
	史跡地区 TR1				19		19						17	17								0	17		36		
	平成27年度計		1126	65	869	242	2302	6	1	0	1	2	1	249	260	2	16	5	1	2	23	9	43	101	361	452	3115
総計		2429	467	1314	1448	5658	7	2	1	4	6	1	996	1017	9	51	20	2	25	71	28	66	272	1289	955	7902	

表Ⅱ－3 遺構出土遺物集計結果

年度	発掘区名	遺構名	層位	土器					剥片石器							
				縄文 前期後半	縄文 中期前半	前期 ～ 中期	不明	土器 計	石 鏃	石 槍 または ナイフ	石 錐	つまみ 付き ナイフ	スクレイパー	両面調整石器	フレイク・チップ	剥片石器計
H 26	発掘区 1	盛土遺構	盛土層	22	2	5	28	57							3	3
	発掘区 2	土坑 P2-1	土坑覆土												2	2
		土坑 P2-2	土坑覆土	2				2	1						7	8
	発掘区 3	堅穴住居跡3-1	堅穴覆土		8	4	15	27							16	16
	発掘区 4	堅穴住居跡4-1	Ⅲ層													
			堅穴覆土上層	51	29	32	23	135				1			36	37
			堅穴覆土下層	12	1	3	4	20							7	7
	発掘区 5	盛土遺構	盛土上層												4	4
			盛土層	86	123	12	202	423	1			1			26	28
		堅穴住居跡5-1	堅穴覆土	69	5	45	29	148				1	2		20	23
発掘区 7	土坑	土坑覆土														
発掘区11	盛土遺構	盛土上層	252		2		254									
		盛土層	425		8	290	723					1		520	521	
H26合計				919	168	111	591	1789	2			3	3	641	649	
H 27	第 2 地点 地区 トレンチ 1	盛土遺構	盛土上層	143	31	296	56	526	5			1			64	70
			盛土中層	132	1	69	9	211					1		61	62
			盛土下層	272	8	178	26	484	1	1			1	1	59	63
			盛土最下層	166	3	72	46	287							4	4
			盛土層												3	3
		堅穴住居跡	掘上土上層	285	17	213	71	586								
H27合計				998	60	828	208	2094	6	1		1	2	1	191	202
総計				1917	228	939	799	3883	8	1		4	5	1	832	851

年度	発掘区名	遺構名	層位	礫石器										礫・礫片ほか	石器総計	総合計	
				石斧	敲石	扁平打製石器	石鋸	北海道式石冠	すり石	台石・石皿	礫石器片	礫石器計					
H 26	発掘区 1	盛土遺構	盛土層		1					1		1	3	17	23	80	
	発掘区 2	土坑 P2-1	土坑覆土		1							1			3	3	
		土坑 P2-2	土坑覆土									2	2	3	13	15	
	発掘区 3	堅穴住居跡3-1	堅穴覆土		1		1		2	1	2	7	17	40	67	67	
	発掘区 4	堅穴住居跡4-1	Ⅲ層			1						1		1	1	1	
			堅穴覆土上層	1	1	1		2	2	2	2	11	19	67	202	202	
			堅穴覆土下層		3					1		4	20	31	51	51	
	発掘区 5	盛土遺構	盛土上層					2	4			6	5	15	15	15	
			盛土層	2	5	2		1		1		11	48	87	510	510	
			堅穴住居跡5-1	堅穴覆土	2	5			10	4	3	3	27	20	70	218	218
発掘区 7	土坑	土坑覆土							2			2	2	4	4	4	
発掘区11	盛土遺構	盛土上層														254	254
盛土層		1	6	4		2	10	4		27	84	632	1355	1355			
H26合計				6	23	8	1	17	25	12	10	102	235	986	2775	2775	
H 27	第 2 地点 地区 トレンチ 1	盛土遺構	盛土上層			1	1	1	6	2	11	22	148	240	766	766	
			盛土中層		5	1				4	6	16	32	110	321	321	
			盛土下層		1	3			3	2	8	17	49	129	613	613	
			盛土最下層										1	5	292	292	
			盛土層										7	10	10	10	
			堅穴住居跡	掘上土上層		1					1		2		2	588	588
H27合計					7	5	1	1	9	9	25	57	237	496	2590	2590	
総計				6	30	13	2	18	34	21	35	159	472	1482	5365	5365	

### 3 出土遺物

調査は四つの地区を対象に25か所の発掘区・試掘坑を設定して行った。以下、区ごとに出土状況の概要と出土土器・石器の観察結果を記載する。なお、「史跡」地区は出土遺物が断片的で時期特定が可能なものや定形的なものがみられないため、遺物を掲載していない。

#### (1) 東山15区（平成26年度調査）

東山15区では10か所の発掘区を設定し、450㎡を調査した。出土遺物は土器3,004点、石器899点、礫・礫片471点、合計4,374点で、4つの区の中で最も遺物点数が多い。当該区からは竪穴住居跡4軒、土坑12基、柱穴状ピット7基、焼土10か所、盛土遺構1か所を検出しており、遺跡のなかでも遺構が密に分布する範囲と考えられる。東山15区の北西側に位置する平成13～15年に行われた町教委調査の発掘区では、竪穴住居跡・土坑多数と「捨て場」遺構などが確認されており、東山15区の遺構と一連のものと捉えられる。遺物は縄文時代前期後半の円筒土器下層式の時期のものが主体で、すり石や北海道式石冠、扁平打製石器などの礫石器を多く伴う。特に盛土遺構からは円筒土器下層式を主体とした遺物が多く出土している。また竪穴住居跡の中に縄文時代中期前半、円筒土器上層式の時期のものが含まれる。

##### 【発掘区1】

東山15区の北端に位置する。発掘区内南側に盛土遺構、北部に焼土3か所を検出した。遺物は包含層の上層と盛土遺構の範囲に集中して出土した。

##### 土 器（図Ⅱ-4-1～4 図版1-1～4）

円筒土器下層式105点、円筒土器上層式26点、前期後半から中期前半とみられるもの120点、不明193点、計444点が出土した。

1～4は口縁部破片である。1は盛土遺構から出土した前期縄文土器片で、口縁部には縄線を幾何学的に組み合わせた文様帯、体部には縦位の撚糸文が施される。円筒土器下層式にあたる。2・4は中期縄文土器、2が包含層の上層、4は下層から出土した。縄線に刻まれた貼付帯と馬蹄形圧痕文を特徴とする円筒土器上層式に相当する。3は前期縄文土器で、口縁部に平行に横走する縄線文、体部には縦位の撚糸文が見られる。円筒土器下層式に相当する。

##### 石 器（図版4-1～3）

剥片石器16点（全てフレイクチップ）、礫石器16点、計32点が出土した。礫石器には扁平打製石器や北海道式石冠など前期後半から中期前半の定形的な石器がみられる。1は敲石で、片側縁が突出する三角形の礫を素材とし、長軸方向の両端に敲打痕がみられる。2は扁平打製石器で下縁を両面調整により直線的に整形している。3は小型の北海道式石冠で、楕円形扁平礫を折断したものを素材とし、正裏面中央部を帯状に敲打して握り部を形成し、素材折断面はすり面に設定している。但しすり面の発達ほとんどみられない。

##### 【発掘区2】

東山15区の西側に位置する。発掘区の中央部分が大きく攪乱で損なわれていたが、竪穴住居跡1軒及び、近接する南側に土坑2基の範囲を確認した。

##### 土 器（図Ⅱ-4-5～7 図版2-5～7）

円筒土器下層式4点、円筒土器上層式32点、前期後半から中期前半とみられるもの17点、不明29点、計82点が出土した。



5・6は包含層出土の中期縄文土器である。5は平行と波状の縄線文、6は縄線文と圧痕文を伴う口縁部破片で、円筒土器上層式に相当する。7は土坑2覆土から出土した。口縁部に平行する縄線が横走り、口唇部は縄線による刻みがある。円筒土器下層式に相当する。

#### 石 器 (図版4-4・5)

剥片石器21点(内フレイク・チップ20点)、礫石器12点、計33点が出土した。定形的石器は少ない。4は石鏃で、厚手で左右非対称な不整形を呈する。下半部で縁辺が僅かに屈曲し茎部を形成している。球顆の入らない良質の黒曜石を石材とする。5は敲石で、厚手の棒状礫を素材とし端部に軽微な敲打痕が観察される。大型で保持が難しく、別用途の器種に分類したほうがよいかもしれない。

#### 【発掘区3】

東山15区の中央部に位置する。攪乱によりほとんどの包含層が失われていた。ごく一部の範囲ではあるが区内中央東側で炉跡と思われる焼土を伴う竪穴住居跡1軒を検出した。

#### 土 器 (図II-4-8 図版1-8)

円筒土器下層式1点、円筒土器上層式8点、前期後半から中期前半とみられるもの4点、不明70点、計83点が出土した。8は包含層出土の前期縄文土器である。口縁部に横位の縄線文、口唇には縄による刻みが認められる。円筒土器下層式に相当する。

#### 石 器 (図版4-6)

剥片石器24点(全てフレイク・チップ)、礫石器7点、計31点が出土した。定形的石器はみられない。6は竪穴住居跡3-1覆土から出土している。石鋸としたが扁平打製石器にも分類が可能である。薄手の板状礫を素材とし、左右端部に粗雑な剥離を加え、下縁は連続的な両面調整により断面V字状の鋭利な縁辺を形成している。石材は緻密な安山岩である。

#### 【発掘区4】

東山15区の中央部に位置する。発掘区の中央で盛土遺構と思われる堆積の一部、これと重複して西側で竪穴住居跡1軒を検出した。堆積状況から、盛土遺構は住居埋積後に形成されたと考えられる。

#### 土 器 (図II-4-9~11 図版1-9~11)

円筒土器下層式82点、円筒土器上層式41点、前期後半から中期前半とみられるもの41点、不明133点、計297点が出土した。

9・10は包含層出土である。9は前期縄文土器である。口縁部に横走する縄線と竹管状の工具を用いたと思われる刺突が並ぶ。体部は多軸絡条体による回転押捺文が見られる。円筒土器下層式に相当する。10a・bは同一個体で、中期縄文土器である。口縁部に縦位の撚糸文、口唇は縄の圧痕により刻まれている。11は竪穴住居跡H4-1の覆土下層から出土した。前期縄文土器である。口縁部付近の破片で、縦位の撚糸文が認められる。

#### 石 器 (図版4-7~10、5-11~15)

剥片石器69点(内68点がフレイク・チップ)、礫石器40点、計109点が出土した。礫石器ではすり石が16点と多く、台石・石皿も6点出土している。

7~12は竪穴住居跡4-1の遺物で、7・8は下層、9~12は上層から出土している。7・8は敲石である。棒状礫の端部に明瞭な敲打痕が観察できる。9はつまみ付きナイフで、素材末端側をつまみ部に設定し、裏面末端には素材打瘤を除去する平坦剥離が加えられている。加工は薄く平坦な剥離が主に背面側に施され、両側縁を鋭利に整形している。また縁辺部裏面側には微細な剥離が不連続的に生じている。石材は黒色の頁岩である。10は北海道式石冠である。下半は右側が高い左右非対称形で、握り部は帯状部と正面中央が楕円形に凹む敲打面が複合している。下面のすり面はほとんど発達

していない。11は扁平打製石器である。下面に幅5mm強のすり面が形成されている。また側縁は抉り状の加工を受けている。12は石皿である。滑らかに摩耗し明瞭に凹むすり面が観察できる。破損面には磨耗がみられないため、器体を大きく破損した後に廃棄されたと考えられる。

13～15は包含層の遺物である。13は石鋸で上下縁及び正裏面の縁辺部にすり面が発達し、縁辺と平行方向の直線的な擦痕が観察できる。安山岩製の緻密な板状礫で縁辺部が薄い形状（断面三角形）のものを素材としている。14・15は扁平打製石器で、いずれも全周から両面を広く剥離し整形している。14は下縁が著しく外湾しており、すり面の発達はみられない。15は直線的な下縁を形成し、幅7mm程度のすり面が生じている。正面側には酸化鉄とみられる物質が沈着している。

#### 【発掘区5】

東山15区の東端に位置する。発掘区北側に盛土遺構、焼土、柱穴状ピット2基を、南側に竪穴住居跡1軒を検出した。堆積状況から竪穴住居埋積後に盛土遺構が形成されたと考えられる。調査区内全体に遺物の出土が多くみられ、南側の竪穴住居跡5-1覆土から北海道式石冠がまとまって出土している。

#### 土 器（図Ⅱ-4-12～15 図版1-12～15）

円筒土器下層式189点、円筒土器上層式253点、前期後半から中期前半とみられるもの82点、不明300点、計824点が出土した。

12は盛土遺構から出土した中期縄文土器である。口縁部弁状突起の部分に当たり、隆帯、縄線、圧痕文により文様帯が構成されている。体部には第1種結束羽状縄文が施され、円筒土器上層式に相当する。13は竪穴住居跡5-1から出土した前期縄文土器である。縄線文を伴う口縁部破片で、口唇には縄圧痕による刻みがある。円筒土器下層式に相当する。14・15は遺物包含層から出土した。14・15は中期縄文土器である。14は弁状突起の一部に当たり、隆帯、縄線、圧痕文により文様帯が構成されている。15は口唇直下に貼付帯があり、口縁には縄線と列点文が施される。円筒土器上層式に相当する。

#### 石 器（図版5-16～21、17-22～30）

剥片石器66点（内60点がフレイク・チップ）、礫石器57点、計123点が出土した。石鏃・つまみ付きナイフ・石斧・北海道式石冠・扁平打製石器など、定形石器が多い。特に北海道式石冠は16点とまとまった出土がみられる。

16～22は盛土遺構から出土したものである。16は逆刺が不明瞭な有柄の石鏃で、先端部が錯向状の剥離により突出するように加工されている。石錐に転用された可能性がある。球顆の入らない良質の黒曜石を石材としている。17はつまみ付きナイフである。裏面左側縁を連続的に調整した後、背面側全体を覆うように平坦剥離を加えている。右側縁下半には素材の平坦面が残置するが、これを打面として器面調整を加えている。石材は黒曜石で細かな球顆が筋状に観察される。18・19は石斧である。緑色泥岩が使用されている。18は小型・片刃で全身を丁寧に研磨し、末端部も刃部状の鋭利な縁辺を有す。19は両刃で、楕円形の扁平礫を素材に側縁部を中心に打ち欠きを加えて短冊形に整形したのち、側縁部と刃部にのみ研磨を加えて製作している。完成形に近い形の礫が素材に選択されている。20～22は敲石で、平面形は20・22が楕円形、21が片側縁の突出する三角形状を呈する。いずれも素材両端部に敲打痕が観察できる。8cm大、10cm大、12cm大の礫が使用されており、用途・対象物により大きさ（重さ）が選択されていた可能性がある。

23～29は竪穴住居跡5-1覆土から、30は包含層から出土したものである。23はスクレイパーである。素材腹面側に連続的な調整を加えて刃角50度ほどの刃部を作出している。刃部裏面縁辺中央部付近には0.7×4cmの範囲で鈍い光沢が観察でき、一部リングの盛り上がりによって光沢の発達が器体

の内側に広がる。背面側素材打面縁辺部には鋭利な縁辺を潰すように連続的な加工が施されている。24は敲石である。片側縁が突出する三角形礫を素材とし、長軸方向の両端に敲打痕がみられる。25～30は北海道式石冠である。いずれも片端部もしくは両端部を欠損し、特に25は器体を大きく斜断する様に破損している。また全て帯状の敲打が周回するように加えられて握り部が形成されている。使い減りを考慮する必要があるものの、小型（26・27・30：高さ10cm未満、すり面幅5cm未満、帯状敲打幅2.5cm未満）と、大型（25・28・29：高さ10cm以上、すり面幅5cm以上、帯状敲打幅2.5cm以上）に区分が可能である。すり面は大型を主体とする25・28～30が平坦に、小型の26・27が湾曲した面にすり減っている。

#### 【発掘区8】

東山15区の南東端に位置する。包含層がほとんど残っていない。南西部で土坑2基と柱穴状ピット4基の範囲を確認した。

#### 土 器（図Ⅱ－4－16・17 図版1－16・17）

円筒土器下層式51点、円筒土器上層式30点、前期後半から中期前半とみられるもの88点、不明3点、計172点が出土した。

16・17は包含層から出土した中期縄文土器である。いずれも口縁部破片で、肥厚する口唇と口縁に平行な貼付帯との間の文様帯に撚りの異なる3条一組の縄線が施される。16には蛇行する貼り付けも見られる。17は縄線と竹管状工具による刺突が施される。円筒土器上層式に相当する。

#### 石 器（図版7－31）

剥片石器3点（全てフレイク・チップ）、礫石器3点、計6点が出土した。

31は北海道式石冠で、表土から出土している。小型（高さ10cm未満、すり面幅5cm未満、帯状敲打幅2.5cm未満）で、下面部は凹凸があり凸部が平滑なすり面となっている。

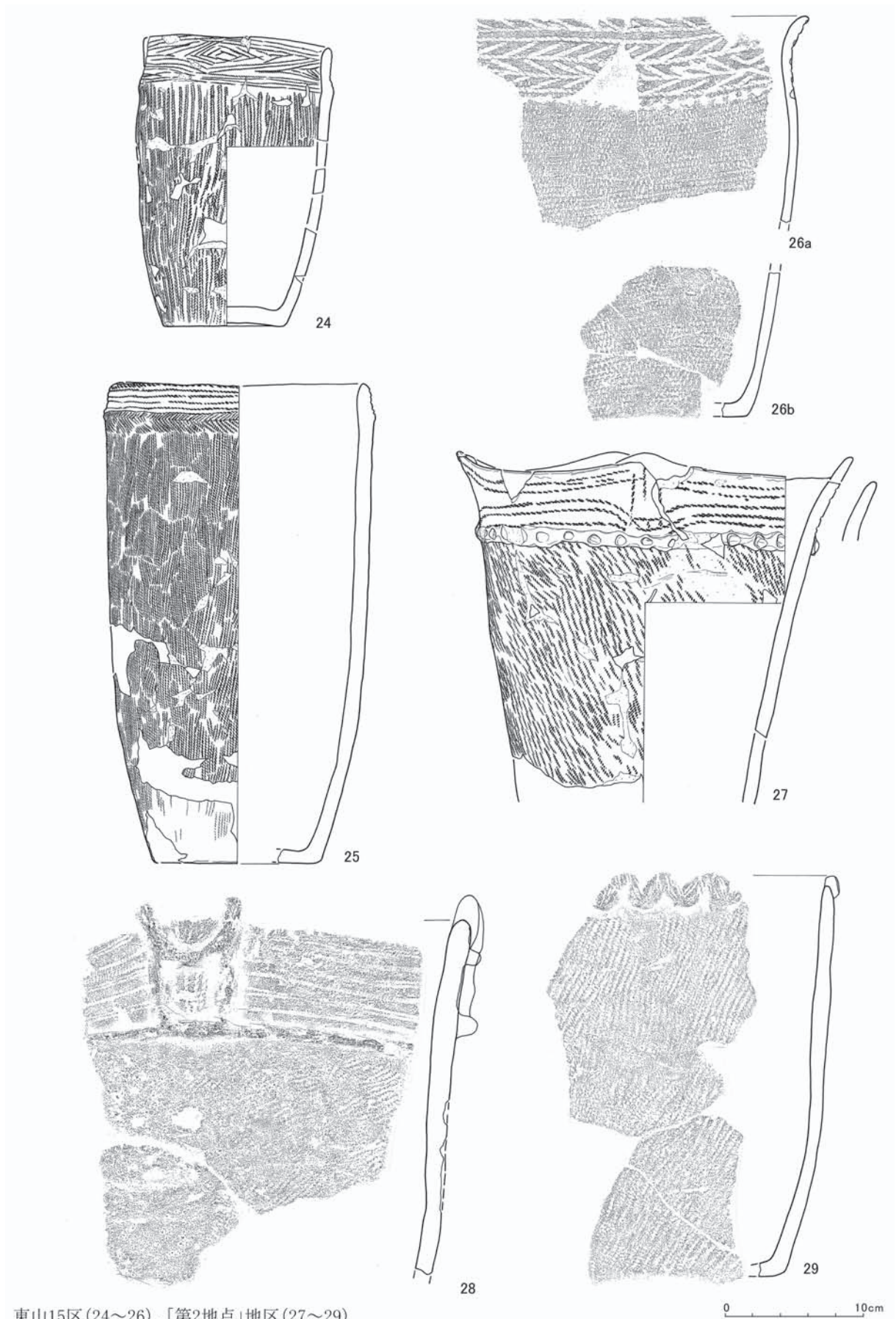
#### 【発掘区11】

東山15区の北西端に位置し、平成13～15年度調査範囲に近接する。発掘区範囲全体で盛土遺構の堆積を検出した。盛土に伴う焼土も5か所確認した。遺物は盛土層から多数出土し、一括個体の状態で出土も見られた。東山15区内で最も点数が多い。

#### 土 器（図Ⅱ－4－22・23 5－24～26 図版1－25、2－22～24、3－26）

円筒土器下層式728点、円筒土器上層式4点、前期後半から中期前半とみられるもの38点、不明298点、計1,068点が出土した。前期後半の遺物が多数を占める。

22から26は盛土層から出土した、前期縄文土器の復原個体である。22～24は口縁部から底部まで、25・26は口縁から体部までを復元することができた。22は円筒状の深鉢である。器高28.0cm、口径17.2cm、最大幅18.8cmで、ほぼすべてを復元することができた。口縁は平縁で、底部は平底、無文である。口頸部が湾曲し、体部との間に隆帯状のわずかな稜線が見られる。口頸部は縄線を組み合わせた幾何学文が文様帯を構成し、口唇直下にはLR縄文が施される。体部には主に結束第2種羽状縄文と多軸絡条体の回転押捺文が組み合わさる。23は小型の深鉢で、器高18.8cm、口径14.8cm、最大幅15.2cmである。口縁部は残存が少ないものの平縁で、底部は高台を伴う。器面全体が摩耗しており、文様は不明瞭であるが、湾曲する口頸部は縄線の組み合わせからなる幾何学上の文様で構成され、隆帯以下の体部は斜行縄文が施される。24は器壁がほぼ直立する円筒形の深鉢で、器高20.8cm、口径13.6cm、最大幅14.0cmである。口縁は平縁で、口頸部の下限にわずかな隆帯が見られる。底部は平底で部分的に撚糸文が認められる。口頸部は縄線が幾何学的に組み合せて構成される文様帯となる。隆帯以下の体部には縦位の撚糸文が施されている。口頸部の文様帯幅は約3.5cmで全体の2割弱である。25も器壁



図Ⅱ－5 東山15区・「第2地点」地区の土器

が直立する円筒形の深鉢で、器高34.0cm、口径18.0cm、最大幅が19.6cmである。口縁は平縁で、24よりも狭い口頸部の下限にわずかな隆帯がある。底部は平底で底面は無文である。口頸部は平行する縄線が横走する。隆帯上に施された羽状縄文によって体部の縦位撚糸文を区画している。26a・bは同一個体である。口縁部は外側に開き、緩やかに湾曲する口頸部には縄線が矢羽根状に組み合わせられた文様帯が構成される。体部とは刺突による列点文で区画される。体部は多軸絡条体による回転文が全体に施される。底部は平底である。

#### 石 器 (図版 6 - 32、7 - 33~36)

剥片石器530点 (内フレイク・チップ529点)、礫石器27点、計557点が出土した。扁平打製石器やすり石などの礫石器が多くみられる。

32は石斧である。両刃で、層理面で破損している。33は扁平打製石器で、楕円形様の扁平礫を素材とし、下面に幅1cm程度の直線的なすり面が形成されている。34・35は北海道式石冠である。2点とも小型 (高さ10cm未満、すり面幅5cm未満、带状敲打幅2.5cm未満) で、下面は長軸に対し若干傾くように片減りしているがすり面の発達は弱く、粗く多孔質な面が残る。34は正面側にのみ帯状の敲打が施されるが、右側に向かいやや競り上がる様に加えられている。36は石鋸である。素材は節理面を有す板状礫で、下縁に連続的な両面調整を加えて直線的且つ鋭利に加工している。使用痕跡はみられない。石材は緻密な安山岩である。

#### 【発掘区12】

東山15区の西端に位置する。層厚50cmほどの包含層を確認することはできたが、出土遺物は少なかった。近接する発掘区11との違いが明瞭である。西壁側で土坑の範囲を2基確認した。

#### 土 器

発掘区全体に疎らな出土分布である。円筒土器上層式6点、前期後半から中期前半とみられるもの12点、不明15点、計33点が出土した。

#### 石 器 (図版 7 - 37)

剥片石器2点、礫石器3点、計5点が出土した。37は細身の有茎石鏃である。黒曜石製で細かな球顆が観察できる。

#### (2) 東山16-1・2区 (平成26年度調査)

本区では4か所の発掘区を設定し15㎡を調査した。出土遺物は土器346点、石器29点、礫・礫片9点、合計384点である。東山15区の東に接するが、これに比べて遺構・遺物は圧倒的に少ない。遺構・遺物の密な分布は東山15区付近を範囲とすることが考えられる。

#### 【発掘区9】 (図Ⅱ-4-18 図版1-18)

東山16-1・2区の北西寄りに位置する。層厚60cmほどの包含層を確認することはできたが、遺構は見られなかった。遺物の出土も疎らで、土器は前期後半の土器片が19点、中期前半が1点、前期から中期前半とみられる小破片13点及び不明27点、計60点が出土した。石器はフレイク・チップ12点、礫片26点の計38点が出土した。図Ⅱ-4-18は包含層出土の前期縄文土器である。縄線文を伴う口縁部破片で、円筒土器下層式に相当する。

#### 【発掘区10】 (図Ⅱ-4-19 図版1-19)

東山16-1・2区の南西寄りに位置する。上層は配管などによる攪乱が大半を占めたが、下層には包含層が保存されていた。遺構は検出されなかった。遺物の出土は疎らで、土器は前期の土器片が15点、前期から中期前半とみられる小破片1点及び不明19点、計39点が出土した。石器はフレイク・チ

ップ1点のみである。図Ⅱ-4-19a・bは同一個体で包含層出土の前期縄文土器である。縄線文を伴う口縁部破片で、円筒土器下層式に相当する。

#### 【発掘区13】

東山16-1・2区の北東端に位置する。層厚50cmほどの包含層を確認することはできたが、出土遺物は疎らで少ない。発掘区の東部で土坑1基を検出しているが、遺物を伴わず縄文時代よりも新しい時期の可能性がある。

#### 土 器

前期後半から中期前半とみられるもの3点、不明1点、計4点が出土した。主体となる詳細な時期は不明である。

#### 石 器 (図版7-38)

剥片石器2点、礫石器2点、計4点が出土した。38は北海道式石冠で高さ10cmを超える大型のものである。縦に半截するように破損している。握り部の帯状敲打はないが、下面に広く平坦なすり面が認められる。

#### 【発掘区14】

東山16-1・2区の南東端に位置する。包含層の層厚は50cmほどで、遺構は検出していないが、前期後半を主体とする多数の遺物が出土している。

#### 土 器 (図Ⅱ-4-20・21 図版1-20・21)

円筒土器下層式109点、円筒土器上層式1点、前期後半から中期前半とみられるもの19点、不明118点、計247点が出土した。前期後半の土器が主体である。20・21は前期縄文土器で、包含層出土の口縁部破片である。縄線が組み合わさって文様帯が構成されている。20は平縁で、21は緩やかな山形口縁である。円筒土器下層式に相当する。

#### 石 器 (図版7-39)

剥片石器2点、礫石器2点、計4点が出土した。39は扁平打製石器である。板状礫を素材とし、周囲を比較的丁寧に整形剥離している。下縁は直線的で幅5mm程度のすり面が発達している。

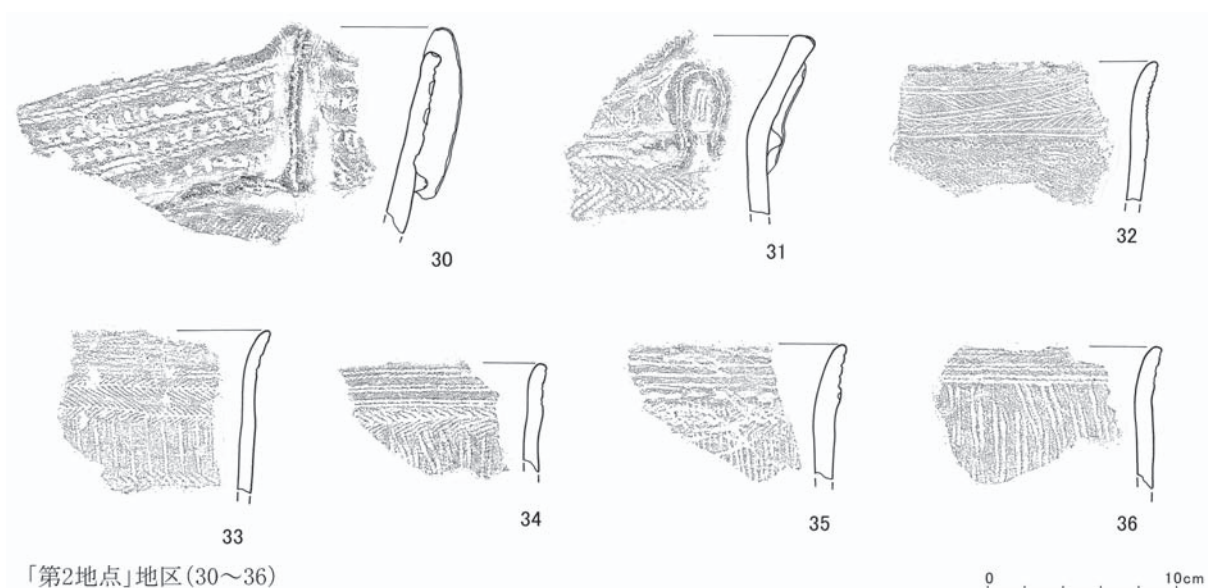
### (3) 「第2地点」地区 (平成27年度調査)

本地区では区域中央部に15×1mのトレンチを1か所設定し調査を行った。昭和31・32年調査時の「第2地点」にあたると思われる掘り下げ部分とともに、土坑6基と焼土1か所をトレンチの北部で検出したほか、盛土遺構と考えられる堆積をトレンチの南北両側で確認した。盛土遺構からは掘り下げが困難になるほどの多くの遺物が検出された。トレンチ中央部分には竪穴住居跡またはその掘り上げ土と思われる堆積も確認された。

出土遺物は土器2,451点、石器334点、礫・礫片471点の計3,256点で、大半が盛土遺構に伴うものであるが、竪穴または掘り上げ土の可能性がある部分については竪穴住居跡出土として取り上げている。土器は盛土上層で縄文時代中期前半(円筒土器上層式)が、下層で縄文時代前期後半(円筒土器下層式)の土器小片が主に出土した。全体では縄文時代前期後半(円筒土器下層式)の土器が主体となる。石器は、剥片石器では石鏃・石錐・つまみ付きナイフが少数とフレイク・チップ類が出土している。礫石器ではたたき石、すり石、台石・石皿が多く、扁平打製石器、北海道式石冠などもみられた。

#### 土 器 (図Ⅱ-5-27~29-6-30~36 図版1-30、2-27、3-28・29・31~36)

円筒土器下層式1,126点、円筒土器上層式65点、前期後半から中期前半とみられるもの850点、不明242点が出土している。



図Ⅱ－6 「第2地点」地区の土器

27から32はトレンチ北寄りの盛土層から出土したものである。27は前期縄文土器で、盛土下層から出土した。口縁から体部上半までを復元することができた。口縁は4単位の山形突起があり、器壁が緩やかに外側に開く器形である。口縁部には無文地に横走る縄線が平行に施されて文様帯を構成している。山形の突起部には縦位の縄線文もみられる。体部との境には貼付帯がめぐり、指頭圧痕が施される。体部には撚り戻しの縄文が斜位に施される。円筒土器下層c式に相当し、本遺構の中で最も古いものと考えられる。28は中期縄文土器で、盛土中層で出土した。口縁から体部上半までが残り、口縁部上部には2本の突起上の貼付があり、その下には平行する縄線が横走る。隆帯によって区画された体部には斜行縄文が施される。円筒土器上層a式に相当する。

29は中期縄文土器で、盛土上層から出土した復原個体である。器高は28cmで、口縁から底部までを復元できたが、残存率は3分の1弱である。口縁は平縁で、口縁に沿って波状の貼付がある。貼付上には縄線が施される。体部には斜行縄文が見られる。円筒土器上層a式に相当する。

30・31は中期縄文土器である。30は盛土中層、31は盛土上層から出土した。ともに貼付帯、刺突列、2条一組の縄線により文様帯を構成している口縁部破片である。30にはI字状、31は逆U字状の貼付帯が垂下する。円筒土器上層式に相当する。

32から36は前期縄文土器である。

32はトレンチ北側の盛土上層より出土した、縄線が幾何学的な文様を描く口縁部破片で、体部には結束第2種羽状縄文が施される。33～36はトレンチ南側の盛土層から出土したものである。33、34は盛土下層から出土した口縁部片で、口縁に縄線文と体部に撚糸文が施されている。体部との境には羽状縄文が見られる。35・36は盛土最下層から出土したもので、口縁部片に縄線文と縦位の撚糸文が見られる。円筒土器下層式に相当する。

#### 石 器 (図版7-40～49、8-50～56)

剥片石器243点(内フレイク・チップ232点)、礫石器101点、計344点が出土した。石鏃、つまみ付きナイフ、北海道式石冠、扁平打製石器などの定形石器がみられ、特にすり石や敲石、台石・石皿などの礫石器の出土が多い。

40～53は盛土遺構出土の石器である。40～43は石鏃である。40は小型で剣菱形を呈する有茎鏃であ

る。黒曜石製で小球顆が縞状にみられる。41～43は下半部に最大幅を有す木葉形鏃で、いずれも素材腹面を残置している。42は球顆のない良質の黒曜石を石材としている。43の基部は非常に薄手で、先端部は鋭利に突出する。44は石槍またはナイフである。加工は粗く不整形で、素材背面稜線を残置し器体の厚みを取り切れていない。側縁も波状で歪な形状のため未成品・失敗品とみられる。黒曜石製で縞状に入る小球顆が観察される。45はつまみ付きナイフである。左側縁は平坦剥離により外湾、右側縁は縁辺加工により僅かに内湾させて、全体を半月形に整形している。46・47はスクレイパーである。46は全縁を連続的に剥離し、一端を尖頭形に加工している。石材は黒色の頁岩である。47は素材打面部を除去するように急角度でやや軽微な調整が加えられており、尖頭部側は無加工である。48～50は扁平打製石器である。48は転礫もしくは剥片を素材としやや厚手で、裏面側全面を周囲から剥離調整している。下面には幅1cm程度の直線的で平滑なすり面が観察される。49・50は節理面を有す板状礫を素材とし薄手である。下縁に連続的な両面調整を加え、直線的で鋭利な縁辺を作出している。49の下面端部には、下縁調整面に切られる幅1cmほどのすり面が部分的に認められ、一定期間の使用後に下面を再加工したことが考えられる。51は北海道式石冠である。両端部が破損し、すり面は正面側に大きく傾くように片減りしている。高さは10cm未満と小型だが、帯状敲打部は幅2.5～3.0cmと幅広い。52は石鋸である。断面三角形の角柱状の礫を素材とし、鋭角な素材縁辺部に連続的な調整を加えて鋭利で直線的な縁辺を作出している。使用痕はみられない。技術形態的には扁平打製石器にも分類が可能だが、器体整形がほぼなく、石材が比較的緻密なことから石鋸とした。53は台石・石皿である。厚さ9cm程の安山岩礫を素材とし、両面にすり面がみられる。正面側は素材の凹面で、礫の一端にはネガティブバルブの発達した幅8.5cmの大型剥離が加えられ、この剥離面縁辺に接する20×30cmほどの範囲にすり面とみられるやや滑らかな面が広がる。裏面側は平滑な面となっており、中央に径15cmほどの不整円形を呈する滑らかなすり面が認められる。

54～56は堅穴とみられる範囲から出土したもので、出土層位は遺構の掘上げ土もしくは覆土と考えられる。54・55は敲打石である。54は楕円形礫、55は片側縁が突出する三角形礫を素材とし、長軸方向の両端部に明瞭な敲打痕が観察される。56は台石で、掌大の扁平礫を素材としている。被熱しており正面と右側縁にはタール状の付着物が認められる。

#### (4) 「史跡」地区（平成27年度調査）

「史跡」地区では10か所のトレンチ・テストピットを設定し、45㎡を調査した。出土遺物は土器片19点、石器16点、礫40点、合計75点で、4つの地区のなかで最も遺物点数が少ない。遺物が出土したのは地区内最西端に位置するトレンチ1のみで、包含層上層の黒色土層から出土した。土器は縄文時代中期前半と思われる小破片（円筒土器上層式に相当）、石器はフレイク・チップのみで黒曜石製のものが主体を占める。遺物は掲載していない。

## 4 調査成果と課題（図Ⅱ－3 表Ⅱ－1）

重要遺跡確認調査の成果とこれまでに行われてきた発掘調査、試掘調査などの成果をもとに、時期や範囲、遺構群など遺跡の概要についてまとめた。

### (1) 遺跡の範囲

現在指定されている埋蔵文化財包蔵地は径300mの範囲内で、現況は東山墓地の全域、東山公園、

東山団地跡地、宅地などである。その輪郭については、地形等から北端、南東端、南西端の三点を頂点にした三角形を想定することができる。遺跡の北端については、本調査の成果によって予想外にも、史跡指定地に遺跡の範囲が及ばない可能性が強くなったことから、東山墓地区内北半部分、史跡指定地南端までと考えられる。三角形の西辺にあたる部分は段丘崖によって遺跡が画されているが、崖際今まで縄文中期前半の竪穴住居跡、縄文晩期の遺物が確認されている。

遺跡の南東端を見ると、遺構、遺物の集中する東山15区と遺物の少ない東山16-1・2区との差が目されるが、このさらに東側にも工事立会（⑩⑪）により、土坑2か所、Tピット（溝状遺構）1か所が確認された。これにより、遺構、遺物は少ないが、遺跡の範囲はまださらに延びる可能性が考えられる。また、三角形の南辺にあたる、平成19年6月の工事立会範囲（⑧）では竪穴住居跡と土坑が確認されている。これより南側は緩やかに下る傾斜となるが、やはり遺跡はさらに広がる可能性がある。

遺跡の南西端は、東山墓地区内の南西端にある沢状地形によって画されている。工事立会（⑬）による調査では沢際まで縄文中期や後期、擦文文化期の包含層が及ぶことが確認されている。

## （2）遺跡の時期

史跡名にもあるように、円筒土器を伴う縄文前期後半から中期前半が主体である。本調査の成果もこれと大きく異なるものではないが、第2地点地区、東山15区内の一部においては、縄文時代前期後半、特に前期末の土器出土が顕著であった。これまでの調査結果の指摘にもあるように、遺跡内の遺構、遺物の分布における年代的な変化の存在がますます明らかになった。

先の平成13～15年度の調査（⑥）では、北東側の竪穴群、土坑群には縄文前期後半のものが多く、南西側の遺構群には前期末から中期前半のものが多くという傾向が指摘されている。

平成19年4・6月の工事立会（⑧）では、縄文中期前半の遺構のみが確認されたことから、遺跡の南東端には縄文前期の分布が及ばないと考えられた。これと同様に東山墓地区内の工事立会では遺跡の南西端には縄文前期の分布が及ばず、中期のみが確認されている。

なお、本調査では確認されなかったが、円筒土器期以外でこれまでに確認されている時期については、縄文早期、中期後半、晩期、擦文文化期がある。縄文晩期については遺跡北側の段丘崖寄り、擦文文化期については遺跡範囲の南西端で竪穴住居跡が確認されている

## （3）遺構群と集落構成

遺構については、竪穴住居跡や土坑などがまとまりのある遺構群として把握できるようになったことが成果の一つとして考えられる。本調査では15区で確認された盛土遺構、竪穴住居跡群、土坑群が北から南へとほぼ平行に並ぶ配置が想定され、また盛土遺構と竪穴住居跡群の一部が重複することも確認できた。

平成13～15年度の調査（⑥）によって、遺構のない空間（広場）を中心にして両側に土坑群、その外側を竪穴住居跡群が囲むという配置が明らかになった。これにより全体的には径160～200mほどの環状もしくは馬蹄形の集落が想定された。また、15区と同様に盛土遺構（捨場遺構）については竪穴住居群との重複も確認されている。

平成19年4・6月の配水管敷設の工事立会（⑧）では土坑数基と竪穴住居跡1軒が確認され、土坑群を取り囲む竪穴住居群という集落構成の一部としてとらえられている。

未だ部分的ではあるが、このような集落構成が復元されるに及び、道南地域や東北地方における大

規模な円筒文化期の集落の諸特徴が東山1遺跡にも当てはまることが明らかになりつつある。

なお、平成20年3月の工事立会（⑩立会3）にて検出されたTピット（溝状遺構）については、後志地区でのTピットの出土例に限られており、貴重な例として指摘されている。本調査で確認された15区土坑7-4（発掘区7）は、プランのみの確認ではあるが、その形状からTピットと考えられ、本遺跡内の2例目として注目される。

#### （4）盛土遺構と集落構成

本遺跡の集落を構成する要素のなかでも特に盛土遺構の存在は注目された。その可能性のある人為的な堆積は、本調査の15区（⑪）、「第2地点地区」（⑫）、平成13～15年度調査出土の「捨場遺構」（⑬）、東山墓地内における平成24年6月排水管新設工事立会（⑭）、平成22～26年の墓石新設等の工事立会（⑮）などで確認されている。

本調査の「第2地点」地区で確認された盛土遺構は、縄文前期末を主体に縄文中期初頭に至る時期に相当する。近接する平成15年確認の盛土遺構（捨場遺構）とは時期的にもほぼ一体のものと思われる。さらにこれは東山墓地内で確認された盛土遺構にも連なるものと考えられる。

東山15区の北辺で確認された盛土遺構は、位置的に「第2地点」地区のそれとは異なるものと考えられるが、東山墓地内の盛土遺構に連なる可能性はある。東山墓地内で盛土遺構が竪穴住居跡群と重複しながら展開するならば、平成13～15年調査の段階で想定された馬蹄形のような配置で、盛土遺構が一体になることも考えられる。

平成24年6月排水管新設工事立会（⑭）で確認された盛土遺構は、東山墓地の中央部分で尾根状の地形から北西側の斜面にかけて築かれており、前期後半の遺物を主体としている。斜面側の延長にあたる崖際では、現在の電波塔の近辺に貝塚と思われる場所があったとの情報もあり、より豊かな遺跡の様相を考える貴重な手がかりと言える。

このように遺跡内全体における盛土遺構の行方を知る鍵は東山墓地内にあると思われる。墓地内工事立会の情報では、そのほぼ全域で盛土遺構の堆積が確認されているが、詳細な分布状況はまだ明らかではない。東山墓地内の起伏に富んだ微地形は遺跡の内容を反映している可能性があり、微細な地形環境の復原と遺構、遺物分布との関係を知ることが重要であると思われる。

#### 【引用文献】

大場利夫・桐井力蔵 1958 『岩内遺跡』岩内町・町教育委員会

岩内町教育委員会 編 2004 『岩内町東山1遺跡』町道108号線特殊改良一種工事整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書 同委員会

岩内町教育委員会 編 2010 『岩内町東山1遺跡Ⅱ』岩内町公共下水道工事污水管渠敷設及び斎場新設に伴う埋蔵文化財保護のための工事立会 同委員会

岩内町教育委員会 編 2015 『岩内町東山1遺跡Ⅲ』東山墓地平成22～26年度墓石新設・建替及び平成24年度排水管新設に伴う埋蔵文化財保護のための工事立会 同委員会

阪口豊 1962 「岩内・瀬棚地方段丘堆積物の花粉分析」『第四紀研究』2巻4・5号

表Ⅱ－４ 掲載土器一覧

掲載番号	調査 年度	地区	発掘 区	グリッド	出土遺構	出土層位	部位	文様など	時期	分類	備考
図Ⅱ-4-1	H26	東山15区	1	07-582	盛土遺構	盛土層	口縁	縄線文	縄文前期後半	円筒土器下層d式	
図Ⅱ-4-2	H26			04-582		包含層(Ⅰ層)	口縁	貼付文・馬蹄形圧痕文	縄文中期前半	円筒土器上層b式	
図Ⅱ-4-3	H26			03-582		包含層(Ⅱ層)	口縁	縄線文	縄文前期後半	円筒土器下層d式	
図Ⅱ-4-4	H26			03-582		包含層(Ⅱ層)	口縁	貼付文	縄文中期前半	円筒土器上層b式	
図Ⅱ-4-5	H26		2	30-563		包含層(Ⅱ層)	口縁	縄線文	縄文中期前半	円筒土器上層a式	
図Ⅱ-4-6	H26			33-563		包含層(Ⅱ層)	口縁付近	貼付文・圧痕文	縄文中期前半	円筒土器上層b式	
図Ⅱ-4-7	H26			32-563	土坑2-1	土坑覆土	口縁	縄線文・口唇に刻み	縄文前期後半	円筒土器下層d式	
図Ⅱ-4-8	H26		3	3区		包含層(Ⅰ層)	口縁	縄線文・口唇に刻み	縄文前期後半	円筒土器下層d式	
図Ⅱ-4-9	H26		4	26-600		包含層(Ⅲ層) 黒色土層直下	口縁	多軸絡条体回転文・刺突文 縄線文	縄文前期後半	円筒土器下層d式	
図Ⅱ-4-10	H26			30-600		包含層(Ⅲ層) 黒色土層直下	口縁 胴部	撚糸文・口唇に刻み	縄文中期前半	円筒土器上層a式	a. b 同一個体
図Ⅱ-4-11	H26			30-600H1	竪穴住居跡4-1	竪穴覆土下層	口縁付近	撚糸文	縄文前期後半	円筒土器下層d式	
図Ⅱ-4-12	H26		5	28-620	盛土遺構	盛土層	口縁(突起)	貼付帯・馬蹄形圧痕文 第1種結束羽状縄文	縄文中期前半	円筒土器上層b式	
図Ⅱ-4-13	H26			33-620	竪穴住居跡5-1	竪穴覆土	口縁	縄線文	縄文前期後半	円筒土器下層d式	
図Ⅱ-4-14	H26			25-620		包含層(Ⅰ層)	口縁(突起)	貼付帯 馬蹄形圧痕文 第1種結束羽状縄文	縄文中期前半	円筒土器上層b式	
図Ⅱ-4-15	H26			25-620		包含層(Ⅰ層)	口縁	貼付帯 縄線文 刺突 による列点文	縄文中期前半	円筒土器上層a式	
図Ⅱ-4-16	H26		8	大50-620		包含層(Ⅰ層)	口縁	貼付帯・3条1組の縄線文	縄文中期前半	円筒土器上層a式	
図Ⅱ-4-17	H26			大50-620		包含層(Ⅰ層)	口縁	貼付帯・縄線文・刺突文	縄文中期前半	円筒土器上層a式	
図Ⅱ-4-18	H26	東山16区 1・2区	9	9区		包含層(Ⅰ層)	口縁	縄線文	縄文前期後半	円筒土器下層d式	
図Ⅱ-4-19	H26		10	10区		包含層(Ⅰ層)	口縁 胴部	縄線文	縄文前期後半	円筒土器下層d式	a. b 同一個体
図Ⅱ-4-20	H26		14	大50-655		包含層(Ⅲ層)	口縁	縄線文	縄文前期後半	円筒土器下層d式	
図Ⅱ-4-21	H26			大50-655		包含層(Ⅲ層)	口縁(突起)	縄線文	縄文前期後半	円筒土器下層d式	
図Ⅱ-4-22	H26	東山15区	11	12-564	盛土遺構	盛土層	口縁～底部 復原個体	縄線文・第2種結束羽状縄文 多軸絡条体回転文	縄文前期後半	円筒土器下層d式	器高28.0cm 口径17.2cm 底径10.0cm
図Ⅱ-4-23	H26			大10-564	盛土遺構	盛土層	口縁～底部 復原個体	撚糸・縄線文・斜行縄文	縄文前期後半	円筒土器下層d式	器高18.8cm 口径(14.8cm) 底径10.0cm
図Ⅱ-5-24	H26			11-564	盛土遺構	盛土層	口縁～底部 復原個体	縄線文・撚糸文	縄文前期後半	円筒土器下層d式	器高20.8cm 口径13.6cm 底径8.8cm
図Ⅱ-5-25	H26			11-564	盛土遺構	盛土層	口縁～底部 復原個体	縄線文・羽状縄文・撚糸文	縄文前期後半	円筒土器下層d式	器高34.0cm 口径18.0cm 底径12.0cm
図Ⅱ-5-26	H26			12-565	盛土遺構	盛土上層	口縁～胴部	縄線文・多軸絡条体回転文	縄文前期後半	円筒土器下層d式	
図Ⅱ-5-27	H27	第2地点地区	トレンチ1	65-29	盛土遺構	盛土下層	口縁～胴部	縄線文・貼付帯・指頭圧痕文・撚り戻しの縄文	縄文前期後半	円筒土器下層c式	一括
図Ⅱ-5-28	H27			65-29	盛土遺構	盛土下層	口縁～胴部	貼付文・縄線文・斜行縄文	縄文中期前半	円筒土器上層a式	一括
図Ⅱ-5-29	H27			66-29	盛土遺構	盛土上層	口縁～底部	貼付文・斜行縄文	縄文中期前半	円筒土器上層a式	
図Ⅱ-6-30	H27			66-29	盛土遺構	盛土中層	口縁	貼付文・刺突列・縄線文	縄文中期前半	円筒土器上層a式	
図Ⅱ-6-31	H27			67-29	盛土遺構	盛土上層	口縁	貼付文・刺突列・第1種結束羽状縄文	縄文中期前半	円筒土器上層a式	
図Ⅱ-6-32	H27			67-29	盛土遺構	盛土上層	口縁	縄線文・撚糸文・第2種結束羽状縄文	縄文前期後半	円筒土器下層d式	
図Ⅱ-6-33	H27			77-29	盛土遺構	盛土下層	口縁	縄線文・撚糸文・羽状縄文	縄文前期後半	円筒土器下層d式	
図Ⅱ-6-34	H27			77-29	盛土遺構	盛土下層	口縁	縄線文・撚糸文・羽状縄文	縄文前期後半	円筒土器下層d式	
図Ⅱ-6-35	H27			78-29	盛土遺構	盛土最下層	口縁	縄線文・刺突列・撚糸文	縄文前期後半	円筒土器下層d式	
図Ⅱ-6-36	H27			78-29	盛土遺構	盛土最下層	口縁	縄線文・撚糸文	縄文前期後半	円筒土器下層d式	

表Ⅱ－5 掲載石器一覧

掲載番号	出土地区	出土 トレンチ	遺構	層位	器種名	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	石材	調査年度	備考	
図版 4	1	東山15区	1		Ⅱ層	たたき石	12.9	7.9	5.5	安山岩	平成26年度	
	2	東山15区	1		Ⅱ層	扁平打製石器	9.0	(9.7)	1.8	安山岩	平成26年度	
	3	東山15区	1		Ⅱ層	北海道式石冠	6.8	9.4	4.2	安山岩	平成26年度	
	4	東山15区	2		Ⅲ層	石鏃	4.4	1.8	0.8	黒曜石	平成26年度	
	5	東山15区	2	土坑	覆土	たたき石	(15.5)	9.4	8.1	安山岩	平成26年度	
	6	東山15区	3	竪穴住居跡3-1	竪穴覆土	石鋸	(8.9)	18.3	2.0	安山岩	平成26年度	扁平打製石器の可能性あり
	7	東山15区	4	竪穴住居跡4-1	覆土下層	たたき石	12.2	4.2	3.6	安山岩	平成26年度	
	8	東山15区	4	竪穴住居跡4-1	覆土下層	たたき石	14.8	6.4	4.1	安山岩	平成26年度	
	9	東山15区	4	竪穴住居跡4-1	覆土上層	つまみ付きナイフ	7.1	3.7	0.7	頁岩	平成26年度	
	10	東山15区	4	竪穴住居跡4-1	覆土上層	北海道式石冠	11.3	15.8	6.9	安山岩	平成26年度	
	11	東山15区	4	竪穴住居跡4-1	覆土上層	扁平打製石器	9.1	(9.2)	1.7	安山岩	平成26年度	
図版 5	12	東山15区	4	竪穴住居跡4-1	覆土上層	台石・石皿	(30.4)	(29.1)	7.2	安山岩	平成26年度	
	13	東山15区	4		黒色土層直下	石鋸	6.6	(10.8)	1.2	安山岩	平成26年度	
	14	東山15区	4		黒色土層直下	扁平打製石器	10.9	14.5	2.1	安山岩	平成26年度	
	15	東山15区	4		黒色土層直下	扁平打製石器	6.4	16.3	1.9	安山岩	平成26年度	
	16	東山15区	5	盛土遺構	盛土層	石鏃	3.7	1.2	0.5	黒曜石	平成26年度	
	17	東山15区	5	盛土遺構	盛土層	つまみ付きナイフ	4.9	2.8	1.0	黒曜石	平成26年度	
	18	東山15区	5	盛土遺構	盛土層	石斧	7.1	2.3	1.0	緑色泥岩	平成26年度	
	19	東山15区	5	盛土遺構	盛土層	石斧	10.1	4.9	1.3	緑色泥岩	平成26年度	
	20	東山15区	5	盛土遺構	盛土層	たたき石	7.8	5.4	3.5	安山岩	平成26年度	
	21	東山15区	5	盛土遺構	盛土層	たたき石	10.4	5.8	4.4	安山岩	平成26年度	
	22	東山15区	5	盛土遺構	盛土層	たたき石	11.9	7.6	4.0	安山岩	平成26年度	
図版 6	23	東山15区	5	竪穴住居跡5-1	竪穴覆土	スクレイパー	7.7	4.5	1.5	頁岩	平成26年度	
	24	東山15区	5	竪穴住居跡5-1	竪穴覆土	たたき石	10.8	8.8	5.4	安山岩	平成26年度	
	25	東山15区	5	竪穴住居跡5-1	竪穴覆土	北海道式石冠	10.8	(12.5)	7.6	安山岩	平成26年度	
	26	東山15区	5	竪穴住居跡5-1	竪穴覆土	北海道式石冠	9.7	11.5	6.2	安山岩	平成26年度	
	27	東山15区	5	竪穴住居跡5-1	竪穴覆土	北海道式石冠	9.0	11.5	5.7	安山岩	平成26年度	
	28	東山15区	5	竪穴住居跡5-1	竪穴覆土	北海道式石冠	11.4	(14.2)	7.0	安山岩	平成26年度	
	29	東山15区	5	竪穴住居跡5-1	竪穴覆土	北海道式石冠	10.7	(13.9)	(6.2)	安山岩	平成26年度	
	30	東山15区	5		Ⅱ層	北海道式石冠	9.2	(11.0)	5.5	安山岩	平成26年度	
図版 7	31	東山15区	8		Ⅰ層	北海道式石冠	9.0	13.7	6.6	安山岩	平成26年度	
図版 6	32	東山15区	11		盛土層	石斧	(3.8)	(4.8)	(1.7)	片岩	平成26年度	
図版 7	33	東山15区	11		盛土層	扁平打製石器	8.0	13.8	3.1	安山岩	平成26年度	
	34	東山15区	11		盛土層	北海道式石冠	6.7	10.0	4.4	安山岩	平成26年度	
	35	東山15区	11		盛土層	北海道式石冠	9.3	11.3	5.2	安山岩	平成26年度	
	36	東山15区	11		盛土層	石鋸	5.0	17.0	2.1	安山岩	平成26年度	扁平打製石器の可能性あり
	37	東山15区	12		Ⅲ層	石鏃	3.3	1.0	0.5	黒曜石	平成26年度	
	38	東山16-1・2区	13		Ⅰ層	北海道式石冠	11.5	14.3	(4.2)	安山岩	平成26年度	
	39	東山16-1・2区	14		Ⅱ層	扁平打製石器	8.1	(9.7)	2.2	安山岩	平成26年度	
	40	第2地点地区	2TR1	盛土遺構	盛土上層	石鏃	2.4	1.1	0.4	黒曜石	平成27年度	
	41	第2地点地区	2TR1	盛土遺構	盛土上層	石鏃	(3.9)	1.5	0.5	黒曜石	平成27年度	
	42	第2地点地区	2TR1	盛土遺構	盛土上層	石鏃	(3.2)	1.6	0.3	黒曜石	平成27年度	
図版 7	43	第2地点地区	2TR1	盛土遺構	盛土上層	石鏃	3.8	1.7	0.4	頁岩	平成27年度	
	44	第2地点地区	2TR1	盛土遺構	盛土下層	石槍またはナイフ	6.0	3.2	1.4	黒曜石	平成27年度	
	45	第2地点地区	2TR1	盛土遺構	盛土上層	つまみ付きナイフ	6.1	2.9	0.9	頁岩	平成27年度	
	46	第2地点地区	2TR1	盛土遺構	盛土中層	スクレイパー	(2.1)	4.2	0.7	頁岩	平成27年度	
	47	第2地点地区	2TR1	盛土遺構	盛土下層	スクレイパー	4.3	2.3	0.5	頁岩	平成27年度	
	48	第2地点地区	2TR1	盛土遺構	盛土中層	扁平打製石器	6.5	(6.1)	2.2	安山岩	平成27年度	
	49	第2地点地区	2TR1	盛土遺構	盛土下層	扁平打製石器	11.1	(9.9)	1.3	安山岩	平成27年度	
	50	第2地点地区	2TR1	盛土遺構	盛土下層	扁平打製石器	8.8	(14.5)	15.1	安山岩	平成27年度	
	51	第2地点地区	2TR1	盛土遺構	盛土上層	北海道式石冠	7.0	9.9	5.7	安山岩	平成27年度	
	52	第2地点地区	2TR1	盛土遺構	盛土上層	石鋸	7.0	(11.1)	3.3	安山岩	平成27年度	扁平打製石器の可能性あり
図版 8	53	第2地点地区	2TR1	盛土遺構	盛土下層	台石・石皿	38.5	34.5	10.4	安山岩	平成27年度	
	54	第2地点地区	2TR1	竪穴	掘上土上層	たたき石	12.5	5.9	4.1	安山岩	平成27年度	
	55	第2地点地区	2TR1	竪穴	掘上土上層	たたき石	12.1	5.8	5.0	安山岩	平成27年度	
	56	第2地点地区	2TR1	竪穴	掘上土上層	台石	12.4	11.0	4.1	安山岩	平成27年度	タール状物質付着

※北海道式石冠で下面端部に剥離が生じているものの内、摩耗が認められるものは破損後の継続使用を想定し、完形品として計測した。

※北海道式石冠と扁平打製石器は高×幅×厚の順で計測している。

※括弧内の計測値は破損状態の現状値を表す。



## Ⅲ 湧別町シブノツナイ竪穴住居群の調査

### 1 調査の概要

#### (1) 調査要項

調 査 名 称 重要遺跡確認調査  
 調 査 対 象 湧別町シブノツナイ竪穴住居群（I-21-35）  
 北海道指定史跡「シブノツナイ竪穴住居跡」（昭和42年3月17日指定）  
 所 在 地 紋別郡湧別町川西499-1・2、502-1・2、503、714、717、718、719、720、  
 722-1・2・3、930、番地  
 対 象 面 積 139,486㎡  
 調 査 期 間 平成28年9月1日～9月22日

#### (2) 調査体制

北海道立埋蔵文化財センター指定管理者 公益財団法人北海道埋蔵文化財センター  
 理 事 長 越田賢一郎  
 副 理 事 長 中田 仁  
 事 務 局 長 山田 寿雄  
 常 務 理 事 長沼 孝  
 総 務 部 部長 和田 基興  
 第1調査部 部長 長沼 孝  
 普及活用課 課長 田口 尚  
 主査 坂本 尚史  
 第1調査課 課長 中山 昭大

#### (3) 調査の経緯

##### 【調査に至るまで】

本遺跡ではこれまでに2度の発掘調査が行われている。最初は昭和38年（1963年）、網走市立郷土博物館の米村哲英により竪穴住居跡3軒が発掘され、カマドの存在や擦文式土器の出土から擦文文化期の遺跡であることが確認された（米村哲英「北海道紋別郡湧別町字川西シブノツナイ遺跡調査概報」）。2度目の調査は昭和41年（1966年）、大場利夫を発掘担当者として湧別町が実施した。擦文文化期の竪穴住居跡2軒（238・318号）が調査されたほか、測量調査により竪穴が665か所確認された。この調査の後の昭和42年（1967年）に北海道史跡に指定され、指定名称は「シブノツナイ竪穴住居跡」となった（平成12年に埋蔵文化財包蔵地の名称を「シブノツナイ竪穴住居群」と改称）。なお、指定時の竪穴数は515か所である。

##### 【重要遺跡確認調査】

平成26～29年度の4年間で、現況平面図の作成及び空中写真撮影などの現況確認調査、竪穴群の構築時期や分布状況などの確認を目的とした竪穴の発掘調査、既往の調査などに関する関連資料の収集を行うことが指示された。



図Ⅲー1 遺跡の位置と周辺の地形

調査は平成26年度にはじまり、初年度は遺跡に関する資料収集、現地踏査及び現況の写真撮影などを行った。現地での測量調査は平成27年度から開始し、簡易 GPS を用いた堅穴の位置記録と詳細測量を並行して進め、435か所の堅穴の位置確認と149か所の詳細測量を行った。また、堅穴構造の記録として規模・深さ・平面形状について観察した。

今年度の調査では新たに92か所の堅穴を確認し、総確認数を527か所とした。詳細測量は新規堅穴を含む全てについて完了させ、今年度の詳細測量件数は380か所に及んだ。また、堅穴分布範囲周辺の地形測量と一部堅穴のエレベーション図作成なども行った（次年度掲載予定）。

#### (4) 調査の経過

本調査は「平成26～29年度重要遺跡確認調査実施要領」に基づき、平成28年5月31日（火）に道教委文化財・博物館課と、5月下旬から6月上旬に湧別町教委との打ち合わせを経て計画されたものである。

現地周辺は湧別町農業協同組合により牛の放牧地として使用されているため、遺跡への進入方法、時期などについて打ち合わせを行い、放牧時期の調整や進入時の消毒などで農業協同組合の協力を得ることが出来た。

調査に先行する8月30日（火）・31日（水）には基準杭の設置を㈱シン技術コンサルに委託して行った。調査員は8月30日から現地に赴き、環境整備や作業準備を行った。また、湧別町教育委員会からは器材置き場として使用するテントや草刈り機などの借用をはじめ、多大なご協力を頂いた。

測量調査は平成28年9月1日（木）～22日（木）の間の15日間で行い、調査員は3名、作業員は最大7名の体制で臨んだ。期間中には大規模な放牧や蚊の異常発生により作業が妨げられる場面がみられた。特に蚊の問題は深刻で、防虫及び虫刺され対策が不可欠であった。作業終了後の9月23日（金）に撤収作業を行い、現況復元をした。

## 2 遺跡周辺の環境

#### (1) 遺跡の立地

シブノツナイ堅穴住居群は湧別町川西地区に所在する（図Ⅲ－1）。川西地区は町域最北東部にあたり、北はオホーツク海に面し、東に湧別川、西はシブノツナイ湖が位置する。遺跡から湧別川までは約3.5km、シブノツナイ湖までは800mほどの距離がある。地区の大半が標高2m以下の低地帯であるが、湧別川の支流センサイ川とシブノツナイ湖との間には海に向かって標高5mの細長い段丘が延びており、この海岸段丘の先端部にシブノツナイ堅穴住居群が立地する。堅穴群と現在の海岸線との距離はおよそ100mで指定範囲の北側には海岸線に沿って形成された砂丘列が近接しており、周辺にはハマニンニク、ハマエンドウ、ハマナスの群生がみられ、南西側にはミズナラカシワを主体とする防風保安林が広がる。

遺跡の所在する湧別町はオホーツク海型気候地域に含まれ、年間降水量は720mm程度で平均気温は5.8度前後、冬は流水が接岸する2月に気温が著しく低下するが積雪量は比較的少ない。春から夏にかけてはオホーツク海高気圧の停滞による濃霧が発生し、平均気温10～18度程度の冷涼な気候となる。

#### (2) 周辺の遺跡

遺跡周辺は平坦地形が広範囲に広がるが、遺跡の南東側300mほどの段丘面縁辺部には100軒ほどの

規模の竪穴群が湧別町教委の分布調査によって確認されており（平成29年1月に「川西2遺跡」として登載）、シブノツナイ竪穴住居群と一連の集落を構成する可能性が指摘できる。また尾根状に伸びる段丘の先端部、センサイ川に面した範囲には川西オホーツク遺跡が立地する。川西オホーツク遺跡は昭和35年に米村喜男衛により「川西遺跡」として発掘調査が行われ、オホーツク文化期の竪穴と擦文時代の竪穴が確認されているが、当時はシブノツナイ竪穴住居群と川西オホーツク遺跡とは一体のものとして考えられていたようである。同遺跡は平成7年に道立北方民族博物館により調査が実施され、オホーツク文化期の住居跡やセイウチの牙製のクマや海獣像が出土している。シブノツナイ湖西側の段丘上には沼の上遺跡、シブノツナイ遺跡が位置する。後者は縄文時代前期後半のシュブノツナイ式土器の標識遺跡であるが、擦文文化期の遺物も確認されている。また、シブノツナイ湖の南西側にはシブノツナイ川の段丘上にシブノツナイ2遺跡が立地しており、平成25年度に公益財団法人北海道埋蔵文化財センターによって調査が行われ、縄文時代前期後半から中期の遺物の出土が報告されている（北埋調報316）。湧別川の右岸側に位置する湧別市川遺跡は縄文時代早期の石刃鏃文化の遺跡として著名であり、北海道大学(昭和33年)、札幌大学(昭和48年)、湧別町教育委員会(昭和49・59年)、東京大学（平成25年）が調査を実施している。

### 3 調査の方法

#### (1) 調査範囲

調査範囲は北海道指定史跡「湧別町シブノツナイ竪穴住居跡」の指定範囲である。史跡の指定範囲については境界標などが確認できていないため、昨年度に指定時の図面を基に地籍図と照合して作成した範囲図から測量し、指定範囲境界に8か所の仮設杭を打設することとした。その結果今回の打設杭に近接して、経年劣化した木杭を境界北東側の2か所で確認することができ、杭頭には釘もみられた。但し杭は無記名で、打設時期や目的が推測できるような情報は認められなかった。

#### (2) 測量調査

##### 【基準点測量と測量基準杭の打設】

測量作業については、基準点測量と測量基準杭の設置、水準測量を(株)シン技術コンサルに委託し、竪穴の詳細測量と周辺地形測量は調査員・作業員で行った。基準点は指定範囲内に4級基準点を4か所設置した。また平成27年度の基準点についても再確認のための観測を行い、2か年合計で7か所の基準点を設置した。測量基準杭は指定範囲内に21か所を設置した。平成27年度のものを含めると26か所に及ぶ(図Ⅲ-2)。内8か所は立木などの影響で測量が困難なものに対応するため、任意箇所に設置している。今年度設置した杭の座標値(全て世界測地系Ⅱ系)は次のとおりである。

##### 〈基準点〉

H28T1 (X=28059.664 Y=105871.420) H28T2 (X=28074.824 Y=105809.115)

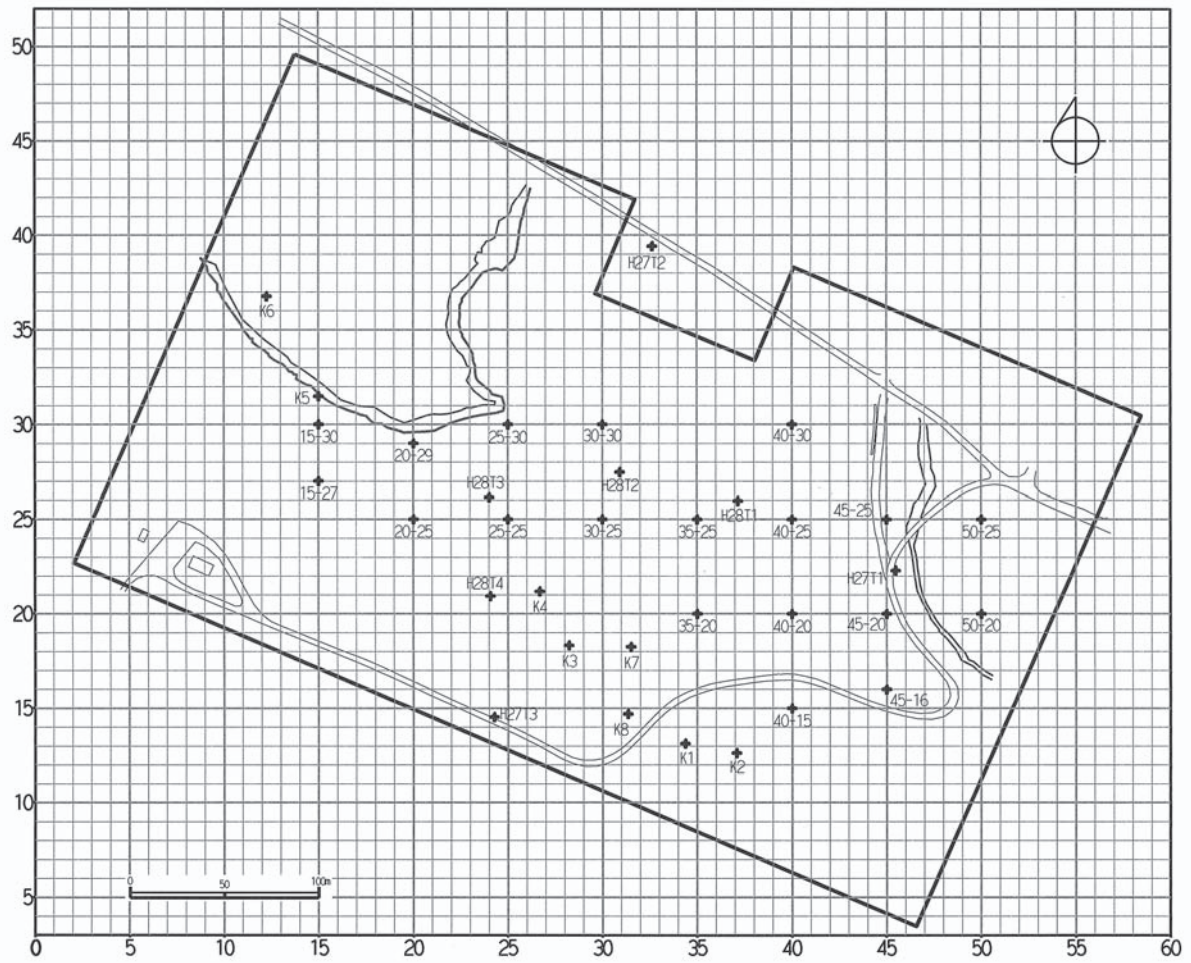
H28T3 (X=28061.430 Y=105740.042) H28T4 (X=28009.327 Y=105740.641)

##### 〈測量基準杭〉

測量基準杭の名称は「南北ラインー東西ライン」で表され、当該名称は基準杭北東側の調査区(グリッド)の名称となっている。

15-27 (X=28070.000 Y=105650.000) 15-30 (X=28100.000 Y=105650.000) 20-25 (X=28050.000 Y=105700.000)

20-29 (X=28090.000 Y=105700.000) 25-25 (X=28050.000 Y=105750.000) 25-30 (X=28100.000 Y=105750.000)



図Ⅲ－２ 測量基準点の位置（１：４０００）



図Ⅲ－３ 竪穴分布範囲と周辺の地形（１：４０００）

30-25 (X=28050.000 Y=105800.000)	30-30 (X=28100.000 Y=105800.000)	35-20 (X=28000.000 Y=105850.000)
35-25 (X=28050.000 Y=105850.000)	40-15 (X=27950.000 Y=105900.000)	40-20 (X=28000.000 Y=105900.000)
40-25 (X=28050.000 Y=105900.000)	40-30 (X=28100.000 Y=105900.000)	45-16 (X=27960.000 Y=105950.000)
50-25 (X=28050.000 Y=106000.000)		
K1 (X=27931.330 Y=105843.696)	K2 (X=27926.356 Y=105870.752)	K3 (X=27983.292 Y=105782.248)
K4 (X=28011.837 Y=105766.799)	K5 (X=28114.999 Y=105650.000)	K6 (X=28167.680 Y=105622.545)
K7 (X=27982.510 Y=105815.044)	K8 (X=27947.004 Y=105813.474)	

### 【堅穴番号】

堅穴番号については昨年度付した番号をそのまま踏襲し、現地の堅穴に番号を記入した「番号旗」（竹串にガムテープを巻き付け作成した20cm大の小旗）を立て、認識することとした。番号旗は作業状況の把握のため、昨年度測量済みのものは白色、今年度測量を行うものは肌色とし、測量を終了したのものには旗に朱書きで丸印を記入した。また常に進捗状況が把握できる様、後述する作業チームに「進捗カード」を配布し、各堅穴の測量作業終了後に随時記入することを徹底した。但し堅穴番号については、堅穴の密集範囲では堅穴番号を誤認して旗を立て測量を行ったものもあり、これらについては昨年の番号を誤認した番号へと変更している。

### 【堅穴詳細測量の方法】

堅穴の詳細測量は昨年度の方法を踏襲し、トータルステーションを用いた。測量作業は6名の作業員を2名ずつ3チームに分け、各チーム内で機械操作とターゲット保持の役割分担をした。また各チームの作業の重複を避けるため、作業エリアを分けるなどの工夫をした。詳細測量は原則、上端ライン（20か所）、下端ライン（10か所）および下面端点（最も低いところ1点）を記録することとしたが、測点数については状況に応じて臨機に変更した。方形の上端測点は、四つ角の頂点と各近接する2点（計12点）、及び各頂点間の2点（計8点）を基本とした。円・楕円形の測点は概ね均等に配置しつつ形状の変換点を押さえるように心掛けた。

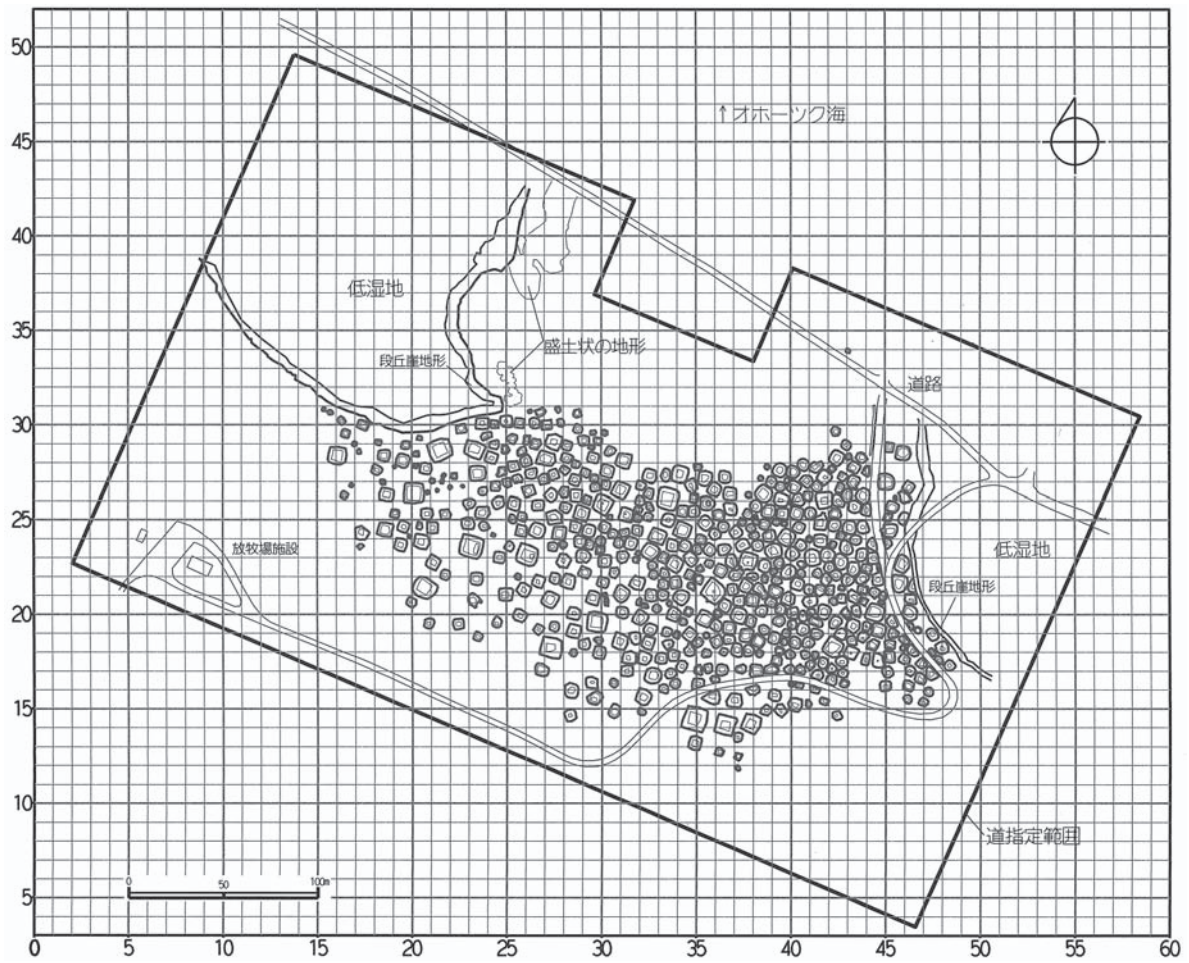
### 【測量データの管理】

測量したデータは日中の作業終了後、毎日ハードディスクに転送・保管し、上述の進捗カードと照合してデータに遺漏がないかを確認した。さらに遺跡管理システム（株式会社シン技術コンサル）を用いてコンピュータ上で図面展開し、測量内容に異常がないかを確認した。異常がみられた場合は即時原因を確認して翌日の作業に支障が出ないように努め、また再測量の指示・調整を行った。

## (3) 堅穴の新規確認調査

今年度の調査では、昨年度調査から新たに92か所の堅穴を確認した。これにより本調査で認められた堅穴の総数は527か所となり、昭和42年の北海道史跡指定時に認識されていた515か所よりも12か所多くなった。堅穴が増加した理由として、①草刈り作業を入念に行うことによって中・小型規模の堅穴の検出に結びついた、②堅穴密集部において遺構間空隙部の可能性がある浅いものも積極的に堅穴と判断した、③昨年度の確認記録漏れを把握した、④堅穴密集範囲外の踏査を行い単独的に分布する堅穴（堅穴527）を確認した、ことがあげられる。発掘調査ではないため、視覚的に認識できる「窪み」を「堅穴」＝遺構と判断しているが、後述の様に堅穴には極小～超特大までの規模の違いがみられ、住居跡や土坑など性格の異なる遺構が混在していると考えられる。

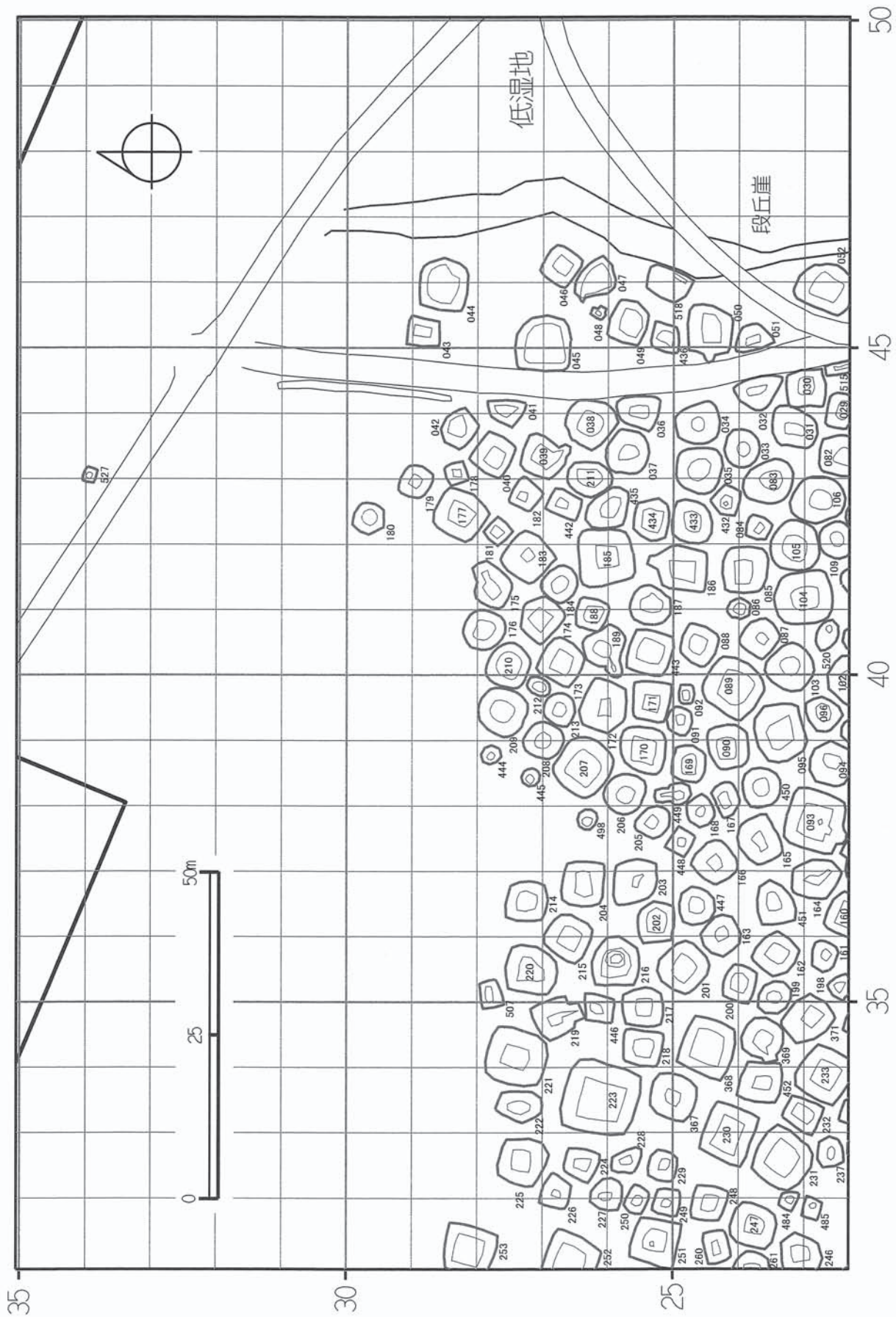
現地で新たに堅穴を認識した場合は、①堅穴中央部に蛍光テープを巻いたピンボールを新規の目印として設置、②番号旗を立てる、③堅穴分布図面（縮尺1/1000）に分布地点を周辺堅穴・基準杭から



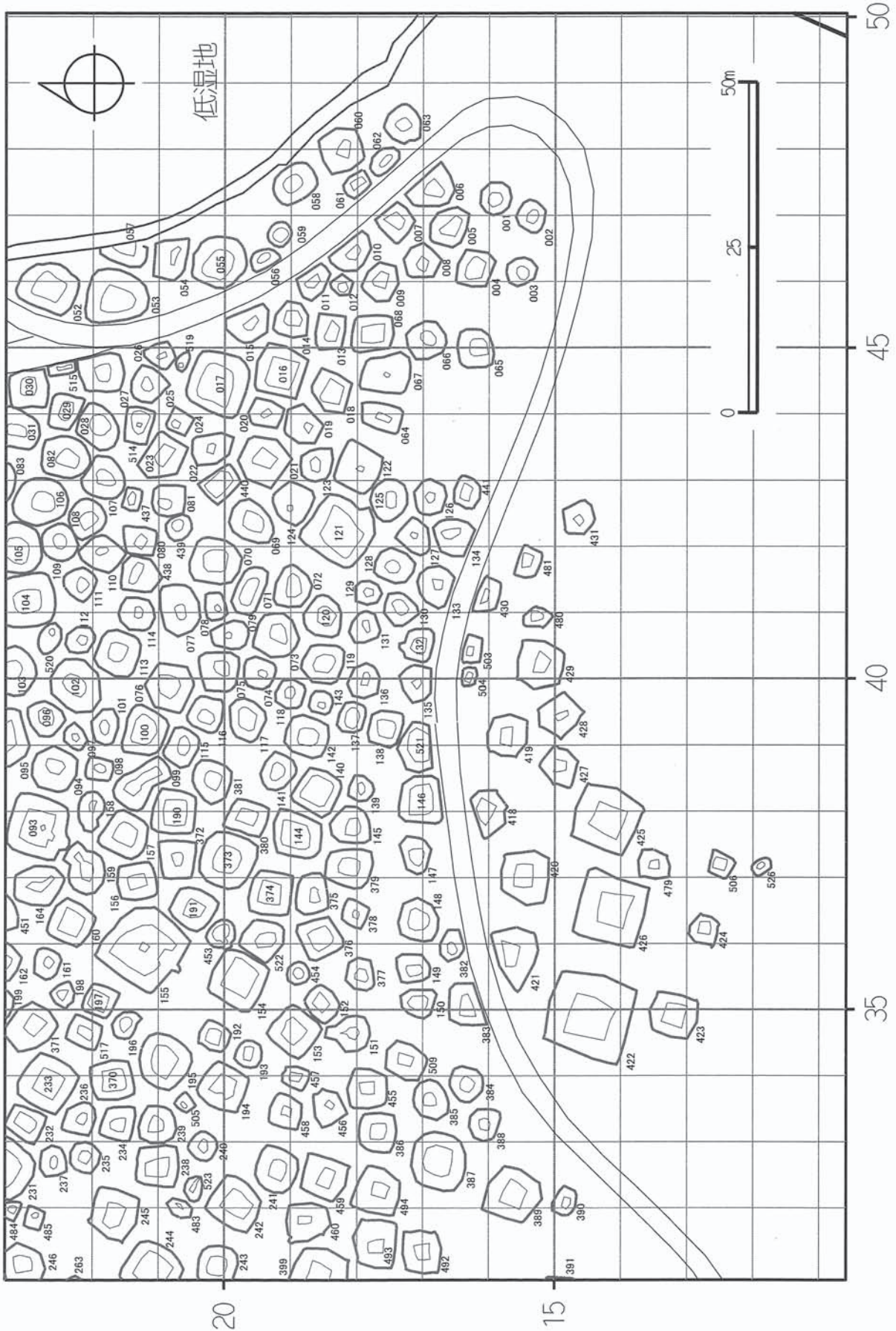
図Ⅲ－４ 道指定範囲と竪穴分布（縮尺 1：4000）



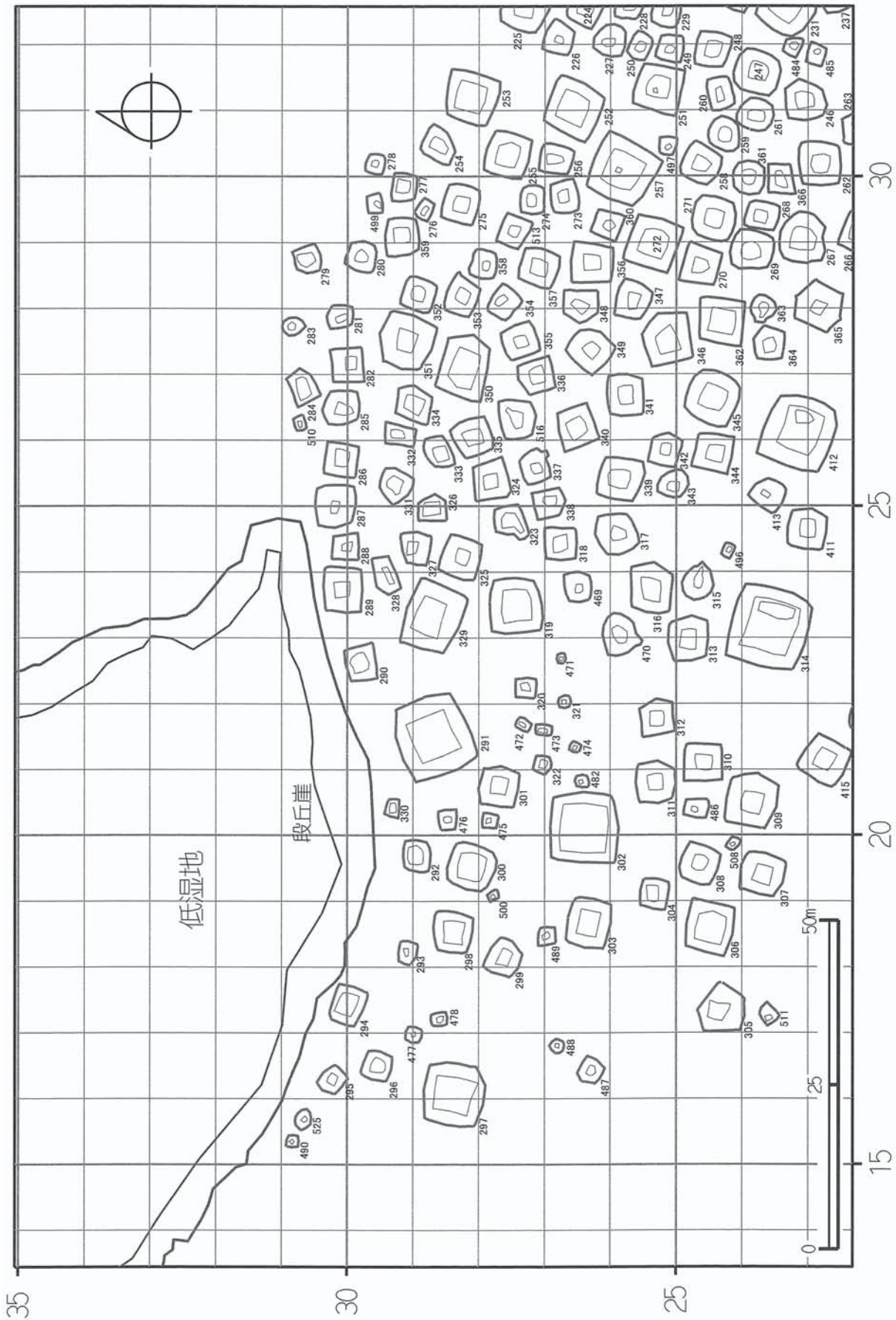
図Ⅲ－５ 竪穴分布状況（縮尺 1：2600）



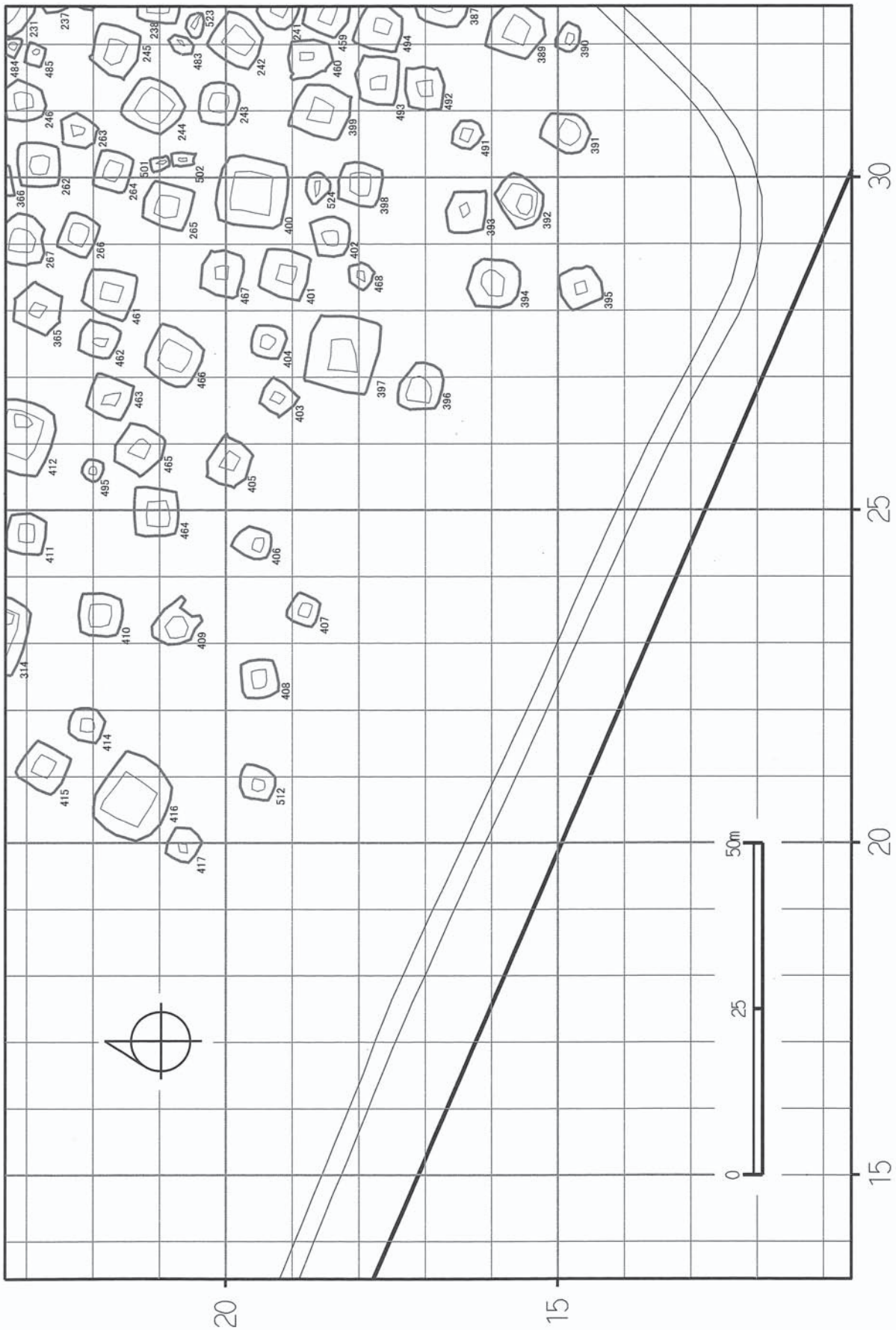
図Ⅲ－6 竪穴詳細分布 北東部（縮尺 1 : 850）



図Ⅲ-7 竪穴詳細分布 南東部 (縮尺 1 : 850)



図Ⅲ—8 竪穴詳細分布 北西部 (縮尺 1 : 850)



図Ⅲ－９ 竪穴詳細分布 西南部（縮尺 1 : 850）

の目測・歩測によって割出し手書きで記録する、④簡易 GPS で地点記録する、⑤野帳に確認・観察内容を記録する、の手順を踏んで登録作業を行った。その後作業進捗に応じて順次詳細測量を行った。

#### (4) 写真撮影

現地での写真撮影にはデジタルカメラ（シグマ DP1 メリル）を主体として、一部 4 × 5 判のカメラを用いた。撮影内容は、①立地や堅穴の属性に応じて複数の堅穴を集合的に撮影した場合と、②各堅穴全てを個別的に撮影した場合の、2 種類がある。

## 4 調査の成果

### (1) 測量成果

今回の調査では堅穴詳細測量と周辺地形測量を主に行い、測量成果を図 3 ～ 9 に掲載した。堅穴の総数は 527 か所で、指定範囲の中央部、東西の段丘崖に挟まれた南北約 160 m ・東西約 310 m の範囲、およそ 41,000 m<sup>2</sup> に高密度に分布する（以下、当該範囲を「堅穴分布範囲」と呼称）。堅穴群が立地する海岸段丘上の地形は、指定範囲のおよそ中央南部に標高約 5 m の微高地が位置し、そこから東・北・西方向へ緩やかに傾斜している（図Ⅲ-3）。しかし現地ではほとんど傾斜を感じることはなく、印象として平坦地形が広域的に広がる環境である。4 万 m<sup>2</sup> に及ぶ堅穴の高密度の分布はこうした地形条件が影響して生じたと考えられる。堅穴の分布傾向として北西部から東部にかけて密集し、南西部ではやや疎らとなる。特に東部の密集度は顕著である（図Ⅲ-4・5）。南西部は漸移的に密度が低くなり分布が途切れるが、北部は分布範囲の端まで高密度に認められる。また、段丘崖下は海岸砂丘の後背湿地であり、比高は 3 m ほどであるが、堅穴の分布はこの段丘崖縁辺にまで及んでいる。さらに今年度の調査では堅穴の密集する範囲から北側へ 40 m ほど離れた地点（海岸側の道路北側）で堅穴（極小）を 1 か所確認している（図Ⅲ-6 堅穴 527）。

堅穴の計測値と測量作業時に観察された内容については、表Ⅲ-4「確認堅穴一覧」に掲載した。計測値は測量データを元に遺跡管理システムと表計算ソフトを用いて計測・算出しており、平面形状も測量平面図や航空写真を元に判断し記載した。さらに、これら測量成果から得られた計測値や属性を遺跡管理システム上の測量データに追加入力し、属性ごとの集計や図面展開が可能となった。

### (2) 現地調査での確認事項

現地調査により、いくつかの現場所見を得ることができた。大まかには、①堅穴の構造に関連する事項、②過去の調査に関連する事項、③地形改変と堅穴分布に関連する事項、などがある。

#### ①堅穴の構造に関連する事項

かまど・煙道部とみられる壁際の盛土や張り出し状の凹みを有する堅穴を 8 か所確認した（堅穴 39・93・121・155・186・337・409・460）。次年度調査で再確認の必要があり、さらに増加する可能性がある。但し、放牧による牛の踏込みで損傷を受けている堅穴があり、煙道・入口の凹みの判断には検討を要する。また、堅穴の周囲に盛土を有するものや堅穴下面で礫が露出するものを複数か所で確認した。今年度は規模や形状、地点の記録は行っておらず、次年度に詳細な調査が必要である。

#### ②過去の調査に関連する事項

堅穴下面中央部付近に 0.5 ～ 1 m 四方の方形の凹みがあるものを 5 か所確認した（堅穴 155・251・257・432・514）。また、堅穴下面壁寄りで幅 2 m ほどの帯状の盛土を 2 か所確認した（堅穴 314・412）。

発掘調査による確認が必要ではあるが、これらは昭和38年および昭和41年の調査の試掘坑と排土である可能性が考えられる。昭和41年の調査は238号・318号の2か所の発掘が記録されているが（湧別町教育委員会 1966）、昨年度の報告では238号が現竪穴365に、318号が現竪穴287に該当することが示された（北海道立埋蔵文化財センター 2016）。この2か所からは上述の凹み・盛土は確認できておらず、今回認識した痕跡は昭和38年度調査に関係する可能性が高いと思われる。

### ③地形改変の可能性と竪穴分布に関連する事項

竪穴の分布は上述のように、指定範囲中央部の41,000㎡ほどの範囲に高密度で認められる（竪穴分布範囲）。分布傾向は北西部から東部で密集し南西部は漸移的に密度が低くなり分布が途切れるが、北部では分布範囲の端まで高密度に認められる。竪穴分布範囲北側には海岸砂丘列までの間に平坦地形が広がっており、この平坦地西側の段丘縁に近接して盛土状の地形が、東西ライン37～43の間で約60×15m規模のもの1か所、東西ライン31～33の間で23×10m規模のもの1か所が確認された。発掘調査を行っていないため盛土状地形の内容は不明であるが、竪穴分布範囲北側を広く整地して寄せた排土の可能性が指摘でき、この場合、北側にも整地により埋没した竪穴の分布を想定する必要がある。

## (3) 竪穴の属性観察

### ①分類

竪穴の規模・形状に関し、A．平面形状、B．規模、C．深さについて下記のように分類した。

A．平面形状は円形・楕円形、方・長方形、多角形、柄鏡形に分類した。円形と楕円形、方形と長方形の区分は長幅比1.5を境界としている。平面形には不明瞭なもの不整形なものも含まれるため判別が難しい状況ではあったが、航空写真や現地での観察を参考に上記4種類のいずれかに分類をした。柄鏡形は円・楕円形と方形が接続した形状のものが該当し、方形部が小さい帆立貝形のものも含まれる。

B．規模は遺跡管理システムで展開した図面を計測して面積を求め、分類した。規模の分類は極小（5㎡未満）、小（5～10㎡未満）、小－中（10～30㎡未満）、中（30～50㎡未満）、中－大（50～70㎡未満）、大（70～90㎡未満）、特大（90～110㎡未満）、超特大（110㎡以上）とした。求積は形状によって次のように行った。円・楕円形は長径と短径を計測して長径 $1/2 \times$ 短径 $1/2 \times$ 円周率3.14で概算面積を求めた。方・長方形は長辺と短辺（いずれも対抗する辺の長い方）を計測し長辺 $\times$ 短辺で概算面積を求めた。多角形と柄鏡形は遺跡管理システムを用い展開図面から実面積を計測した。

C．深さは竪穴上端と下端の測点標高の平均値を差引して求め、分類した。深さの分類は、特に浅い（0.3m未満）、浅い（0.3～0.5m未満）、やや深い（0.5～0.8m未満）、深い（0.8～1.0m未満）、特に深い（1.0m以上）である。

表Ⅲ－1 規模の分類

規模（面積基準）	分類
5㎡未満	極小
5～10㎡未満	小
10～30㎡未満	小－中
30～50㎡未満	中
50～70㎡未満	中－大
70～90㎡未満	大
90～110㎡未満	特大
110㎡以上	超特大

表Ⅲ－2 深さの分類

深 さ	分類
0.3m未満	特に浅い
0.3～0.5m未満	浅い
0.5～0.8m未満	やや深い
0.8～1.0m未満	深い
1.0m以上	特に深い

## ②属性集計結果

属性集計結果を表Ⅲ－３にまとめた。平面形状で最も多いものは方・長方形で321か所（60.9%）、次に多いのは円・楕円形で152か所（28.8%）であり、多角形（40か所・7.6%）や柄鏡形（14か所・2.7%）はやや少数に留まる。次に平面形状と規模の関係を形状主体に観察する。円・楕円形は極小～大までがみられ、小～中～中規模が主体である。90㎡を超える特大以上のものは認められない。方形・長方形は極小～超特大まで全ての規模がみられるが、小～中～中規模が主体を占める。多角形は小～中～中～大が主体だが1軒超特大のものが存在する。平面形状で多くみられた方・長方形、円・楕円形とも小～中～中規模に大半が該当しており、全体に占める割合は前者で約5割、後者で約2割に及んでいる。これらのことからシブノツナイ堅穴住居群は主に方・長方形と円・楕円形の小～中～中規模（10～50㎡未満）のもので構成されていることが分かった。規模については長径もしくは長辺が4～7m規模のものが主体的と言い換えられよう。

次に深さとの関係に着目する。円・楕円形及び方・長方形のものは「特に浅い」～「やや深い」に多くがみられ、規模の大きいものほど深くなる傾向が看取できる。これに対し多角形は規模にあまり関係なく「やや深い」ものが主体であると捉えられる。特に多角形の超大型の「やや深い」もの（堅穴416）はオホーツク文化期の堅穴住居跡の可能性が指摘できるだろう。

表Ⅲ－３ 堅穴属性集計結果

		特に浅い	浅い	やや深い	深い	特に深い	合計		
							軒数	形状内比率	全体比率
円・楕円形	極小	5	1				6	4.0%	1.1%
	小	13	3	1			17	11.3%	3.2%
	小～中	12		28			86	57.0%	16.3%
	中	1	12	24			37	24.5%	7.0%
	中～大		1	2	1		4	2.6%	0.8%
	大			1			1	0.7%	0.2%
	計	31	63	56	1		151	100%	28.7%
方・長方形	極小	12					12	3.7%	2.3%
	小	19	1	1			21	6.5%	4.0%
	小～中	26	61	73	2		162	50.3%	30.7%
	中	1	14	67	15	1	98	30.4%	18.6%
	中～大			12	3	1	16	5.0%	3.0%
	大			1	2		3	0.9%	0.6%
	特大			2	5		7	2.2%	1.3%
	超特大				2	1	3	0.9%	0.6%
	計	58	76	156	29	3	322	100%	61.1%
多角形	小～中	2	7	12			21	52.5%	4.0%
	中		2	11	3		16	40.0%	3.0%
	中～大			2			2	5.0%	0.4%
	超特大			1			1	2.5%	0.2%
	計	2	9	26	3		40	100%	7.6%
柄鏡形	小～中	5	1	2			8	57.1%	1.5%
	中		4	2			6	42.9%	1.1%
	計	5	5	4			14	100%	2.7%
合 計		96	153	242	33	3	527		100%

### ③属性別竪穴分布状況

平面形状と規模について、属性別の分布状況を図Ⅲ-10～12に示した。以下、時期差を反映する可能性がある平面形状を中心に観察を行う。

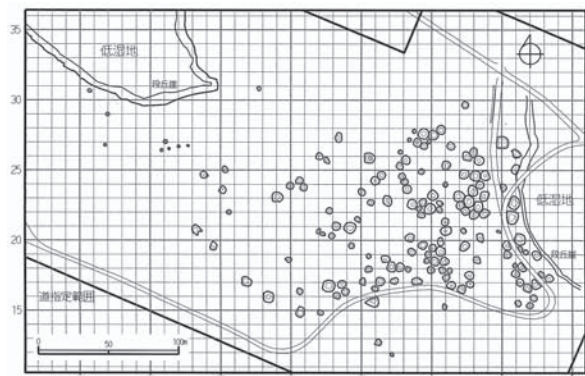
【円・楕円形】 円・楕円形の分布を図Ⅲ-10-1に示した。竪穴分布範囲の東部に偏り、特に南北ライン33～48の間に高密度に認められる。次に規模別（図Ⅲ-10-5～11-9）の状況を観察する。極小（5㎡未満）のものは竪穴分布範囲の西部（南北ライン15～25・東西ライン25～30）にまとまった分布がみられる。後述するが、極小は方形においても同範囲周辺に多くが分布している。小（5～10㎡未満）はやや散発的ではあるものの南北ライン40付近にまとまっている。小-中（10～30㎡未満）は最も数が多く、東側段丘崖縁辺から南北ライン30のやや広い範囲に分布し、南部で密度が高い傾向がある。中（30～50㎡未満）は段丘崖縁辺から南北ライン37の間にまとまり、小-中に比べやや北側に多く分布する。中-大・大（50～90㎡未満）は東側段丘崖縁辺と南北ライン35付近に分布し、円・楕円形分布範囲のやや端側に位置している。

【方・長方形】 方・長方形の分布を図Ⅲ-10-2に示した。竪穴分布範囲の全域に及び、概ね万遍なく高い密度で認められる。規模別（図Ⅲ-11-10～16）でみると、まず極小（5㎡未満）は竪穴分布範囲の西部、西側段丘崖付近（南北ライン15～25・東西ライン25～30）にまとまった分布がみられる。上述のように極小は円・楕円形も同様の分布傾向を示し、同範囲に土坑群を形成している可能性がある。また、極小規模の両形態は同時期の遺構の可能性も指摘できるだろう。小（5～10㎡未満）はやや散発的な分布であるが、西側段丘崖付近、南北ライン30～35付近、南北ライン40～45付近の大まかに三つのまとまりが認められる。小-中（10～30㎡未満）は上述のように最も数が多く竪穴群全体の3割以上を占める。分布は竪穴分布範囲の概ね全域に及ぶが主に北西～南東にかけてみられ、特に西部（南北ライン25～30・東西ライン25～30）と南東部（南北ライン40～47・東西ライン15～23）にやや高い密度で認められる。また竪穴分布範囲北部の東側段丘付近や、南西部（東西ライン20以南）にも多数が分布している。中（30～50㎡未満）も竪穴分布範囲の広域に及び、概ね均等に配置される印象がある。また東側段丘崖縁辺にも多く分布する。但し小-中が密に分布する南東部では疎らとなっている。中-大（50～70㎡未満）は北西から南東方向の広範囲に幾つかのまとまりをもって分布し、特に中央部に多くみられる。大（70～90㎡）は3か所と少数だが西側段丘崖縁辺、中央部、南東部の広範囲に散点的に分布する。特大・超特大（90㎡以上）のものは中央から西部に分布し、2軒程度のまとまりがおおよそ50mの間隔で点在している。

まとめれば、方形は規模により多寡はあるものの、竪穴分布範囲のおおよそ全域に小～大までの各規模が分布していると捉えられる。また特大以上は中央から主に西部に散点的に分布し、同範囲で小～大が近接する。こうした状況から遺跡内には小～特大・超特大で構成される竪穴群の幾つかのまとまりが併存している可能性が指摘できるかもしれない。また、特大・超特大の分布しない東部と分布する西部では、利用内容の違いや時期差が推測できるだろう。

【多角形】 多角形の分布は図Ⅲ-10-3に示した。竪穴分布範囲の西部及び南東部に主に認められる。規模別（図Ⅲ-12-17・18）でみると、小-中（10～30㎡未満）は西側段丘崖付近から中央部にややまとまる傾向があるが、南東部にも広く散点的に分布している。中（30～50㎡未満）は西部と南東部にふたつのまとまりがみられる。また図示はしていないが中-大以上（50㎡以上）のもの3軒は全て西部に位置している。

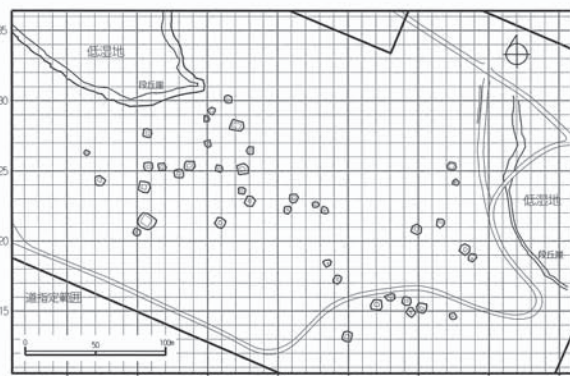
【柄鏡形】 柄鏡形の分布は図Ⅲ-10-4に示した。南北ライン30以西に散発的、南北ライン35～40付近ではやや列状に並んで認められ、円・楕円形が高密度に分布する範囲に重複している。規模別



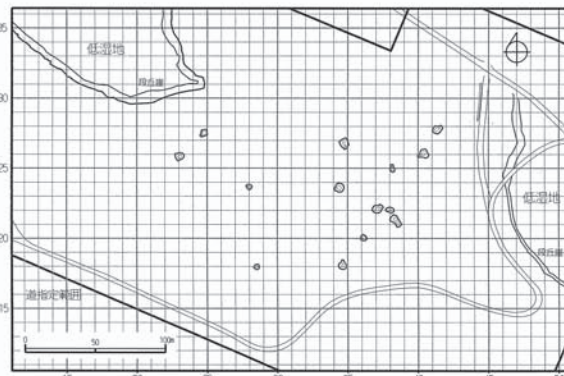
1. 円・楕円形



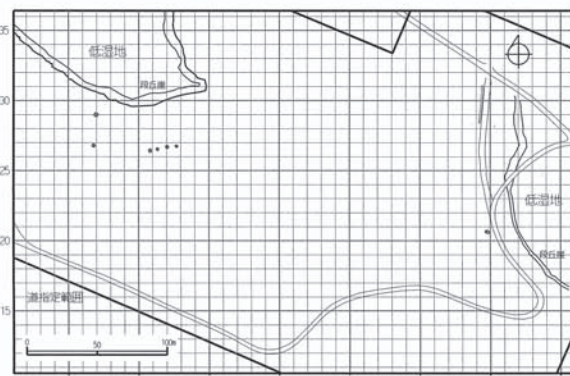
2. 方・長方形



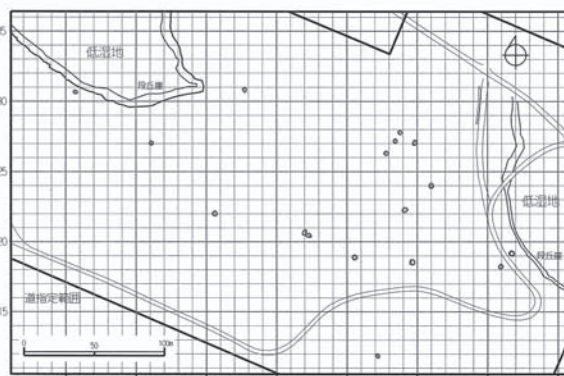
3. 多角形



4. 柄鏡形



5. 円・楕円形×極小



6. 円・楕円形×小

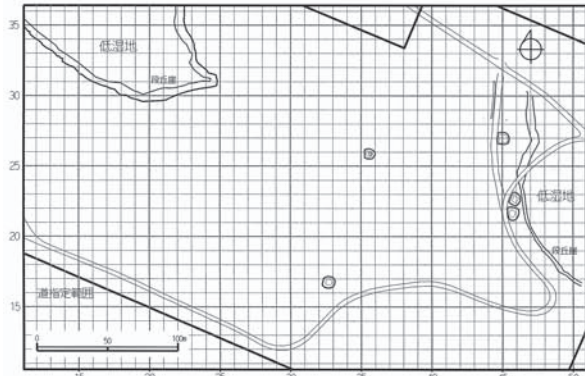


7. 円・楕円形×小-中

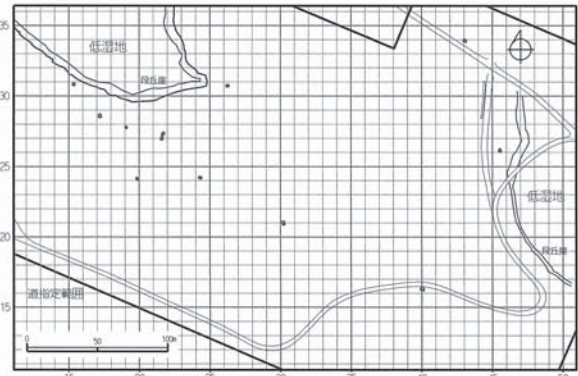


8. 円・楕円形×中

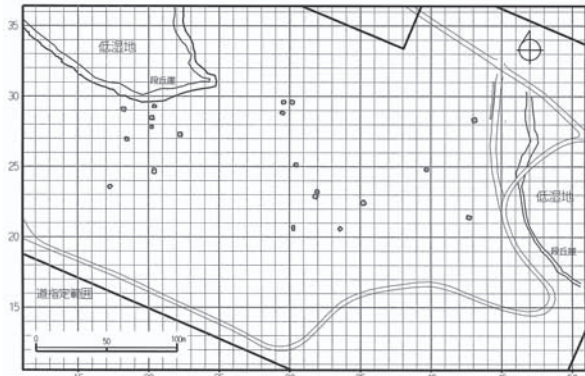
図Ⅲ-10 属性別縦穴分布状況(1)



9. 円・楕円×中-大・大



10. 方・長方形×極小



11. 方・長方形×小



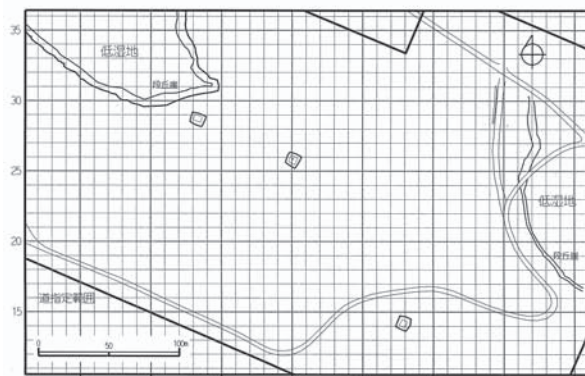
12. 方・長方形×小-中



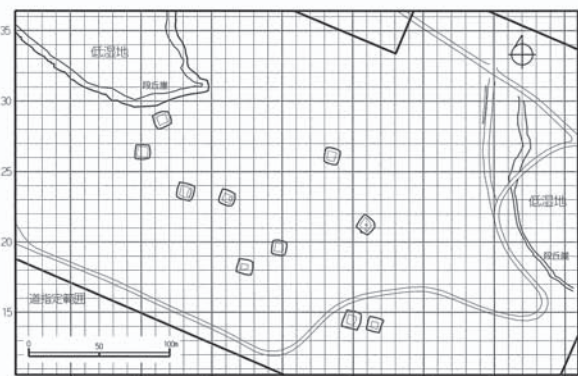
13. 方・長方形×中



14. 方・長方形×中-大

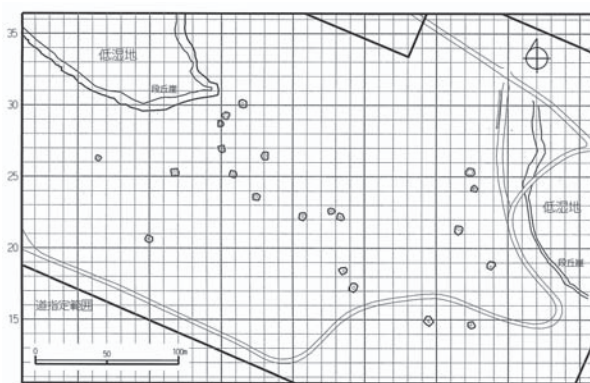


15. 方・長方形×大

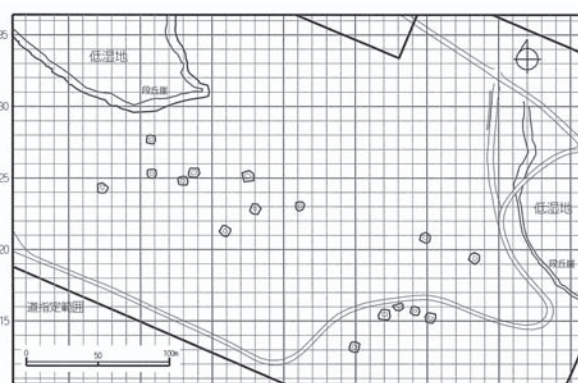


16. 方・長方形×特大・超特大

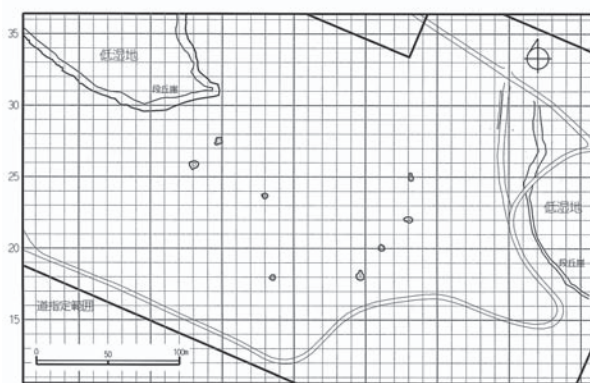
図Ⅲ-11 属性別堅穴分布状況(2)



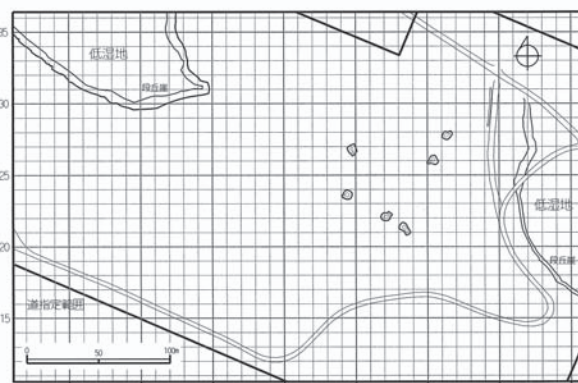
17. 多角形×小-中



18. 多角形×中



19. 柄鏡形×小-中



20. 柄鏡形×中

図Ⅲ-12 属性別縦穴分布状況(3)

(図Ⅲ-12-19・20) でみると、小-中(10~30㎡未満)は西部と南東部に散点的に分布し、中(30~50㎡未満)では東部の南北ライン35~40付近でU字状にまとまっている。

以上、形態別・規模別の分布状況とその傾向について概観した。各形態が時期差を反映しているならば(円・楕円形と柄鏡形は続縄文文化期以前、多角形はオホーツク文化期、方形は擦文文化期の可能性)、本遺跡における縦穴分布の変遷を追うことがある程度可能であり、今後の調査で縦穴の形成時期を確認することが必要と考えられる。昭和41年度に調査された2軒(縦穴287・365)は擦文文化期の住居跡であることが確認されているが、これらの共通した属性は中型(30~50㎡未満)・深い(0.8~1.0m未満)であり、同条件のものは擦文期の縦穴の可能性が高いと考えられよう。

#### (4) 調査成果と課題

今回の調査によって縦穴群全体の詳細測量が完了し、平面形態・規模・深さなどの情報の集計と属性別の分布状況の把握が可能となった。具体的成果として、①方形や円・楕円形の4~7m規模のものが主体的に縦穴群を構成し、前者は縦穴分布範囲全域に、後者は東部を中心に分布すること、②90㎡を超える特大以上はほとんどが方形で中央~西部に分布すること、③西側段丘崖付近には極小規模の縦穴がまとまって分布し土坑群と考えられること、などが判明した。また、調査過程で縦穴の付属施設と考えられるもの(張出し状の凹み、壁際の盛土、縦穴周囲の盛土、縦穴下面の礫)を複数確認したが、時間的制約もあり測量などの記録作業には至らなかった。

次年度調査の課題として、付属施設を含む縦穴構造の把握、旧地形の復元及び地質調査があげられ、これらを目的とした測量・試掘・簡易ボーリング調査などの実施を検討したいと考えている。

【引用・参考文献】

- 米村喜男衛 1961 『紋別郡湧別町川西遺跡調査報告書』昭和36年 8 月
- 米村哲英 1963 『北海道紋別郡湧別町字川西シブノツナイ遺跡調査概報』昭和36年 8 月 湧別町
- 湧別町教育委員会 1966 『湧別町シブノツナイ遺跡調査概要』昭和41年
- 北海道立北方民族博物館 1995 『北方民族博物館調査報告 湧別町川西遺跡』平成 7 年 3 月
- 公益財団法人北海道埋蔵文化財センター 2015 『湧別町シブノツナイ2遺跡』北埋調報316 平成27年 3 月
- 北海道立埋蔵文化財センター 2015 『重要遺跡確認調査報告書第10集』 平成27年 3 月
- 北海道立埋蔵文化財センター 2016 『重要遺跡確認調査報告書第11集』 平成28年 3 月

表Ⅲ－４ 確認竖穴一覧

竖穴 番号	H27年 竖穴確 認番号	平面形状	長径・ 長辺 (m)	短径・ 短辺 (m)	概 算 面 積 (㎡)	規模	深さ (m)	深さ類型	特 記	南北 ライン	東西 ライン	所在 エリア
1	1	円形	5.0	4.6	18.1	小-中	0.35	浅い		047	015	南東エリア
2	2	円形	4.9	4.5	17.3	小-中	0.36	浅い		046	015	南東エリア
3	3	円形	4.7	4.0	14.8	小-中	0.37	浅い		046	015	南東エリア
4	4	不整形	5.0	4.7	23.5	小-中	0.39	浅い	エレベーション実測	046	016	南東エリア
5	5	楕円形	6.5	5.2	26.5	小-中	0.26	特に浅い		046	016	南東エリア
6	6	楕円形？	7.4	(5.3)	(30.8)	中	0.61	やや深い	砂利道で一部埋められる	047	016	南東エリア
7	7	方形	(4.6)	4.5	(20.7)	小-中	0.41	浅い	砂利道で一部埋められる	046	017	南東エリア
8	8	不整形	5.5	5.3	22.9	小-中	0.41	浅い		046	017	南東エリア
9	9	不整楕円形	5.9	4.9	22.7	小-中	0.20	特に浅い		046	017	南東エリア
10	10	楕円形？	6.8	(4.2)	(22.4)	中	0.55	やや深い	砂利道で一部埋められる	046	018	南東エリア
11	11	不整形	5.0	(3.5)	(17.5)	小-中	0.26	特に浅い	砂利道で一部埋められる	046	018	南東エリア
12	12	不整形	3.3	3.0	7.8	小	0.23	特に浅い		045	018	南東エリア
13	13	長方形	5.4	4.0	21.6	小-中	0.31	浅い		045	018	南東エリア
14	14	不整形	5.6	5.4	23.7	小-中	0.35	浅い		045	018	南東エリア
15	15	不整形？	7.0	(4.7)	(25.8)	中	0.48	浅い	砂利道で一部埋められる	045	019	南東エリア
16	16	方形（多角形）	7.3	6.5	47.5	中	0.57	やや深い		044	019	南東エリア
17	17	方形	8.0	7.2	57.6	中-大	0.58	やや深い		044	020	南東エリア
18	18	不整形	5.1	4.6	23.5	小-中	0.36	浅い	19と切り合う可能性	044	018	南東エリア
19	19	多角形（不整形）	6.0	5.0	24.2	小-中	0.57	やや深い	18と切り合う可能性	043	018	南東エリア
20	20	長方形（多角形）	4.5	3.8	17.1	小-中	0.32	浅い		044	019	南東エリア
21	21	多角形（不整形）	7.5	6.8	41.6	中	0.74	やや深い		043	019	南東エリア
22	22	楕円形	6.8	4.5	24.0	小-中	0.48	浅い		043	020	南東エリア
23	23	不整形（多角形）	6.1	4.9	29.9	小-中	0.36	浅い	81に切られている可能性	043	020	南東エリア
24	24	方形	3.5	3.3	11.6	小-中	0.19	特に浅い		043	020	南東エリア
25	25	不整形（多角形）	5.2	4.0	20.8	小-中	0.43	浅い	514に切られている可能性	044	021	南東エリア
26	26	不整形（多角形）	3.8	2.8	10.6	小-中	0.28	特に浅い	25に切られている可能性	044	020	南東エリア
27	27	方形	6.4	5.2	33.3	中	0.46	浅い	砂利道で一部埋められる	044	021	南東エリア
28	28	楕円形	6.8	5.5	29.4	小-中	0.46	浅い	29と切り合う可能性	043	021	南東エリア
29	29	長方形	5.0	4.4	22.0	小-中	0.25	特に浅い	28と切り合う可能性	044	022	南東エリア
30	30	方形	5.7	5.4	30.8	中	0.34	浅い	砂利道で一部埋められる 31と切り合う可能性	044	022	南東エリア
31	31	楕円形	7.1	6.0	33.4	中	0.47	浅い	30と切り合う可能性	043	023	南東エリア
32	32	方形？	6.2	(5.1)	(31.6)	中	0.39	浅い	砂利道で一部埋められる	044	023	南東エリア
33	33	円形	6.0	5.4	25.4	小-中	0.43	浅い		043	023	南東エリア
34	34	円形	6.8	6.0	32.0	中	0.61	やや深い		043	024	南東エリア
35	35	円形	7.6	7.6	45.3	中	0.62	やや深い		043	024	南東エリア
36	36	方形？（楕円形？）	5.3	5.0	26.5	小-中	0.39	浅い	砂利道で一部埋められる 38に切られる可能性	044	025	南東エリア
37	37	円形	7.2	6.6	37.3	中	0.62	やや深い	36・38と切り合う可能性	043	025	南東エリア
38	38	方形？	6.0	5.5	33.0	中	0.56	やや深い	砂利道で一部埋められる 37と切り合う可能性	043	026	北東エリア
39	39	不明瞭な方形	6.3	5.4	34.0	中	0.37	浅い	張出部あり（煙道部か）	043	026	北東エリア
40	40	方形	5.4	5.3	28.6	小-中	0.40	浅い		043	027	北東エリア
41	41	方形？	(5.5)	(4.2)	(23.1)	中	0.20	特に浅い	砂利道で一部埋められる	044	027	北東エリア
42	42	不明瞭な方形	4.9	4.2	20.6	小-中	0.40	浅い		043	028	北東エリア
43	43	方形	5.0	4.4	22.0	小-中	0.14	特に浅い	東端段丘縁に位置 44と切り合う可能性	045	028	北東エリア
44	44	不明瞭な方形（多角形）	6.4	6.3	40.3	中	0.38	浅い	東端段丘縁に位置 43と切り合う可能性 エレベーション実測	045	028	北東エリア
45	45	楕円形？	8.5	(8.4)	(56.0)	中-大	0.46	浅い	砂利道で一部埋められる 東端段丘縁に位置	045	026	北東エリア
46	46	方形	4.9	4.7	23.0	小-中	0.37	浅い	東端段丘縁に位置	046	026	北東エリア
47	47	不整楕円形	7.1	5.3	29.5	小-中	0.19	特に浅い	東端段丘縁に位置	046	026	北東エリア
48	-	不整長方形	2.3	2.0	4.6	極小	0.14	特に浅い	東端段丘縁に位置 張出し部あり	045	026	北東エリア
49	48	方形	5.6	4.9	27.4	小-中	0.36	浅い	東端段丘縁に位置	045	025	南東エリア
50	50	不明瞭な方形	6.5	6.3	41.0	中	0.55	やや深い	東端段丘縁に位置 張出し部あり エレベーション実測	045	024	南東エリア
51	51	円形？	(5.9)	(3.9)	18.1	小-中	0.45	浅い	砂利道に一部埋められる 東端段丘縁に位置	045	023	南東エリア

Ⅲ 湧別町シブノツナイ堅穴住居群の調査

堅穴 番号	H27年 堅穴確 認番号	平面形状	長径・ 長辺 (m)	短径・ 短辺 (m)	概 算 面 積 (㎡)	規模	深さ (m)	深さ類型	特 記	南北 ライン	東西 ライン	所在 エリア
52	52	不整円形？(不明瞭な方形？)	8.7	(7.3)	(49.9)	中-大	0.64	やや深い	砂利道に一部埋められる 東端段丘縁に位置	045	022	南東エリア
53	53	不整円形	9.6	(7.9)	(59.5)	大	0.64	やや深い	砂利道に一部埋められる 東端段丘縁に位置	045	021	南東エリア
54	54	不整長方形	6.8	5.1	34.7	中	0.35	浅い	東端段丘縁に位置	046	020	南東エリア
55	55	円形	8.2	7.6	48.9	中	0.49	浅い	東端段丘縁に位置	046	020	南東エリア
56	56	円形？	4.5	(2.7)	(9.5)	小-中	0.22	特に浅い	砂利道に一部埋められる 東端段丘縁に位置	046	019	南東エリア
57	-	方形？	6.7	(3.0)	(20.1)	中	0.49	浅い	東端段丘縁に位置 段丘崖で東側崩落	046	021	南東エリア
58	58	楕円形	6.8	5.2	27.8	小-中	0.43	浅い	東端段丘縁に位置	047	018	南東エリア
59	59	円形	3.7	3.4	9.9	小	0.18	特に浅い	東端段丘縁に位置	046	019	南東エリア
60	60	方形	5.8	5.4	31.3	中	0.63	やや深い	東端段丘縁に位置	048	018	南東エリア
61	61	長方形？方形？	3.8	(2.6)	(9.9)	小-中	0.11	特に浅い	砂利道に一部埋められる 東端段丘縁に位置	047	018	南東エリア
62	62	楕円形？円形？	4.9	(3.2)	(12.3)	小-中	0.32	浅い	砂利道に一部埋められる 東端段丘縁に位置	047	017	南東エリア
63	63	不整円形	6.0	5.6	26.4	小-中	0.38	浅い	東端段丘縁に位置	048	017	南東エリア
64	64	長方形	6.3	3.5	22.1	小-中	0.49	浅い	67と切り合う可能性	043	017	南東エリア
65	65	不明瞭な方形	5.0	4.5	22.5	小-中	0.46	浅い		045	016	南東エリア
66	66	不明瞭な方形	5.3	4.0	21.2	小-中	0.33	浅い		045	016	南東エリア
67	67	不整長方形	6.7	4.2	28.1	小-中	0.62	やや深い	64と切り合う可能性	044	017	南東エリア
68	68	方形	5.3	5.2	27.6	小-中	0.46	浅い		045	017	南東エリア
69	69	楕円形	7.2	5.5	31.1	中	0.40	浅い		042	019	南東エリア
70	70	不明瞭な方形	6.2	5.7	35.3	中	0.50	やや深い		041	020	南東エリア
71	71	長方形	7.0	3.0	21.0	小-中	0.27	特に浅い		041	019	南東エリア
72	72	不明瞭な長方形	6.0	4.1	24.6	小-中	0.59	やや深い		041	018	南東エリア
73	73	円形	6.6	6.6	34.2	中	0.62	やや深い		040	019	南東エリア
74	74	円形 (不明瞭な方形)	4.8	4.5	17.0	小-中	0.52	やや深い		040	019	南東エリア
75	75	方形	5.9	5.0	29.5	小-中	0.52	やや深い		040	020	南東エリア
76	76	多角形	7.6	6.7	39.3	中	0.58	やや深い	長軸長×短軸で計測 エレベーション実測	020	039	南西エリア
77	77	楕円形	7.6	5.9	35.2	中	0.56	やや深い		041	020	南東エリア
78	78	不明瞭な方形	3.8	3.0	11.4	小-中	0.49	浅い		041	020	南東エリア
79	79	楕円形	5.7	4.2	18.8	小-中	0.29	特に浅い		040	019	南東エリア
80	80	方形	5.0	3.9	19.5	小-中	0.40	浅い	438と切り合う可能性	042	021	南東エリア
81	81	方形	4.3	4.0	17.2	小-中	0.30	浅い		042	020	南東エリア
82	82	楕円形	7.3	6.1	35.0	中	0.49	浅い		043	022	南東エリア
83	83	楕円形	8.0	6.4	40.2	中	0.60	やや深い		042	023	南東エリア
84	84	方形	3.3	3.3	10.9	小-中	0.33	浅い		042	023	南東エリア
85	85	方形	6.0	5.8	34.8	中	0.56	やや深い		041	023	南東エリア
86	86	円形	3.4	3.0	8.0	小	0.21	特に浅い		041	023	南東エリア
87	87	方形	4.5	4.4	19.8	小-中	0.64	やや深い		040	023	南東エリア
88	88	方形	5.0	4.9	24.5	小-中	0.58	やや深い		040	024	南東エリア
89	89	方形	7.8	6.5	50.7	中-大	0.80	深い		024	039	南西エリア
90	90	方形	6.1	5.4	32.9	中	0.42	浅い		024	038	南西エリア
91	91	円形 (不明瞭な方形)	4.0	3.9	12.2	小-中	0.25	特に浅い		039	024	南東エリア
92	92	長方形	2.7	1.9	5.1	小	0.19	特に浅い		039	024	南東エリア
93	93	方形	7.8	7.4	57.7	中-大	0.68	やや深い	張出部あり (煙道部か)	037	022	南東エリア
94	94	円形 (不明瞭な方形)	6.7	6.4	33.7	中	0.52	やや深い		038	022	南東エリア
95	95	方形	6.8	6.7	45.6	中	0.71	やや深い		039	023	南東エリア
96	96	不整円形	5.3	4.8	20.0	小-中	0.36	浅い		039	022	南東エリア
97	97	楕円形 (不明瞭な方形)	3.8	3.1	9.2	小	0.37	浅い		039	022	南東エリア
98	98	方形	3.6	2.9	10.4	小-中	0.30	特に浅い		038	021	南東エリア
99	99	柄鏡形	8.4	4.8	38.3	中	0.35	浅い	円形と方形の連接	038	021	南東エリア
100	100	方形	7.2	5.8	41.8	中	0.58	やや深い		039	021	南東エリア
101	101	楕円形	5.4	4.0	17.0	小-中	0.43	浅い		039	021	南東エリア
102	102	楕円形	8.4	6.8	44.8	中	0.64	やや深い		039	022	南東エリア
103	103	円形 (不明瞭な方形)	7.0	6.7	36.8	中	0.54	やや深い		040	023	南東エリア
104	104	方形	7.4	6.1	45.1	中	0.64	やや深い	エレベーション実測	041	022	南東エリア
105	105	円形	7.8	7.7	47.1	中	0.58	やや深い		041	023	南東エリア
106	106	楕円形	8.4	6.9	45.5	中	0.63	やや深い	エレベーション実測	042	022	南東エリア
107	107	不整円形	6.1	6.4	30.6	中	0.47	浅い	82に長軸方向を切られている	043	021	南東エリア

重要遺跡確認調査報告書

堅穴 番号	H27年 堅穴確 認番号	平面形状	長径・ 長辺 (m)	短径・ 短辺 (m)	概 算 面 積 (㎡)	規模	深さ (m)	深さ類型	特 記	南北 ライン	東西 ライン	所在 エリア
108	108	円形（不明瞭な方形）	5.6	5.4	23.7	小-中	0.38	浅い		042	022	南東エリア
109	109	円形	5.6	5.3	23.3	小-中	0.48	浅い		042	022	南東エリア
110	110	不明瞭な方形	5.4	4.0	21.6	小-中	0.50	浅い	108・438と切り合う可能性	041	021	南東エリア
111	111	不明瞭な方形	4.3	4.0	17.2	小-中	0.33	浅い		041	022	南東エリア
112	112	楕円形	4.6	3.9	14.1	小-中	0.39	浅い		040	022	南東エリア
113	113	方形	5.8	5.2	30.2	中	0.49	浅い		040	021	南東エリア
114	114	円形	5.4	5.1	21.6	小-中	0.63	やや深い		040	021	南東エリア
115	115	方形	5.1	4.1	20.9	小-中	0.55	やや深い		038	020	南東エリア
116	116	方形	4.3	4.3	18.5	小-中	0.63	やや深い		039	020	南東エリア
117	117	不整円形（不明瞭な方形）	5.9	5.9	27.3	小-中	0.66	やや深い		039	019	南東エリア
118	118	円形（不明瞭な方形）	4.2	4.1	13.5	小-中	0.60	やや深い		039	019	南東エリア
119	119	不整円形	6.6	6.6	34.2	中	0.52	やや深い		040	018	南東エリア
120	120	不整円形	5.9	5.9	27.3	小-中	0.59	やや深い		040	018	南東エリア
121	121	方形	8.7	8.0	69.6	中-大	0.58	やや深い	張出部あり（煙道部か） エレベーション実測	042	018	南東エリア
122	122	方形	6.4	5.4	34.6	中	0.68	やや深い		043	017	南東エリア
123	123	不整円形	6.0	5.0	23.6	小-中	0.48	浅い		043	018	南東エリア
124	124	不明瞭な方形（不整円形）	5.1	4.5	23.0	小-中	0.65	やや深い		042	019	南東エリア
125	125	円形	6.3	5.6	27.7	小-中	0.46	浅い		042	017	南東エリア
126	126	円形	5.4	4.9	20.8	小-中	0.50	浅い		042	016	南東エリア
127	127	不明瞭な方形	4.6	4.0	18.4	小-中	0.62	やや深い		042	017	南東エリア
128	128	不明瞭な方形（楕円形）	5.0	3.7	18.5	小-中	0.53	やや深い		041	017	南東エリア
129	129	不整円形	4.0	3.6	11.3	小-中	0.42	浅い		041	017	南東エリア
130	130	不整円形（不明瞭な方形）	5.2	4.4	18.0	小-中	0.40	浅い		041	017	南東エリア
131	131	円形	4.5	4.4	15.5	小-中	0.53	やや深い	やや細長い	040	017	南東エリア
132	132	方形	4.4	3.8	16.7	小-中	0.43	浅い	砂利道で一部埋められる 張出部あり	040	017	南東エリア
133	133	円形	5.8	(5.2)	(23.7)	小-中	0.64	やや深い	砂利道で一部埋められる	041	016	南東エリア
134	134	不整円形？	(5.9)	5.4	(25.0)	小-中	0.47	浅い	砂利道で一部埋められる	042	016	南東エリア
135	135	不明瞭な方形？	4.5	(3.1)	(14.0)	小-中	0.52	やや深い	砂利道で一部埋められる	039	017	南東エリア
136	136	円形	5.0	4.4	17.3	小-中	0.53	やや深い	細長い形状に特徴がある	039	017	南東エリア
137	137	不明瞭な方形（楕円形）	3.9	3.2	12.5	小-中	0.22	特に浅い		039	018	南東エリア
138	138	方形	5.0	4.4	22.0	小-中	0.55	やや深い		039	017	南東エリア
139	139	不整円形	3.7	3.6	10.5	小-中	0.40	浅い		038	017	南東エリア
140	140	方形	5.7	5.5	31.4	中	0.44	浅い		038	018	南東エリア
141	141	不整円形	5.6	4.7	20.7	小-中	0.47	浅い		038	019	南東エリア
142	142	方形	5.9	4.6	27.1	小-中	0.61	やや深い		039	018	南東エリア
143	143	円形	3.4	3.4	9.1	小	0.54	やや深い		039	018	南東エリア
144	144	方形	6.6	6.5	42.9	中	0.55	やや深い		037	018	南東エリア
145	145	不整円形	6.3	5.8	28.7	小-中	0.78	やや深い	379に切られている可能性	037	018	南東エリア
146	146	方形	6.2	5.2	32.2	中	0.64	やや深い	砂利道で一部埋められる	038	017	南東エリア
147	147	不整円形	6.1	4.4	21.1	小-中	0.34	浅い		037	017	南東エリア
148	148	円形	6.1	6.1	29.2	小-中	0.65	やや深い		036	017	南東エリア
149	149	方形	4.4	3.6	15.8	小-中	0.46	浅い		035	017	南東エリア
150	150	不整円形	5.2	4.8	19.6	小-中	0.43	浅い		035	017	南東エリア
151	151	柄鏡形、主体部円形	6.6	5.4	24.9	小-中	0.62	やや深い	張出部あり（柄鏡形）、凸部長 軸長×短軸長で計測	034	018	北西エリア
152	152	方形	4.6	3.5	16.1	小-中	0.50	浅い		035	018	南東エリア
153	153	方形	6.1	5.8	35.4	中	0.70	やや深い		034	019	北西エリア
154	154	方形	7.1	6.9	49.0	中	0.85	深い	エレベーション実測	035	019	南東エリア
155	155	方形	10.2	9.9	101.0	特大	0.82	深い	張出部あり（煙道部か）、中央 に方形坑 エレベーション実測	035	021	南東エリア
156	156	方形	5.4	4.9	26.5	小-中	0.70	やや深い		036	021	南東エリア
157	157	方形	5.7	5.4	30.8	中	0.54	やや深い		037	021	南東エリア
158	158	柄鏡形、主体部不整円形	6.0	4.0	17.7	小-中	0.46	浅い	張出部あり（柄鏡形）、凸部長 軸長×短軸長で計測	038	021	南東エリア
159	159	柄鏡形、主体部円形	7.8	5.7	33.2	中	0.45	浅い	張出部あり（柄鏡形）、凸部長 軸長×短軸長で計測	037	022	南東エリア
160	160	方形	5.9	5.1	30.1	中	0.47	浅い		036	022	南東エリア
161	161	不整円形（不明瞭な方形）	4.4	4.0	13.8	小-中	0.41	浅い		035	022	南東エリア
162	162	方形	5.4	4.4	23.8	小-中	0.59	やや深い	エレベーション実測	035	023	南東エリア
163	-	円形（不明瞭な方形）	5.8	5.5	25.0	小-中	0.59	やや深い		036	024	南東エリア

Ⅲ 湧別町シブノツナイ堅穴住居群の調査

堅穴 番号	H27年 堅穴確 認番号	平面形状	長径・ 長辺 (m)	短径・ 短辺 (m)	概 算 面 積 (㎡)	規模	深さ (m)	深さ類型	特 記	南北 ライン	東西 ライン	所在 エリア
164	164	楕円形	7.8	6.3	38.6	中	0.58	やや深い		036	022	南東エリア
165	165	不明瞭な方形	6.2	4.4	27.3	小-中	0.73	やや深い		037	023	南東エリア
166	166	方形	5.5	5.0	27.5	小-中	0.75	やや深い		037	024	南東エリア
167	167	不整円形（不明瞭な方形）	5.0	3.7	14.5	小-中	0.32	浅い	168と連接している	038	024	南東エリア
168	168	円形	4.5	4.1	14.5	小-中	0.59	やや深い	167と連接している	037	024	南東エリア
169	169	方形	4.4	4.0	17.6	小-中	0.44	浅い		038	024	南東エリア
170	170	不明瞭な方形	6.2	6.0	37.2	中	0.66	やや深い		038	025	南東エリア
171	171	方形	5.8	5.7	33.1	中	0.56	やや深い		039	025	南東エリア
172	172	不明瞭な長方形	7.2	4.9	35.3	中	0.78	やや深い		039	026	北東エリア
173	173	方形	5.5	5.3	29.2	小-中	0.51	やや深い		040	026	北東エリア
174	174	不明瞭な方形	6.0	4.3	25.8	小-中	0.56	やや深い	184と連接している	040	027	北東エリア
175	175	柄鏡形、主体部不明瞭な長方形	7.6	4.3	30.4	中	0.44	浅い	張出部あり（柄鏡形）、凸部長軸長×短軸長で計測	041	027	北東エリア
176	176	円形	6.3	6.1	30.2	中	0.47	浅い		040	027	北東エリア
177	177	方形	7.3	5.7	41.6	中	0.52	やや深い	エレベーション実測	042	028	北東エリア
178	178	方形	3.0	3.0	9.0	小	0.23	特に浅い		043	028	北東エリア
179	179	不明瞭な方形	4.0	3.9	15.6	小-中	0.45	浅い		042	028	北東エリア
180	180	不整円形	5.0	4.8	18.8	小-中	0.33	浅い	堅穴群の北端に位置する	042	029	北東エリア
181	-	方形	3.2	3.2	10.2	小-中	0.17	特に浅い		042	027	北東エリア
182	181	方形	4.2	4.0	16.8	小-中	0.30	浅い		042	027	北東エリア
183	183	方形	6.4	5.8	37.1	中	0.84	深い		041	027	北東エリア
184	184	円形	5.6	5.1	22.4	小-中	0.39	浅い	174と連接している	041	026	北東エリア
185	185	方形	8.0	7.6	60.8	中-大	0.88	深い	エレベーション実測	041	026	北東エリア
186	186	方形	6.4	6.0	38.4	中	0.52	やや深い	張出部あり（煙道部か）	041	024	南東エリア
187	-	円形	6.3	5.7	28.2	小-中	0.49	浅い		041	025	南東エリア
188	188	方形	4.5	4.1	18.5	小-中	0.30	特に浅い		040	026	北東エリア
189	189	柄鏡形、主体部不整楕円形	7.7	6.6	34.3	中	0.30	浅い	張出部あり（柄鏡形）、凸部長軸長×短軸長で計測 188に切られている可能性	040	025	南東エリア
190	190	方形	6.2	6.0	37.2	中	0.43	浅い		037	020	南東エリア
191	191	方形	5.4	5.4	29.2	小-中	0.59	やや深い		036	020	南東エリア
192	192	方形	4.0	3.4	13.6	小-中	0.37	浅い		034	020	北西エリア
193	193	円形	4.1	3.9	12.6	小-中	0.45	浅い		034	019	北西エリア
194	194	方形	6.7	5.3	35.5	中	0.68	やや深い		033	020	北西エリア
195	195	円形	8.0	7.7	48.4	中	0.66	やや深い		034	020	北西エリア
196	196	不整楕円形	4.7	3.5	12.9	小-中	0.25	特に浅い		034	021	北西エリア
197	197	方形	4.2	4.1	17.2	小-中	0.40	浅い		035	021	南東エリア
198	198	不明瞭な長方形	3.3	2.0	6.6	小	0.29	特に浅い		035	022	南東エリア
199	199	円形	5.5	4.7	20.3	小-中	0.53	やや深い		035	023	南東エリア
200	200	方形	5.0	4.0	20.0	小-中	0.43	浅い		035	023	南東エリア
201	201	方形	6.2	5.6	34.7	中	0.61	やや深い		035	024	南東エリア
202	202	不明瞭な方形	5.1	4.4	22.4	小-中	0.42	浅い		036	025	南東エリア
203	203	不明瞭な方形	6.1	5.9	36.0	中	1.03	特に深い		036	025	南東エリア
204	204	方形	6.0	5.7	34.2	中	0.78	やや深い		036	026	北東エリア
205	205	不整円形	5.0	4.5	17.7	小-中	0.51	やや深い		037	025	南東エリア
206	206	円形	6.4	6.0	30.1	中	0.53	やや深い		038	025	南東エリア
207	207	方形	7.2	6.8	49.0	中	0.61	やや深い		038	026	北東エリア
208	208	円形（不明瞭な方形）	5.5	5.4	23.3	小-中	0.47	浅い		038	026	北東エリア
209	209	円形（不明瞭な方形）	7.5	7.1	41.8	中	0.72	やや深い		039	027	北東エリア
210	210	円形（不明瞭な方形）	6.7	6.2	32.6	中	0.42	浅い	皿状の窪み	040	027	北東エリア
211	211	楕円形	6.9	5.3	28.7	小-中	0.44	浅い		042	026	北東エリア
212	212	楕円形	3.7	2.6	7.6	小	0.17	特に浅い		039	027	北東エリア
213	213	円形	4.9	4.8	18.5	小-中	0.38	浅い		039	026	北東エリア
214	214	方形	5.5	5.2	28.6	小-中	0.83	深い	エレベーション実測	036	027	北東エリア
215	215	方形	5.7	5.8	33.1	中	0.56	やや深い		035	026	北東エリア
216	216	円形（多角形）	8.3	7.7	50.2	中-大	0.87	深い	217・446に切られている可能性、中央部に長径2.9mの楕円形の凹みあり	035	025	南東エリア
217	217	方形	5.7	4.6	26.2	小-中	0.64	やや深い		034	025	北西エリア
218	218	方形	5.8	5.0	29.0	小-中	0.47	浅い		034	025	北西エリア
219	219	柄鏡形、主体部方形	7.2	5.8	35.0	中	0.58	やや深い	張出部あり（柄鏡形）、凸部長軸長×短軸長で計測	034	026	南西エリア

重要遺跡確認調査報告書

堅穴 番号	H27年 堅穴確 認番号	平面形状	長径・ 長辺 (m)	短径・ 短辺 (m)	概 算 面 積 (㎡)	規模	深さ (m)	深さ類型	特 記	南北 ライン	東西 ライン	所在 エリア
220	220	不明瞭な方形	7.1	6.4	45.4	中	0.89	深い		035	027	北東エリア
221	221	方形	8.0	7.3	58.4	中-大	1.01	特に深い		034	027	南西エリア
222	222	楕円形	6.8	4.9	26.2	小-中	0.50	やや深い		033	027	南西エリア
223	223	方形	10.2	9.7	98.9	特大	0.95	深い	エレベーション実測	033	026	南西エリア
224	224	方形	4.7	4.7	22.1	小-中	0.57	やや深い		032	026	南西エリア
225	225	方形	5.5	5.5	30.3	中	0.71	やや深い		032	027	南西エリア
226	226	方形	5.0	4.0	20.0	小-中	0.68	やや深い		032	026	南西エリア
227	227	不整円形	5.0	4.9	19.2	小-中	0.48	浅い		032	026	南西エリア
228	228	不整楕円形	5.4	3.6	15.3	小-中	0.35	浅い		032	025	北西エリア
229	229	方形	4.1	3.6	14.8	小-中	0.48	浅い		032	025	北西エリア
230	230	方形	8.0	6.9	55.2	中-大	0.64	やや深い		032	024	北西エリア
231	231	方形	7.7	7.0	53.9	中-大	0.75	やや深い		032	023	北西エリア
232	232	長方形	5.3	4.5	23.9	小-中	0.28	特に浅い		033	023	北西エリア
233	233	方形	6.9	6.7	46.2	中	0.77	やや深い		033	022	北西エリア
234	235	方形	5.0	4.7	23.5	小-中	0.50	やや深い		033	021	北西エリア
235	237	円形	4.6	4.5	16.2	小-中	0.54	やや深い		032	022	北西エリア
236	236	多角形（不整円形）	5.0	4.2	19.0	小-中	0.51	やや深い	長軸長×短軸で計測 235・237に切られている可能性	033	022	北西エリア
237	-	多角形（不整円形）	4.6	4.0	14.8	小-中	0.36	浅い	長軸長×短軸で計測	032	022	北西エリア
238	238	方形	6.0	5.8	34.8	中	0.47	浅い	中心部に立木	032	020	北西エリア
239	239	円形	5.7	5.6	25.1	小-中	0.64	やや深い	238を切る	033	021	北西エリア
240	240	不整円形	4.1	4.0	12.9	小-中	0.56	やや深い	中心部に立木	032	020	北西エリア
241	241	不明瞭な方形（不整円形）	5.0	4.9	24.5	小-中	0.66	やや深い		032	019	北西エリア
242	242	方形	7.3	5.9	43.1	中	0.63	やや深い		032	019	北西エリア
243	243	不明瞭な方形	5.3	5.2	27.6	小-中	0.62	やや深い		031	020	北西エリア
244	244	方形	7.8	6.0	46.8	中	0.63	やや深い		031	021	北西エリア
245	245	不整方形（多角形）	7.0	6.8	47.6	中	0.85	深い		031	021	北西エリア
246	246	多角形（不整円形）	6.4	6.2	30.5	中	0.71	やや深い	長軸長×短軸で計測 247・262に切られている可能性	031	023	北西エリア
247	247	方形	5.6	5.4	30.2	中	0.76	やや深い		031	023	北西エリア
248	248	方形	5.0	4.9	24.5	小-中	0.55	やや深い		031	024	北西エリア
249	249	方形	3.9	3.9	15.2	小-中	0.51	やや深い		031	025	北西エリア
250	250	方形（多角形）	3.5	3.0	10.5	小-中	0.34	浅い		031	025	北西エリア
251	251	方形	7.0	6.7	46.9	中	0.82	深い	中央部付近に方形の凹み	031	025	北西エリア
252	252	方形	7.5	7.3	54.8	中-大	0.75	やや深い		031	026	南西エリア
253	253	方形	7.6	7.0	53.2	中-大	0.66	やや深い		031	028	南西エリア
254	254	不明瞭な方形	5.0	4.3	21.5	小-中	0.42	浅い		030	028	南西エリア
255	255	方形	6.0	5.7	34.2	中	0.66	やや深い		030	027	南西エリア
256	256	長方形	4.7	4.1	19.3	小-中	0.46	浅い		030	026	南西エリア
257	257	方形	9.3	9.0	83.7	大	0.87	深い	中央部付近に方形の凹み	030	025	北西エリア
258	258	方形	5.4	7.8	42.1	中	0.66	やや深い	エレベーション実測	030	024	北西エリア
259	259	不整円形	5.4	4.8	20.3	小-中	0.42	浅い		030	024	北西エリア
260	260	長方形	4.7	3.6	16.9	小-中	0.45	浅い		031	024	北西エリア
261	261	円形（不明瞭な方形）	5.3	4.9	20.4	小-中	0.47	浅い		030	023	北西エリア
262	262	方形	6.2	5.7	35.3	中	0.90	深い	中心部に立木	030	022	北西エリア
263	263	多角形（不整円形）	5.7	5.0	21.6	小-中	0.60	やや深い	長軸長×短軸で計測 262に切られている可能性	030	022	北西エリア
264	264	方形	5.2	4.9	25.5	小-中	0.61	やや深い	中心部に立木	030	021	北西エリア
265	265	方形（多角形）	6.2	6.0	37.2	中	0.65	やや深い		029	020	北西エリア
266	266	方形	5.4	5.0	27.0	小-中	0.68	やや深い		029	022	北西エリア
267	267	不整円形	7.7	7.0	42.3	中	0.59	やや深い		029	023	北西エリア
268	268	方形	4.5	3.7	16.7	小-中	0.59	やや深い		029	023	北西エリア
269	269	方形	5.5	5.4	29.7	小-中	0.63	やや深い		028	023	北西エリア
270	270	方形	6.1	5.4	32.9	中	0.71	やや深い		028	024	北西エリア
271	271	不明瞭な方形	5.5	5.2	28.6	小-中	0.74	やや深い		029	024	北西エリア
272	272	方形	7.2	7.1	51.1	中-大	0.79	やや深い	エレベーション実測	029	025	北西エリア
273	274	方形	4.7	3.7	17.4	小-中	0.51	やや深い		029	026	南西エリア
274	275	方形	3.6	3.3	11.9	小-中	0.46	浅い		029	027	南西エリア
275	276	方形	5.4	4.9	26.5	小-中	0.57	やや深い		029	028	南西エリア
276	-	方形	2.8	2.4	6.7	小	0.12	特に浅い		029	028	南西エリア
277	277	方形	4.3	3.4	14.6	小-中	0.35	浅い	細い踏み分け道が通る	029	029	南西エリア

Ⅲ 湧別町シブノツナイ堅穴住居群の調査

堅穴 番号	H27年 堅穴確 認番号	平面形状	長径・ 長辺 (m)	短径・ 短辺 (m)	概 算 面 積 (㎡)	規模	深さ (m)	深さ類型	特 記	南北 ライン	東西 ライン	所在 エリア
278	278	方形	2.8	2.5	7.0	小	0.25	特に浅い		030	029	南西エリア
279	279	不明瞭な方形	4.0	3.6	14.4	小-中	0.24	特に浅い		028	030	南西エリア
280	280	不明瞭な方形	4.4	4.0	17.6	小-中	0.51	やや深い		028	029	南西エリア
281	281	不明瞭な方形	3.5	3.3	11.6	小-中	0.34	浅い		027	030	南西エリア
282	282	方形	5.2	4.8	25.0	小-中	0.49	浅い		027	029	南西エリア
283	283	楕円形	3.6	2.6	7.3	小	0.12	特に浅い		027	030	南西エリア
284	284	方形 (多角形)	5.2	4.0	20.8	小-中	0.26	特に浅い		026	030	南西エリア
285	285	多角形	5.7	5.0	24.5	小-中	0.57	やや深い	長軸長×短軸で計測	026	030	南西エリア
286	286	方形	4.8	4.8	23.0	小-中	0.62	やや深い		025	030	南西エリア
287	287	方形	5.6	5.6	31.4	中	0.81	深い	昭和41年調査時の318号	025	030	南西エリア
288	288	方形	4.1	4.0	16.4	小-中	0.57	やや深い		024	030	南西エリア
289	289	方形	6.4	5.4	34.6	中	0.79	やや深い		023	030	南西エリア
290	290	方形	5.5	4.5	24.8	小-中	0.54	やや深い		022	029	南西エリア
291	291	方形	11.4	10.2	116.3	超特大	1.03	特に深い	エレベーション実測	021	028	南西エリア
292	292	方形	4.3	3.6	15.5	小-中	0.50	浅い		019	028	南西エリア
293	293	不明瞭な方形	3.0	2.6	7.8	小	0.58	やや深い		018	029	南西エリア
294	294	方形	5.4	4.6	24.8	小-中	0.49	浅い		017	029	南西エリア
295	295	方形 (多角形)	3.8	3.2	12.2	小-中	0.55	やや深い		016	030	南西エリア
296	296	方形	4.0	3.7	14.8	小-中	0.54	やや深い		016	029	南西エリア
297	297	方形 (多角形)	8.2	7.6	62.3	中-大	0.67	やや深い	エレベーション実測	016	028	南西エリア
298	298	方形	5.9	5.6	33.0	中	0.63	やや深い		018	028	南西エリア
299	299	方形 (多角形)	5.1	4.3	21.9	小-中	0.55	やや深い	埋められている	018	027	南西エリア
300	300	方形	6.0	5.6	33.6	中	0.65	やや深い		019	028	南西エリア
301	301	多角形 (方形)	6.1	5.5	31.6	中	0.67	やや深い	長軸長×短軸で計測	020	027	南西エリア
302	302	方形	10.1	9.7	98.0	特大	0.70	やや深い	エレベーション実測	020	026	南西エリア
303	303	方形 (多角形)	6.7	5.8	38.9	中	0.61	やや深い	エレベーション実測	018	026	南西エリア
304	304	方形	4.1	3.8	15.6	小-中	0.49	浅い		019	025	北西エリア
305	305	多角形	7.3	7.0	38.6	中	0.80	深い	長軸長×短軸で計測	017	024	北西エリア
306	306	方形	7.5	6.5	48.8	中	0.70	やや深い		018	024	北西エリア
307	307	方形 (多角形)	5.8	5.5	31.9	中	0.71	やや深い		019	023	北西エリア
308	308	方形	5.0	4.8	24.0	小-中	0.69	やや深い		019	024	北西エリア
309	309	多角形 (方形)	8.1	7.0	53.4	中-大	0.78	やや深い	長軸長×短軸で計測	020	023	北西エリア
310	310	方形	5.8	5.6	32.5	中	0.73	やや深い		021	024	北西エリア
311	311	多角形 (方形)	6.5	6.0	32.8	中	0.78	やや深い	長軸長×短軸で計測	020	025	北西エリア
312	312	多角形 (方形)	5.4	5.1	24.2	小-中	0.50	浅い	長軸長×短軸で計測	021	025	北西エリア
313	313	多角形 (方形)	6.8	6.0	35.5	中	0.76	やや深い	長軸長×短軸で計測	022	024	北西エリア
314	314	方形	11.2	10.6	118.7	超特大	0.89	深い	下端に帯状(5.5×2m)の盛土 エレベーション実測	023	023	北西エリア
315	315	不整楕円形	5.9	4.6	21.3	小-中	0.50	やや深い		023	024	北西エリア
316	316	多角形 (方形)	7.7	6.3	41.6	中	0.72	やや深い	長軸長×短軸で計測	023	025	北西エリア
317	317	不明瞭な方形	5.9	5.2	30.7	中	0.75	やや深い		024	025	北西エリア
318	318	方形	4.6	4.6	21.2	小-中	0.47	浅い		024	026	南西エリア
319	319	方形	7.7	7.4	57.0	中-大	0.60	やや深い		023	027	南西エリア
320	320	方形	3.1	2.9	9.0	小	0.31	浅い		022	027	南西エリア
321	321	円形	2.0	1.9	3.0	極小	0.18	特に浅い		022	026	南西エリア
322	322	不整円形	2.7	2.6	5.5	小	0.31	浅い		021	027	南西エリア
323	323	柄鏡形、主体部方形	6.3	5.0	19.9	小-中	0.29	特に浅い	張出部あり(柄鏡形)、凸部長 軸長×短軸長で計測	024	027	南西エリア
324	324	方形	5.6	5.4	30.2	中	0.70	やや深い		025	027	南西エリア
325	325	方形	5.7	5.6	31.9	中	0.65	やや深い		024	028	南西エリア
326	326	多角形	4.3	4.0	14.6	小-中	0.33	浅い	長軸長×短軸 (突部) で計測	024	028	南西エリア
327	327	不明瞭な方形	4.6	4.5	20.7	小-中	0.50	やや深い		024	029	南西エリア
328	328	不整長方形	5.2	2.6	13.5	小-中	0.42	浅い		023	029	南西エリア
329	329	長方形	10.2	7.7	78.5	大	0.79	やや深い	エレベーション実測	023	028	南西エリア
330	330	長方形	2.8	2.2	6.2	小	0.19	特に浅い		020	029	南西エリア
331	331	多角形 (不明瞭な方形)	5.1	5.0	19.7	小-中	0.47	浅い	長軸長×短軸で計測	025	029	南西エリア
332	332	長方形	4.8	3.2	15.4	小-中	0.47	浅い	細長い形状に特徴がある	026	029	南西エリア
333	333	不明瞭な長方形	4.7	3.0	14.1	小-中	0.28	特に浅い	底面中央がマウンド状	025	028	南西エリア
334	334	方形 (多角形)	5.2	4.2	21.8	小-中	0.59	やや深い		026	028	南西エリア
335	335	方形	5.6	5.0	28.0	小-中	0.65	やや深い		026	028	南西エリア
336	349	方形 (多角形)	5.0	4.9	24.5	小-中	0.58	やや深い		026	027	南西エリア

重要遺跡確認調査報告書

堅穴 番号	H27年 堅穴確 認番号	平面形状	長径・ 長辺 (m)	短径・ 短辺 (m)	概 算 面 積 (㎡)	規模	深さ (m)	深さ類型	特 記	南北 ライン	東西 ライン	所在 エリア
337	337	方形	4.8	3.6	17.3	小-中	0.57	やや深い	張出部あり（煙道部か）	025	027	南西エリア
338	338	多角形	4.8	4.0	17.7	小-中	0.51	やや深い	長軸長×短軸で計測	025	026	南西エリア
339	339	方形	6.1	5.7	34.8	中	0.85	深い		025	025	北西エリア
340	340	方形	6.0	5.7	34.2	中	0.70	やや深い	中心部に立木	026	026	南西エリア
341	341	方形	5.7	5.1	29.1	小-中	0.75	やや深い		026	025	北西エリア
342	342	多角形	5.0	4.5	19.7	小-中	0.67	やや深い	長軸長×短軸で計測	025	025	北西エリア
343	343	不整楕円形	5.0	4.1	16.1	小-中	0.32	浅い		025	025	北西エリア
344	344	方形	5.7	5.6	31.9	中	0.76	やや深い		025	024	北西エリア
345	345	不明瞭な方形	6.9	6.3	43.5	中	0.81	深い		026	024	北西エリア
346	346	不整方形（多角形）	6.7	6.4	42.9	中	0.83	深い	長軸長×短軸で計測 347に切られている可能性	027	025	北西エリア
347	347	方形	5.7	4.8	27.4	小-中	0.64	やや深い		028	025	北西エリア
348	-	多角形	5.1	4.9	22.1	小-中	0.55	やや深い	長軸長×短軸（突部）で計測	028	026	南西エリア
349	348	不明瞭な方形	5.6	5.5	30.8	中	0.77	やや深い		027	026	南西エリア
350	350	多角形	9.6	7.3	60.9	中-大	0.66	やや深い	長軸長×短軸で計測 エレベーション実測	027	028	南西エリア
351	351	不明瞭な方形（多角形）	7.5	6.6	49.5	中	0.96	深い		027	029	南西エリア
352	352	方形	4.5	4.4	19.8	小-中	0.57	やや深い		028	028	南西エリア
353	353	方形	5.9	4.2	24.8	小-中	0.61	やや深い		028	028	南西エリア
354	354	方形	4.6	4.0	18.4	小-中	0.45	浅い		028	027	南西エリア
355	355	方形	4.7	4.7	22.1	小-中	0.66	やや深い		027	027	南西エリア
356	356	方形	6.2	6.0	37.2	中	0.84	深い		028	026	南西エリア
357	357	方形	5.4	5.1	27.5	小-中	0.61	やや深い		028	027	南西エリア
358	358	不明瞭な方形	3.9	3.6	14.0	小-中	0.59	やや深い		028	027	南西エリア
359	359	方形	5.6	4.8	26.9	小-中	0.59	やや深い		029	029	南西エリア
360	273	方形	4.2	4.0	16.8	小-中	0.59	やや深い		029	026	南西エリア
361	361	円形	5.1	4.7	18.8	小-中	0.52	やや深い		029	023	北西エリア
362	362	方形	6.8	6.7	45.6	中	0.63	やや深い		027	024	北西エリア
363	363	柄鏡形、主体部円形	4.1	3.9	11.5	小-中	0.27	特に浅い	張出部あり（柄鏡形） 凸部長軸長×短軸長で計測	028	023	北西エリア
364	364	多角形（不明瞭な方形）	5.3	4.8	19.6	小-中	0.67	やや深い	長軸長×短軸で計測	027	023	北西エリア
365	365	多角形	7.7	6.4	40.0	中	0.97	深い	昭和41年調査時の238号堅穴 長軸長×短軸で計測 エレベーション実測	028	022	北西エリア
366	366	方形	4.6	4.2	19.3	小-中	0.33	浅い		029	023	北西エリア
367	367	不明瞭な方形	6.1	5.6	34.2	中	0.77	やや深い		033	024	北西エリア
368	368	方形	7.9	7.3	57.7	中-大	0.69	やや深い		034	024	北西エリア
369	369	柄鏡形、主体部円形	7.1	6.5	32.7	中	0.58	やや深い	張出部あり（柄鏡形） 凸部長軸長×短軸長で計測	034	023	北西エリア
370	234	方形	5.8	5.0	29.0	小-中	0.55	やや深い		033	021	北西エリア
371	371	不明瞭な長方形	7.1	5.4	38.3	中	0.75	やや深い		034	022	北西エリア
372	372	方形	5.7	5.5	31.4	中	0.53	やや深い		037	020	南東エリア
373	373	不明瞭な長方形（円形）	6.8	6.6	44.9	中	0.67	やや深い		037	019	南東エリア
374	374	方形	6.2	5.8	36.0	中	0.57	やや深い		036	019	南東エリア
375	375	楕円形（不明瞭な長方形）	6.2	4.9	23.8	小-中	0.57	やや深い		036	018	南東エリア
376	376	方形	5.1	4.9	25.0	小-中	0.63	やや深い		036	018	南東エリア
377	377	不整楕円形	5.1	4.3	17.2	小-中	0.57	やや深い		035	017	南東エリア
378	378	方形	3.5	3.3	11.6	小-中	0.55	やや深い		036	018	南東エリア
379	379	楕円形（不明瞭な長方形）	7.0	6.0	33.0	中	0.57	やや深い		037	018	南東エリア
380	380	方形	5.8	4.6	26.7	小-中	0.39	浅い		037	019	南東エリア
381	381	不整円形	6.6	5.9	30.6	中	0.52	やや深い		038	020	南東エリア
382	382	楕円形	4.8	(3.7)	(13.9)	小-中	0.28	特に浅い	砂利道際の排水路に加工	035	016	南東エリア
383	383	方形？	(5.7)	5.0	(28.5)	中	0.66	やや深い	砂利道で一部埋められる	034	016	北西エリア
384	384	円形	5.4	5.0	21.2	小-中	0.57	やや深い		033	016	北西エリア
385	385	楕円形	6.1	5.1	24.4	小-中	0.54	やや深い		033	016	北西エリア
386	386	不明瞭な方形	5.5	4.7	25.9	小-中	0.66	やや深い		033	017	北西エリア
387	387	円形（不明瞭な方形）	8.4	8.3	54.7	中-大	0.75	やや深い	エレベーション実測	032	016	北西エリア
388	388	不整円形	4.8	4.3	16.2	小-中	0.51	やや深い	中心部に立木	033	016	北西エリア
389	389	不明瞭な方形（多角形）	7.2	6.3	45.4	中	0.69	やや深い	エレベーション実測	032	015	北西エリア
390	390	楕円形（不明瞭な長方形）	4.1	3.3	10.6	小-中	0.38	浅い	中心部に立木	032	014	北西エリア
391	391	楕円形（不明瞭な長方形）	7.1	5.8	32.3	中	0.39	浅い	中心部に立木	030	014	北西エリア
392	392	不明瞭な方形	6.0	6.0	36.0	中	0.63	やや深い	中心部に立木 中央部に楕円形の凹み	029	015	北西エリア

Ⅲ 湧別町シブノツナイ堅穴住居群の調査

堅穴 番号	H27年 堅穴確 認番号	平面形状	長径・ 長辺 (m)	短径・ 短辺 (m)	概 算 面 積 (㎡)	規模	深さ (m)	深さ類型	特 記	南北 ライン	東西 ライン	所在 エリア
393	393	方形（多角形）	5.8	5.0	29.0	小-中	0.80	深い	中心部に立木	029	016	北西エリア
394	394	不整円形	7.6	7.0	41.8	中	0.60	やや深い	中心部に立木	028	016	北西エリア
395	395	方形	5.5	4.8	26.4	小-中	0.72	やや深い		028	014	北西エリア
396	396	不整楕円形（不明瞭な長方形）	7.3	6.4	36.7	中	0.63	やや深い	中心部に立木	026	017	北西エリア
397	397	方形	10.5	9.1	95.6	特大	0.91	深い	中心部に立木	027	018	北西エリア
398	398	方形	5.7	5.5	31.4	中	0.65	やや深い	中心部に立木	029	017	北西エリア
399	399	方形	7.4	6.9	51.1	中-大	0.69	やや深い	中心部に立木	030	018	北西エリア
400	400	方形	9.6	9.4	90.2	特大	0.92	深い	中心部に立木、エレベーション実測	029	019	北西エリア
401	401	方形	6.6	6.4	42.2	中	0.92	深い	中心部に立木	028	019	北西エリア
402	-	不明瞭な方形	5.7	5.0	28.5	小-中	0.74	やや深い	401に切られている可能性	029	018	北西エリア
403	403	方形	4.8	4.4	21.1	小-中	0.50	やや深い		026	019	北西エリア
404	404	方形	4.1	4.0	16.4	小-中	0.63	やや深い		027	019	北西エリア
405	405	方形	6.9	5.3	36.6	中	0.70	やや深い	中心部に立木	025	019	北西エリア
406	406	楕円形（不明瞭な方形）	5.5	4.4	19.0	小-中	0.44	浅い	中心部に立木	024	019	北西エリア
407	407	方形	4.1	4.0	16.4	小-中	0.48	浅い		023	018	北西エリア
408	408	方形	5.0	4.9	24.5	小-中	0.64	やや深い		022	019	北西エリア
409	409	不整円形	5.9	5.9	27.3	小-中	0.40	浅い	中心部に立木、張出部2か所あり（煙道部か）	023	020	北西エリア
410	410	方形	5.8	5.7	33.1	中	0.62	やや深い		023	021	北西エリア
411	411	方形（多角形）	5.3	5.0	26.5	小-中	0.67	やや深い		024	023	北西エリア
412	412	方形	9.7	9.6	93.1	特大	0.93	深い	下端に盛土（3×2m）あり	026	023	北西エリア
413	413	不整円形（不明瞭な方形）	4.9	4.5	17.3	小-中	0.65	やや深い		025	023	北西エリア
414	414	不明瞭な方形	4.9	3.7	18.1	小-中	0.61	やや深い		021	022	北西エリア
415	415	方形	6.2	6.2	38.4	中	0.64	やや深い		021	022	北西エリア
416	416	多角形（不明瞭な方形）	12.2	10.7	110.1	超特大	0.59	やや深い	皿状の掘り込み、オホーツク文化期のものか。長軸×短軸で計測エレベーション実測	020	021	北西エリア
417	417	多角形（方形）	5.1	4.5	20.3	小-中	0.57	やや深い	長軸×短軸で計測	019	020	北西エリア
418	418	多角形？	6.4	(4.7)	(26.6)	中	0.44	浅い	砂利道で一部埋められる	038	016	南東エリア
419	419	多角形（不明瞭な方形）	6.4	6.1	31.0	中	0.63	やや深い	長軸×短軸で計測	039	015	南東エリア
420	420	多角形	8.3	7.3	49.0	中	0.79	やや深い	長軸×短軸で計測	037	015	南東エリア
421	421	楕円形？	9.5	(6.8)	(50.7)	中	0.65	やや深い	砂利道で一部埋められる	035	015	南東エリア
422	422	方形	11.7	11.5	134.6	超特大	0.99	深い		034	014	北西エリア
423	423	多角形（方形）	7.4	6.5	40.2	中	0.47	浅い	長軸×短軸で計測	034	013	北西エリア
424	424	不整円形	4.5	4.3	15.2	小-中	0.32	浅い		036	012	南東エリア
425	425	方形（多角形）	9.5	8.2	77.9	大	0.84	深い		037	014	南東エリア
426	426	方形	9.9	9.5	94.1	特大	0.68	やや深い		036	014	南東エリア
427	427	不明瞭な長方形（多角形）	5.7	3.9	22.2	小-中	0.46	浅い		038	014	南東エリア
428	428	多角形	6.4	5.7	29.3	小-中	0.76	やや深い	長軸×短軸で計測	039	014	南東エリア
429	429	多角形（不明瞭な方形）	7.3	7.0	41.8	中	0.59	やや深い	中央に木、長軸×短軸で計測	040	015	南東エリア
430	430	方形？	(5.8)	(3.4)	19.7	小-中	0.49	浅い	砂利道で一部埋められる	041	016	南東エリア
431	431	多角形（不整円形）	5.4	4.8	18.3	小-中	0.44	浅い	長軸×短軸で計測	042	014	南東エリア
432	432	多角形	4.4	4.4	15.0	小-中	0.23	特に浅い	中央部に方形の凹み 長軸×短軸で計測	042	024	南東エリア
433	433	円形（不明瞭な方形）	6.4	6.1	30.6	中	0.45	浅い		042	024	南東エリア
434	434	多角形（不整円形）	6.6	5.3	28.4	小-中	0.32	浅い	長軸×短軸で計測	042	025	南東エリア
435	435	楕円形	7.7	5.9	35.7	中	0.38	浅い		042	025	南東エリア
436	49	不明瞭な方形	4.1	3.8	15.6	小-中	0.26	特に浅い	東端段丘縁に位置	045	025	南東エリア
437	-	方形	3.1	2.4	7.4	小	0.14	特に浅い		042	021	南東エリア
438	-	多角形	6.1	5.3	26.0	小-中	0.26	特に浅い	長軸×短軸で計測 80・110と切り合う可能性	041	021	南東エリア
439	-	円形	4.0	3.6	11.3	小-中	0.14	特に浅い		042	020	南東エリア
440	-	長方形	5.6	4.2	23.5	小-中	0.13	特に浅い		042	020	南東エリア
441	-	不明瞭な方形	4.3	3.3	14.2	小-中	0.22	特に浅い		042	016	南東エリア
442	182	長方形	5.1	3.4	17.3	小-中	0.37	浅い		042	026	北東エリア
443	187	方形	6.1	5.7	34.8	中	0.45	浅い		040	025	南東エリア
444	-	円形	3.2	2.8	7.0	小	0.20	特に浅い		038	027	北東エリア
445	-	円形	2.9	2.7	6.1	小	0.15	特に浅い		038	027	北東エリア
446	-	方形	4.5	4.0	18.0	小-中	0.27	特に浅い		034	026	南西エリア
447	-	円形	5.9	5.6	25.9	小-中	0.53	やや深い		036	024	南東エリア
448	-	方形	3.8	3.3	12.5	小-中	0.27	特に浅い		037	024	南東エリア

重要遺跡確認調査報告書

堅穴 番号	H27年 堅穴確 認番号	平面形状	長径・ 長辺 (m)	短径・ 短辺 (m)	概 算 面 積 (㎡)	規模	深さ (m)	深さ類型	特 記	南北 ライン	東西 ライン	所在 エリア
449	-	柄鏡形	5.5	3.4	13.5	小-中	0.17	特に浅い	円形と方形の接続	038	024	南東エリア
450	-	円形	5.9	5.8	26.9	小-中	0.59	やや深い		038	023	南東エリア
451	163	不明瞭な方形（楕円形）	5.8	5.1	29.6	小-中	0.49	浅い	164に切られている可能性	036	023	南東エリア
452	-	方形	6.0	6.0	36.0	中	0.75	やや深い		033	023	北西エリア
453	-	柄鏡形、主体部楕円形	4.6	4.4	14.5	小-中	0.24	特に浅い	張出部あり（柄鏡形）、凸部長軸長×短軸長で計測 154と切り合う可能性	036	020	南東エリア
454	-	円形	3.5	3.3	9.1	小	0.29	特に浅い		035	018	南東エリア
455	-	方形（多角形）	5.8	5.2	30.2	中	0.70	やや深い		033	017	北西エリア
456	-	多角形	5.4	4.6	19.9	小-中	0.54	やや深い	長軸×短軸で計測	033	018	北西エリア
457	-	方形（多角形）	3.7	2.9	10.7	小-中	0.31	浅い		033	018	北西エリア
458	-	方形	4.6	4.4	20.2	小-中	0.62	やや深い		033	019	北西エリア
459	-	不整方形（多角形）	6.6	5.9	38.9	中	0.72	やや深い		032	018	北西エリア
460	-	不明瞭な方形（楕円形）	6.0	5.6	33.6	中	0.53	やや深い	張出部あり（煙道か）	031	018	北西エリア
461	-	方形	7.1	6.8	48.3	中	0.85	深い		028	021	北西エリア
462	-	方形	5.0	4.8	24.0	小-中	0.77	やや深い		027	021	北西エリア
463	-	方形	5.7	5.4	30.8	中	0.79	やや深い		026	021	北西エリア
464	-	方形	7.0	6.1	42.7	中	0.72	やや深い		024	021	北西エリア
465	-	多角形（方形）	7.2	6.8	40.6	中	0.77	やや深い	長軸×短軸で計測	025	021	北西エリア
466	-	方形	7.5	6.9	51.8	中-大	0.81	深い		027	020	北西エリア
467	-	不明瞭な方形（多角形）	5.8	5.7	33.1	中	0.84	深い		028	020	北西エリア
468	402	柄鏡形（不整円形）	4.0	3.7	11.0	小-中	0.27	特に浅い	長軸×短軸（突部）で計測	028	017	北西エリア
469	-	不整方形（多角形）	4.1	3.9	16.0	小-中	0.67	やや深い		023	026	南西エリア
470	-	柄鏡形、主体部楕円形	6.4	6.2	26.8	小-中	0.52	やや深い	長軸×短軸（突部）で計測	023	025	北西エリア
471	-	円形	1.5	1.4	1.6	極小	0.14	特に浅い		022	026	南西エリア
472	-	長方形	2.1	1.6	3.4	極小	0.20	特に浅い		021	027	南西エリア
473	-	長方形	2.4	1.5	3.6	極小	0.12	特に浅い		021	027	南西エリア
474	-	円形	1.7	1.5	2.0	極小	0.13	特に浅い		021	026	南西エリア
475	-	方形	2.3	2.2	5.1	小	0.16	特に浅い		020	027	南西エリア
476	-	方形	3.0	2.8	8.4	小	0.14	特に浅い		020	028	南西エリア
477	-	円形	2.5	2.5	4.9	極小	0.33	浅い		016	028	南西エリア
478	-	長方形	2.3	1.8	4.1	極小	0.21	特に浅い		017	028	南西エリア
479	-	不明瞭な方形（多角形）	4.5	4.1	18.5	小-中	0.38	浅い		037	013	南東エリア
480	-	不整楕円形	4.5	3.0	10.6	小-中	0.23	特に浅い		040	015	南東エリア
481	-	方形	4.8	2.8	13.4	小-中	0.34	浅い		041	015	南東エリア
482	-	円形	2.2	1.9	3.3	極小	0.14	特に浅い		020	026	南西エリア
483	-	楕円形	3.9	2.7	8.3	小	0.24	特に浅い		032	020	北西エリア
484	-	不明瞭な方形	3.0	2.2	6.6	小	0.18	特に浅い		031	023	北西エリア
485	-	方形	3.1	2.6	8.1	小	0.22	特に浅い		031	022	北西エリア
486	-	方形	3.5	2.7	9.5	小	0.26	特に浅い		020	024	北西エリア
487	-	多角形（方形）	4.0	3.5	11.3	小-中	0.41	浅い	長軸×短軸で計測	016	026	南西エリア
488	-	円形	2.1	2.1	3.5	極小	0.28	特に浅い		016	026	南西エリア
489	-	方形	2.7	2.7	5.7	小	0.18	特に浅い		018	026	南西エリア
490	-	方形	1.8	1.8	3.2	極小	0.17	特に浅い		015	030	南西エリア
491	-	不整円形	4.9	4.3	16.5	小-中	0.34	浅い		030	016	北西エリア
492	-	方形	6.3	4.8	30.2	中	0.69	やや深い		031	016	北西エリア
493	-	不整方形（多角形）	6.7	5.3	35.5	中	0.76	やや深い	長軸×短軸（突部）で計測	031	017	北西エリア
494	-	方形	6.7	6.3	42.2	中	0.84	深い		032	017	北西エリア
495	-	円形（不明瞭な方形）	3.2	3.0	7.5	小	0.32	浅い		025	021	北西エリア
496	-	長方形	2.0	1.6	3.2	極小	0.11	特に浅い		024	024	北西エリア
497	-	方形	2.6	2.6	6.8	小	0.20	特に浅い		030	025	北西エリア
498	-	円形	3.2	2.8	7.0	小	0.13	特に浅い		037	026	北東エリア
499	-	方形	3.0	2.1	6.3	小	0.18	特に浅い		029	029	南西エリア
500	-	方形	1.7	1.3	2.2	極小	0.11	特に浅い		019	027	南西エリア
501	-	方形	2.5	1.8	4.5	極小	0.20	特に浅い		030	020	北西エリア
502	-	長方形	3.7	1.8	6.7	小	0.27	特に浅い		030	020	北西エリア
503	-	長方形	4.2	2.7	11.3	小-中	0.26	特に浅い		040	016	南東エリア
504	-	不整方形	2.4	1.9	4.6	極小	0.19	特に浅い		040	016	南東エリア
505	-	方形	2.7	2.5	6.8	小	0.15	特に浅い		033	020	北西エリア
506	-	方形	4.0	3.3	13.2	小-中	0.15	特に浅い		037	012	南東エリア
507	-	方形	4.1	3.3	13.5	小-中	0.17	特に浅い		035	027	北東エリア

### Ⅲ 湧別町シブノツナイ堅穴住居群の調査

堅穴 番号	H27年 堅穴確 認番号	平面形状	長径・ 長辺 (m)	短径・ 短辺 (m)	概 算 面 積 (㎡)	規模	深さ (m)	深さ類型	特 記	南北 ライン	東西 ライン	所在 エリア
508	-	方形	2.0	1.4	2.8	極小	0.13	特に浅い		019	024	北西エリア
509	-	多角形（楕円形）	6.3	5.1	26.8	小-中	0.59	やや深い	長軸×短軸で計測	034	017	北西エリア
510	-	方形	2.2	1.6	3.5	極小	0.11	特に浅い		026	030	南西エリア
511	-	方形	2.8	2.4	6.7	小	0.19	特に浅い		017	023	北西エリア
512	-	不明瞭な方形（円形）	4.9	4.9	24.0	小-中	0.62	やや深い		020	019	北西エリア
513	-	方形	4.6	4.2	19.3	小-中	0.38	浅い		029	027	南西エリア
514	-	方形	5.1	4.2	21.4	小-中	0.16	特に浅い	中央部に方形の凹み	043	021	南東エリア
515	-	方形？	4.0	(1.4)	(5.6)	小-中	0.11	特に浅い	砂利道で半分以上埋められる	044	022	南東エリア
516	336	不整方形（多角形）	5.7	4.8	27.4	小-中	0.67	やや深い		026	027	南西エリア
517	370	方形	4.8	3.9	18.7	小-中	0.48	浅い		034	022	北西エリア
518	-	楕円形？（不明瞭な方形？）	6.8	(4.6)	(24.6)	中	0.49	浅い	東端段丘縁に位置 段丘で東側崩落	046	024	南東エリア
519	-	楕円形	3.2	1.8	4.5	極小	0.11	特に浅い	東端段丘縁に位置	044	020	南東エリア
520	-	楕円形	5.0	3.2	12.6	小-中	0.19	特に浅い		040	022	南東エリア
521	-	円？（不明瞭な方形？）	7.7	(5.1)	(30.8)	中	0.19	特に浅い	砂利道で一部埋められる	039	017	南東エリア
522	-	不明瞭な方形（円形）	5.5	4.8	26.4	小-中	0.25	特に浅い	154に切られている可能性	036	019	南東エリア
523	-	不整円形	3.8	2.7	8.1	小	0.20	特に浅い		032	020	北西エリア
524	-	不整円形	4.8	3.6	13.6	小-中	0.16	特に浅い		029	018	北西エリア
525	-	不整円形	3.4	2.4	6.4	小	0.07	特に浅い		015	030	南西エリア
526	-	楕円形	3.1	2.1	5.1	小	0.10	特に浅い		037	011	南東エリア
527	-	方形	2.2	1.7	3.7	極小	0.16	特に浅い	最北部に単独で分布	043	033	北東エリア

※方形は対向する辺の長い方を計測した。

※方形と長方形、円形と楕円形の区別は、長（辺・軸）と短（辺・軸）の比が1.5以上ものを長方形・楕円形とした。

※平面形で不整方形・多角形・楕円形・不整円形の分類を行っているが、埋没状況の輪郭を主観的に判断したものであり、変更の余地がある。

※平面形状で「？」付きは、道路などで埋められ全体形状が観察できないものを示す。

※平面形で形状判断が難しいものは、括弧内に他候補を併記している。

※道路に部分的に埋められたものの規模は推定面積から分類している。

※「所在エリア」は南北ライン35・東西ライン25を境界に、「北西」（南北35以西・東西25以北）、「北東」（南北35以东・東西25以南）、「南西」（南北35以西・東西25以南）、「南東」（南北35以东・東西25以南）の4つのエリアを設定した。



## 写真図版







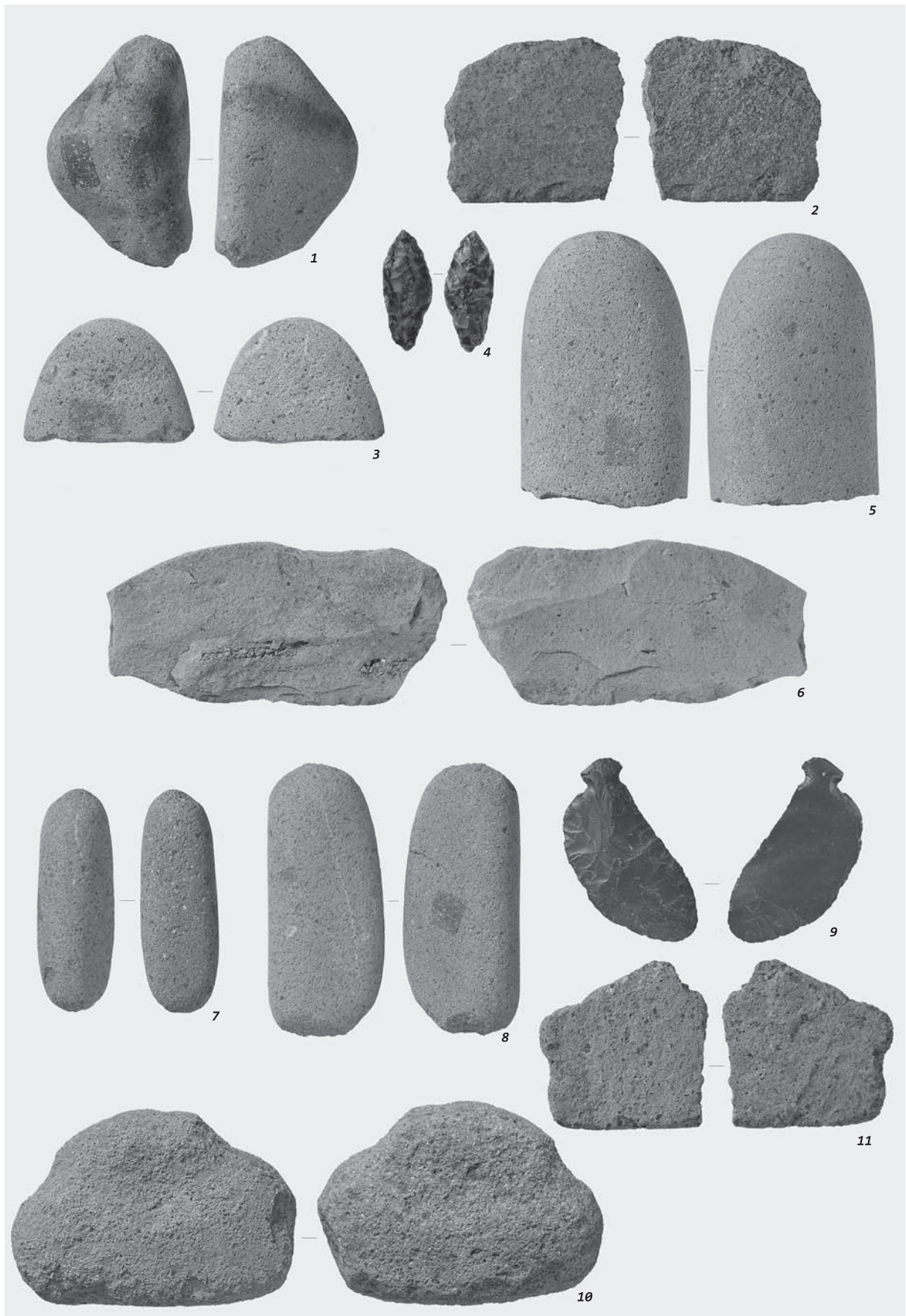
東山 1 遺跡出土 土器(1) 縮尺 1 : 3



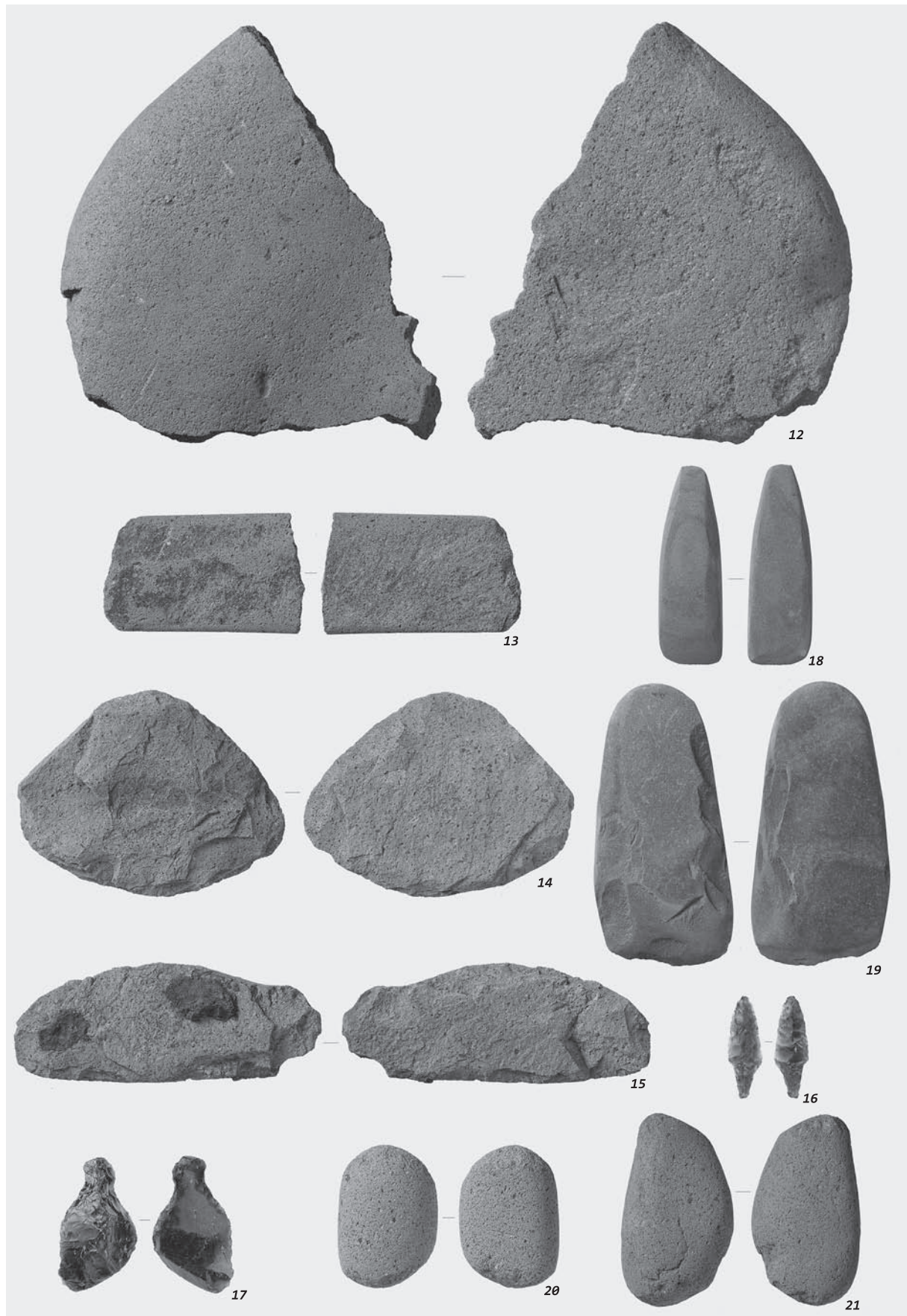
東山 1 遺跡出土 土器(2) 縮尺任意



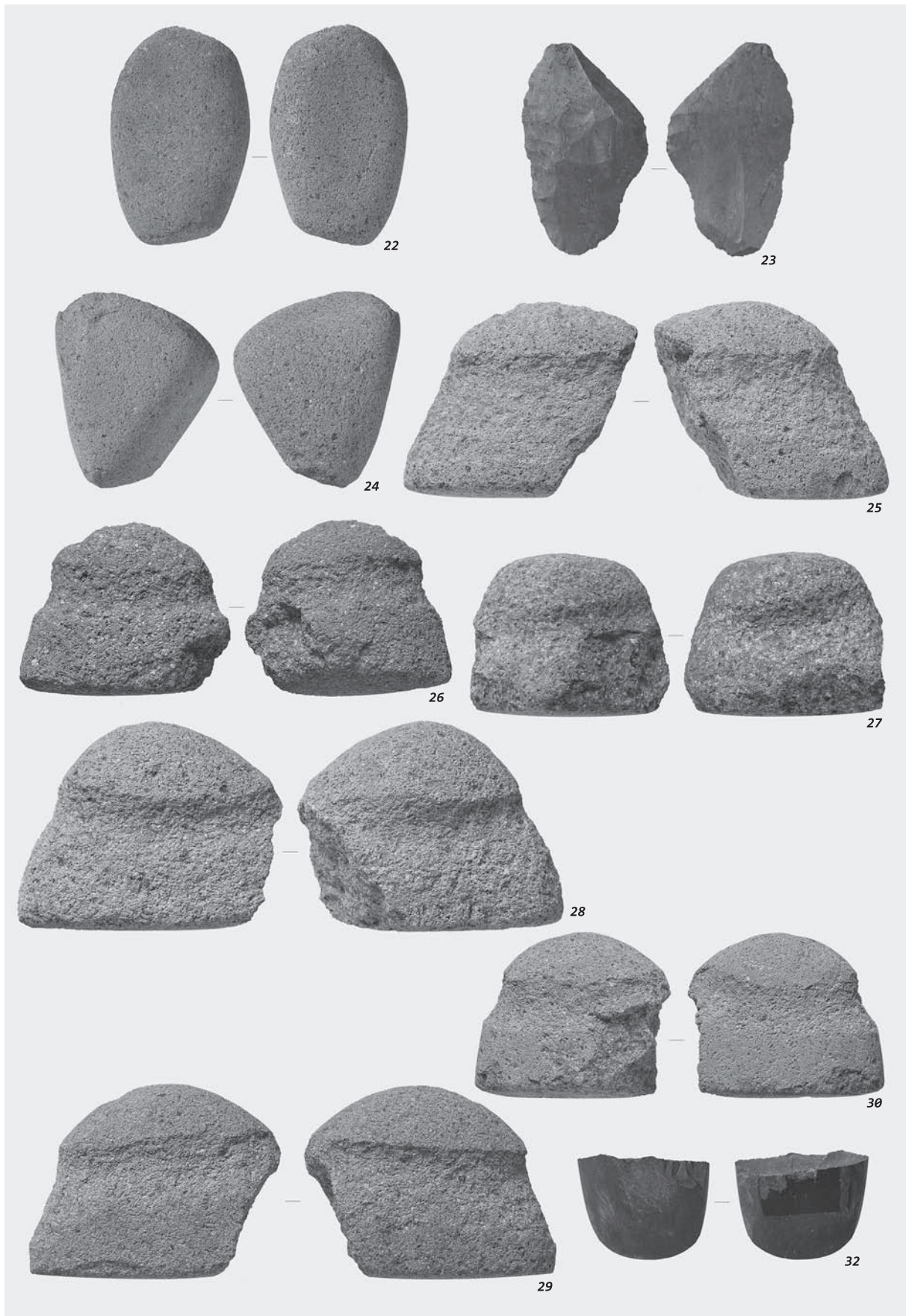
東山 1 遺跡出土 土器(3) 縮尺 1 : 3



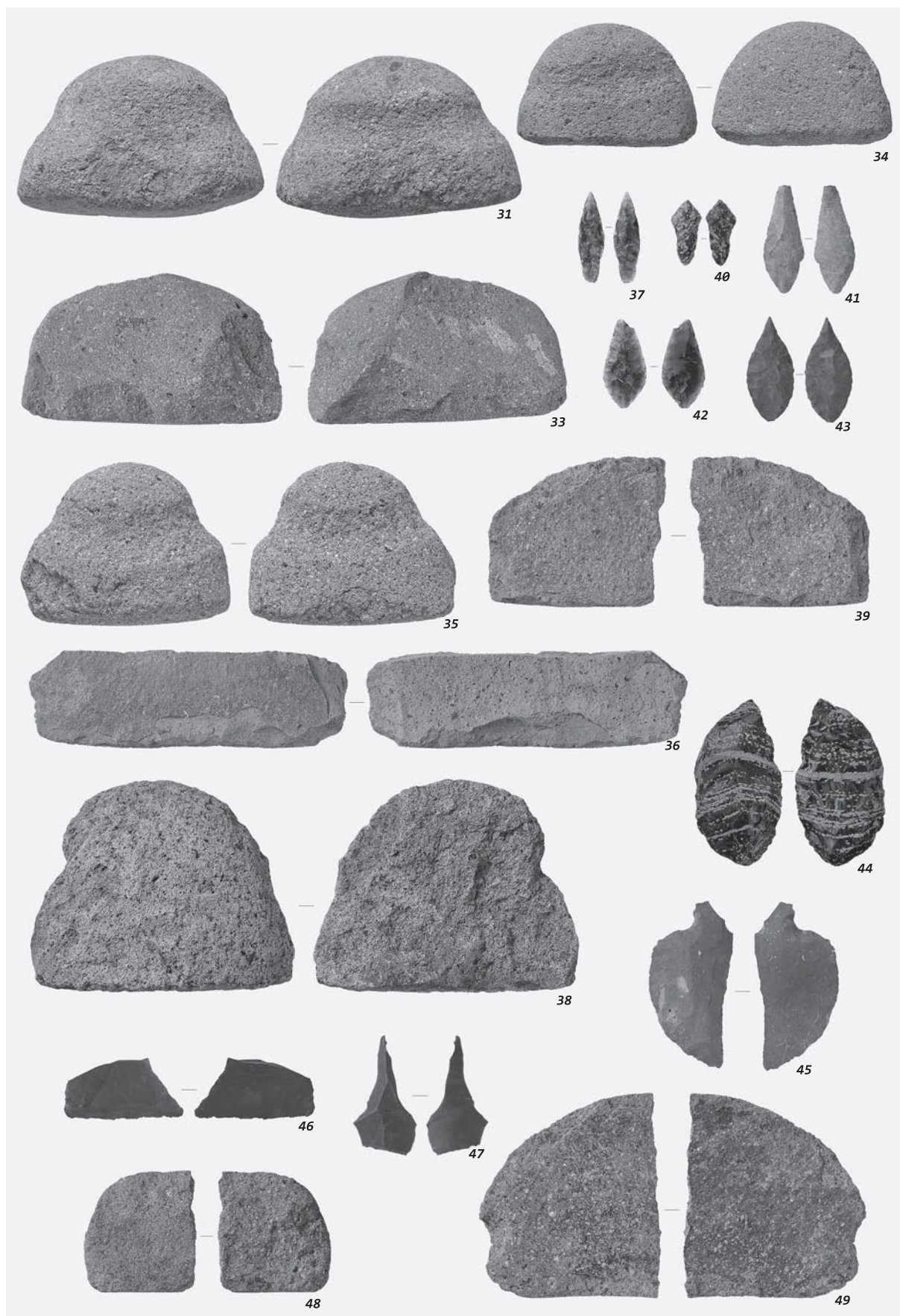
東山 1 遺跡出土 石器(1) 剥片石器 1 : 2、礫石器 1 : 3



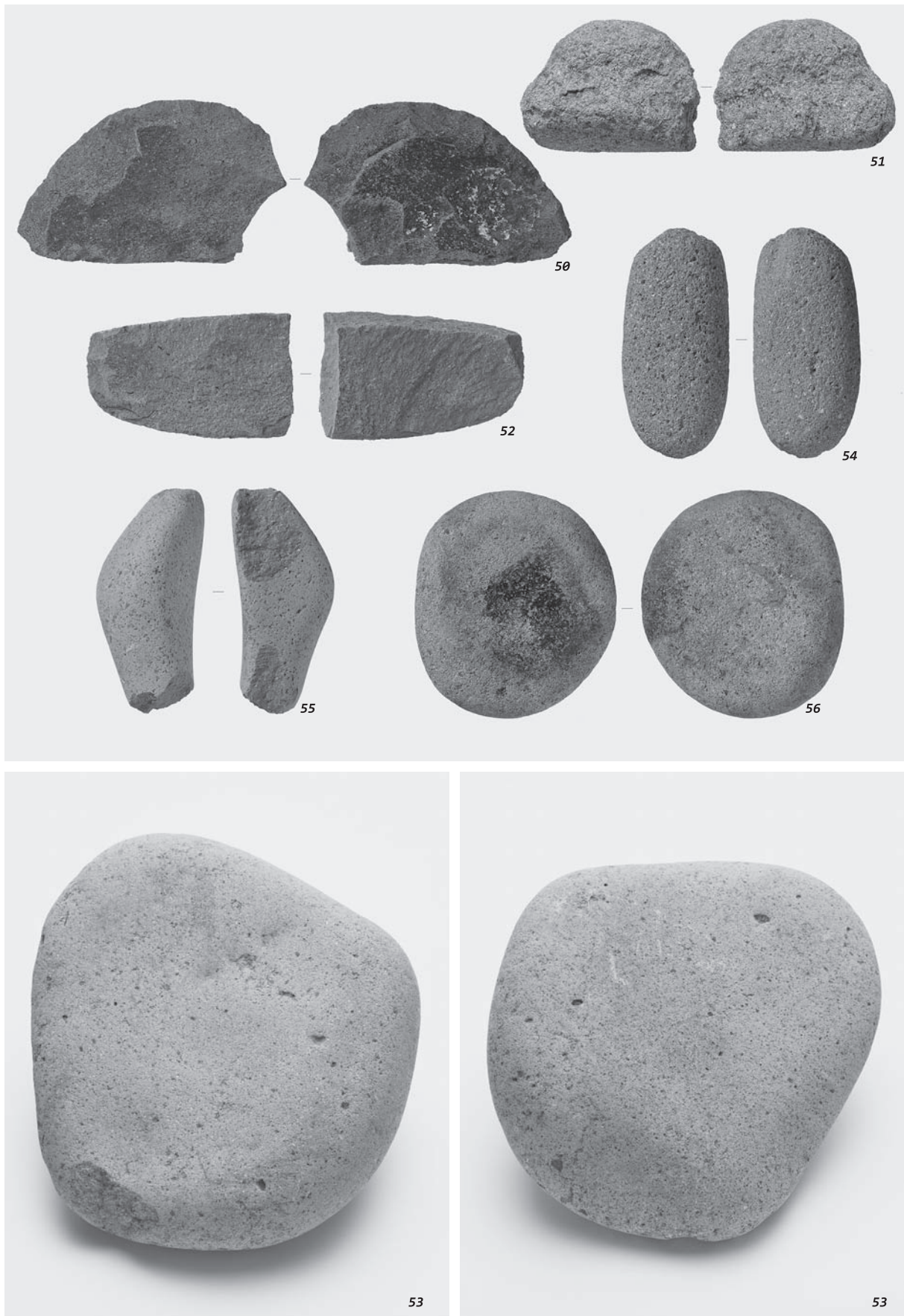
東山 1 遺跡出土 石器(2) 剥片石器・石斧 1 : 2、礫石器 1 : 3



東山 1 遺跡出土 石器(3) 剥片石器・石斧 1 : 2、礫石器 1 : 3



東山 1 遺跡出土 石器(4) 剥片石器 1 : 2、礫石器 1 : 3



東山 1 遺跡出土 石器(5) 礫石器 1 : 3、53は任意



1 道指定有形文化財「岩内東山円筒文化遺跡出土の遺物」 剥片石器集合



2 道指定有形文化財「岩内東山円筒文化遺跡出土の遺物」 礫石器集合



シブノツナイ 竪穴住居群遠景 西から 矢印が現地



1 シブノツナイ竪穴住居群空撮 南東から



2 シブノツナイ竪穴住居群空撮 東から



1 東部段丘崖付近の竪穴群 北から



2 西部段丘崖付近の竪穴群 東から



1 北部の竖穴群 北から



2 南部防風林内の竖穴群 東から



1 豎穴番号確認作業



2 測量実務実習



3 牛と豎穴



4 牛のいる測量調査状況



5 測量調査状況(1)



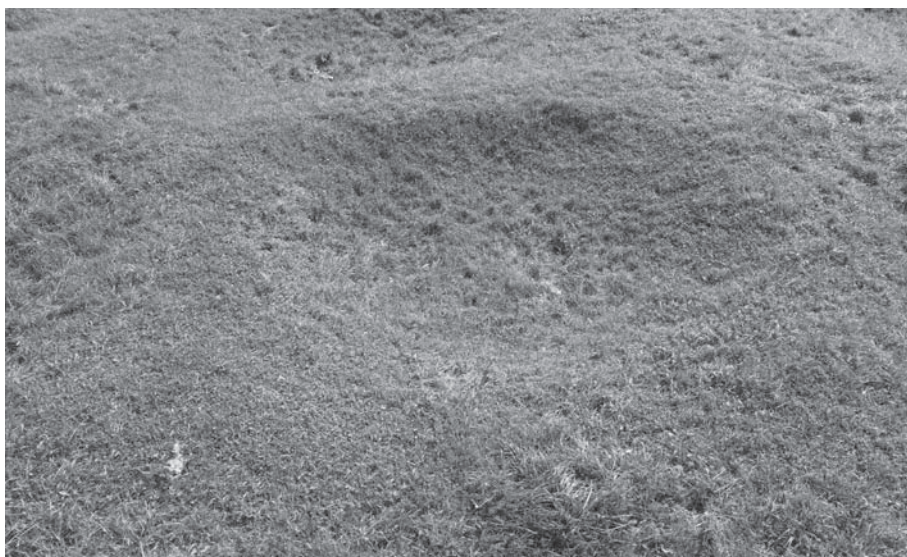
6 測量調査状況(2)



1 円形・規模極小 竪穴477 北東から



2 円形・規模小 竪穴143 北東から



3 円形・規模小一中 竪穴114 北東から



1 円形・規模小一中 竪穴450 北から



2 円形・規模中 竪穴105 北から



3 円形・規模中 竪穴206 北から



1 方形・規模小 竪穴486 東から



2 方形・規模小一中 竪穴286 北東から



3 方形・規模小一中 竪穴380 北東から



1 方形・規模中 竪穴251 北東から



2 方形・規模中一大 竪穴230 北東から



3 方形・規模中一大 竪穴368 北東から



1 方形・規模特大 竪穴223 北東から



2 方形・規模特大 竪穴412 南から



3 方形・規模超特大 竪穴314 南西から



1 多角形・規模中 竪穴350 西から



2 多角形・規模超特大 竪穴416 南東から



3 柄鏡形・規模中 竪穴189 北東から

# 報 告 書 抄 録

ふ り が な	じゅうよういせきかくにんちょうさほうこくしょ だいじゅうにしゅう							
書 名	重要遺跡確認調査報告書 第12集							
副 書 名	岩内町東山1 遺跡 湧別町シブノツナイ 竪穴住居群							
巻 次								
シ リ ー ズ 名								
シリーズ番号								
編 著 者 名	坂本尚史 中山昭大 田口 尚 藤井 浩							
編 集 機 関	北海道立埋蔵文化財センター指定管理者 公益財団法人北海道埋蔵文化財センター							
所 在 地	〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地1 TEL 011-386-3231							
発 行 年 月 日	西暦 2017年 3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ひがしやま いせき 東山1 遺跡  どうしていしせき (道指定史跡 いわないがしやまえんとう 岩内東山円筒 ぶんかいせき 文化遺跡)	ほっかいどういわないぐん 北海道岩内郡 いわないちやうあさひがしやま 岩内町字東山 ばんち 2番地1、 ばんち 14番地1、 ばんち 15番地、 ばんち 16番地1・2	01402	D-13-01	42度 59分 2.33秒	140度 31分 37.01秒	2014 1028 ～ 1112  2015 0723 ～ 0807	660㎡	詳細分布調査 (重要遺跡 確認調査) 平成28年度は 整理作業のみ
				東山15・16区				
				42度 59分 8.67秒	140度 31分 36.33秒			
				第2 地点地区				
				42度 59分 1.21秒	140度 31分 33.90秒			
				「史跡」地区				
シブノツナイ たてあなじょうきょぐん 竪穴住居群  どうしていしせき (道指定史跡 シブノツナイ たてあなじょうきょぐん 竪穴住居跡)	ほっかいどうゆうべつぐん 北海道湧別郡 ゆうべつちやうあさかわにし 湧別町字川西  499-1・2、930、 722-1・2・3、 720、719、503、 502-1・2、714、 717、718	01559	I-21-35	44度 14分 40.14秒	143度 34分 32.56秒	2016 0901 ～ 0922	139,486㎡ (史跡指定 範囲及び 測量範囲)	詳細分布調査 (重要遺跡 確認調査)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
岩内町 東山1 遺跡 (道指定史跡 岩内東山円筒 文化遺跡を 含む)	集落跡	縄文時代前期 ～中期	盛土遺構 2 竪穴住居跡 4 土坑19 柱穴状ピット 7 焼土12 (検出面確認分を含む)		土器 (円筒土器 下層式～上層式)  石器 (石鏃、北海道 式石冠、扁平打製石 器など)		平成26・27年度 発掘調査  平成28年度 整理作業	
湧別町 シブノツナイ 竪穴住居群 (道指定史跡 シブノツナイ 竪穴住居跡)	集落跡	擦文文化期 ほか	竪穴を527か所確認した。 竪穴は4～7 m規模の方 形を呈するものが主体で ある。				測量調査 (分布調査と 詳細測量)	

---

北海道立埋蔵文化財センター  
重要遺跡確認調査報告書 第12集

---

発行年月日 平成29年 3 月31日

編集 北海道立埋蔵文化財センター指定管理者  
公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

発行 北海道立埋蔵文化財センター

〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地1

TEL 011-386-3231 FAX 011-386-3238

URL <http://www.domaibun.or.jp>

印刷：社会福祉法人 北海道リハビリー

〒061-1195 北海道北広島市西の里507番地1

TEL 011-375-2116(代)・FAX 011-375-2115

---